

平成 23 年

農林水産業気象災害年報

平成 25 年 1 月

岩 手 県



## 目 次

### I 気象の概況

1	年間の気象概況	1
2	旬別の気象概況	1
3	主な気象データ	4

### II 農林水産物の生育状況

1	水稻	6
2	畑作物（小麦、大豆）	7
3	野菜（きゅうり、トマト、ピーマン、ほうれんそう、ねぎ、 キャベツ、レタス、だいこん）	8
4	花き（りんどう、小ぎく）	10
5	果樹（りんご、ぶどう）	11
6	飼料作物（牧草、とうもろこし）	13
7	特用林産物（乾しいたけ、まつたけ）	14
8	水産物（わかめ、こんぶ、ほたてがい、かき）	14

### III 農林水産業気象災害の発生状況

1	12月30日から1月2日にかけての大雪、暴風、波浪災害	15
2	1月20日の大雪災害	20
3	1月31日から2月2日にかけての大雪災害	21
4	3月9日の地震・津波災害	22
5	3月11日の東日本大震災津波	23
6	4月13日の強風災害	26
7	4月19日から20日にかけての大雪災害	26
8	5月2日の強風災害	27
9	5月8日の降雹、強風災害	28
10	5月14日の強風災害	30
11	5月16日の強風災害	30
12	5月30日の強風災害	31
13	6月23日から24日にかけての大雨災害	32
14	6月27日から28日にかけての大雨災害	35
15	7月23日の地震災害	36
16	8月20日の大雨災害	36
17	7月から9月にかけての暑熱災害	37
18	9月4日の台風12号による災害	39
19	9月21日から22日にかけての台風15号による災害	40
20	12月3日から4日にかけての強風、波浪災害	46

#### IV 主な農林水産業気象災害における対策等の概要

1	12月30日から1月2日にかけての大雪、暴風、波浪災害	47
2	3月11日の東日本大震災津波	49
3	6月23日から24日にかけての大雨災害	55
4	9月21日から22日にかけての台風15号による災害	56

#### V 参考資料

1	農林水産部災害対策実施マニュアル	58
2	農作物等気象災害防止対策本部設置要綱	73
3	農林漁業セーフティネット資金の概要	76
4	農業共済事業の種類と仕組み	77
5	漁業共済事業の種類と仕組み	79
6	森林災害復旧事業と被害地等森林整備事業の概要	82
7	森林国営保険の概要	83
8	農作物災害対策要綱	86
9	農作物災害復旧対策事業の実施状況	87
10	平成元年以降の農林水産業気象災害	90

# I 気象の概況

## 1 年間の気象概況

### 【天候の特徴】

- ・ 1月の低温、内陸南部を中心に大雪
- ・ 6月下旬の大雨
- ・ 7月の高温と早い梅雨明け
- ・ 9月の台風の影響による大雨
- ・ 11月の高温と小雨

1月は低温で経過し、内陸南部を中心に大雪となった。3月から4月にかけては気温の変動が大きかった。5月は台風や低気圧、6月下旬は梅雨前線の影響により、それぞれ降水量が多かった。7月上中旬に顕著な高温となり、7月下旬に一時低温となったが、8月前半、9月前半も再び高温となった。降水量は、7月と8月は沿岸部を中心に少なく、9月は台風と前線の影響により多かった。

梅雨入りは、6月21日頃と平年より7日遅く、梅雨明けは、7月9日頃と平年より19日早く、梅雨期間は18日間と、1967年の15日に次ぐ第2位の短い記録となった。

10月は気温の変動が大きかった。11月は上旬を中心に高温となり、小雨となった。12月は冬型の気圧配置となり、強い寒気が流れ込んだことにより低温となった。

なお、台風の発生数は21個で、平年の発生数(25.6個)を下回った。上陸数は3個で、そのうち本県へ影響を及ぼした台風は12号、15号(いずれも9月に接近)であった。

## 2 旬別の気象概況

### <1月>：低温、多照、内陸南部を中心に大雪

上旬：冬型の気圧配置が続き内陸を中心に曇りや雪の日が多く、沿岸では晴れの日が多かった。

1日は低気圧の影響で沿岸北部を中心に大雪となった。気温は期間の中頃から強い寒気の影響を受けたため、低温となった。

中旬：冬型の気圧配置が続いた。内陸を中心に曇りや雪の日が多かった。沿岸では晴れの日が多かったが、12日は低気圧の影響で大雪となった。上旬から引き続き強い寒気の影響を受け低温となった。

下旬：内陸を中心に雪の日が多く、大雪となる日もあった。31日の最深積雪は、湯田で210cm、北上で60cmとなり、それぞれ1月の最深積雪の1位を更新した。沿岸では晴れの日が多かった。気温は寒気の影響を受け、低温となった。

### <2月>：高温、多照、少雪

上旬：低気圧や気圧の谷が短い周期で通過し、内陸を中心に曇りや雪または雨の日が多かった。沿岸は晴れの日が多かった。

中旬：低気圧が短い周期で通過し、曇りや雪または雨の日が多かった。三陸沖を発達しながら北上した低気圧の影響により、12日は沿岸北部を中心に大雪、海上では大荒れとなった。

下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多かった。期間中は寒気の南下が少なく気温が高くなった。

### <3月>：内陸を中心に低温、気温の変動大、小雨

上旬：冬型の気圧配置となる日が多かった。内陸では曇りや雪または雨の日が多く、山沿いを中心に大雪となったところがあった。沿岸では晴れの日が多かった。期間の前半は、強い寒気の影響により気温は低くなった。

中旬：気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雪または雨の日が多かった。期間の後半は、強い寒気の南下により、一時的に冬型の気圧配置となる日があり、気温の変動が大きかった。

下旬：低気圧や気圧の谷、寒気の影響で内陸を中心に雪または雨の日が多かった。26日は低気圧が三陸沖を通過した影響により、沿岸北部で大雪となるところがあった。

### <4月>：気温の変動が大きい、下旬の多雨・寡照

上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多かった。気温は、期間の前半は寒気の影響で平年を下回り、後半は暖気の影響で平年を上回るなど変動が大きかった。また、空気の乾燥した状態が続き、6日の日相対湿度が宮古で4月としての1位を更新し、沿岸で林野火災が発生し

た。

中旬：高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、低気圧や前線などの影響により雨や雪となり、沿岸北部で大雪となるところがあった。気温は変動が大きかった。20日に岩手公園で桜の開花を観測した（平年より1日早い）。

下旬：低気圧や前線、気圧の谷の影響で雨の日が多かった。23日から24日にかけてと27日から28日にかけては、低気圧などの影響により、各地で大雨となった。29日に岩手公園の桜の満開を観測した（平年より4日遅い）。

#### **<5月>：多雨・寡照**

上旬：低気圧や前線、気圧の谷の影響で雨や曇りの日が多かった。1日から2日にかけては、低気圧の影響により、沿岸北部を中心に暴風となるところがあった。また、8日は寒冷前線の通過後に寒気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、奥州市で突風が発生し、農業施設等に被害があった。

中旬：期間の前半は、低気圧や気圧の谷の影響で雨や曇りの日が多く、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。期間の中頃は、上空の寒気の影響により大気の状態が不安定となる日があり、局地的に大雨となったところがあった。

下旬：前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かったが、中頃は高気圧に覆われ晴れの日もあった。30日から31日にかけては、台風2号から変わった低気圧の影響で大雨となるところがあり、沿岸では暴風や大しけとなるなど荒れた天気となった。

#### **<6月>：上旬と中旬の多照・小雨、下旬の大雨**

上旬：高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、大雨や雷雨のところがあった。期間の始めはオホーツク海高気圧が出現し、冷たく湿った東よりの風の影響で気温が低かった。

中旬：高気圧と気圧の谷が交互に通過し、天気は周期的に変わった。梅雨前線の影響は小さく期間中の降水量は少なかった。

下旬：梅雨前線の影響を受けることが多く、曇りや雨の日が多かった。23日から24日にかけてと26日から28日にかけては、梅雨前線が東北地方に停滞し、大雨となったところがあり、浸水害や土砂災害が発生した。24日の日降水量は西和賀町など5地点で6月として1位の値を更新した。

#### **<7月>：小雨・多照、早い梅雨明け、上旬・中旬の顕著な高温、下旬の低温**

上旬：高気圧に覆われ晴れの日が多かった。南から暖かい空気が入ったことや高気圧に覆われて、期間中の気温はかなり高くなった。

中旬：高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、期間の始め大気の状態が不安定となるところがあり、局地的に雷雨や大雨のところがあった。気温は、太平洋高気圧に覆われてかなり高くなった。

下旬：期間の前半は、オホーツク海高気圧の影響で沿岸を中心に曇りの日があったが、内陸は晴れの日が多かった。後半は気圧の谷や前線、湿った東よりの風により、曇りや雨の日が多かった。28日から30日にかけては前線の影響で内陸を中心に大雨なり、29日は土砂災害や浸水害が発生した。期間の始めと終わりを中心にオホーツク海高気圧の影響で低温となった。

#### **<8月>：前半の小雨・高温、中旬後半の大雨**

上旬：期間の前半は、オホーツク海高気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。期間の始めは低温となったが、その後は気温の高い日が続いた。

中旬：期間の前半は、高気圧に覆われ晴れて気温の高い日が多く、後半は前線や湿った東よりの風の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。17日から18日にかけて前線の通過により大雨となった。

下旬：期間の前半は、前線の影響を受け雨の日が続き、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

### <9月>：前半の高温、台風と前線の影響による大雨

上旬：台風12号の接近や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。2日から6日にかけては、台風12号の影響で南から湿った風が入り続けたため、大雨となった。

中旬：秋雨前線が東北地方に停滞したため、曇りや雨の日が多く、低気圧が通過した13日と18日は北部で、また、台風15号の影響で前線活動が活発化した20日は南部を中心に、それぞれ日降水量が50mm前後となったところがあった。期間の中頃は高気圧に覆われて晴れの日があり、真夏日となったところがあった。

下旬：期間の始めと終わりは、台風や気圧の谷、低気圧の影響により雨の日が多かった。20日から22日にかけては、前線や台風15号の接近で、大荒れの天気となり浸水害や山がけ崩れ害、強風害などが発生した。22日の日最大風速は、紫波など4地点で9月として1位の値を更新した。

### <10月>：気温の変動が大きい

上旬：期間の始めは、冬型の気圧配置となり曇りや雨の日があったが、その後は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。期間の前半を中心に強い寒気が流れ込み、気温がかなり低くなった。

中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、期間の中頃は、前線や低気圧の影響を受けて曇りや雨となった。

下旬：期間の前半は、低気圧や寒冷前線の通過と一時的な寒気の流入により曇りや雨の日が多く、22日は沿岸南部で20mm～40mmの降水量となった。後半は、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。期間の前半は南から暖かい空気が流れ込み、気温がかなり高くなった。

### <11月>：高温、小雨

上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多かった。気温は、3日をピークに7日頃まで暖気に覆われて平年より高い日が多かった。10日朝は放射冷却により各地で冷え込み、盛岡で初霜（平年より19日遅く、統計開始以来最も遅い記録）と初氷（平年より7日遅い）を観測した。

中旬：高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、中頃は冬型の気圧配置が強まり内陸では雨や雪の日が多く、盛岡では15日に初雪を観測した（平年より7日遅い）。

下旬：期間の始めから中頃にかけて、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は短い周期で変わった。また、暖かい空気が流れ込んだ期間の後半は、気温が上がり平年より5℃前後高くなったところもあった。

### <12月>：低温

上旬：低気圧や気圧の谷が数日の周期で通過し、その後冬型の気圧配置となった。沿岸北部では晴れの日が多かった。3日は低気圧が発達しながら三陸沖を北上した影響で、沿岸部を中心に大雨となった。

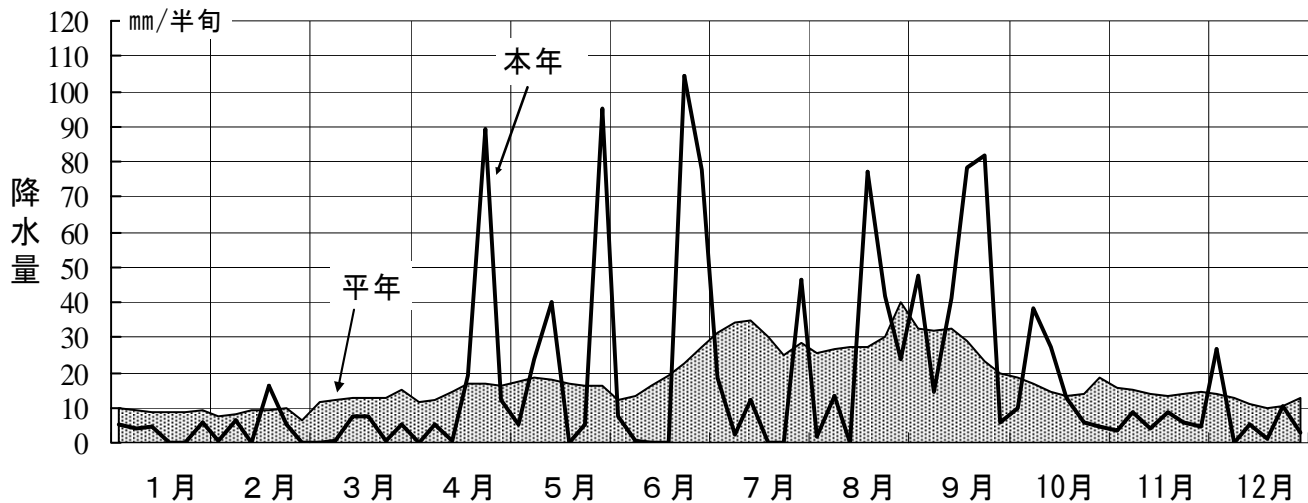
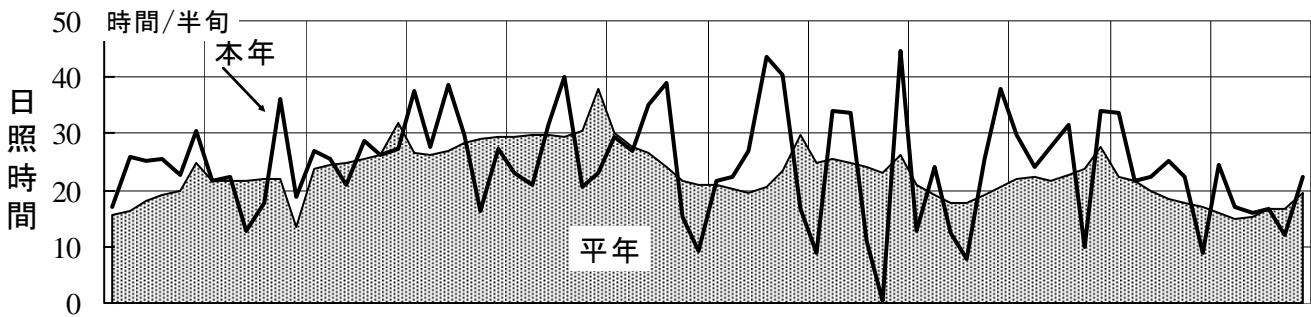
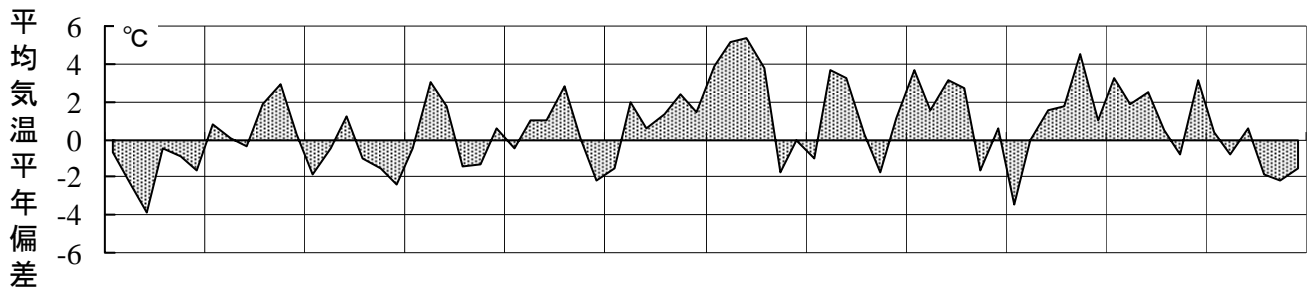
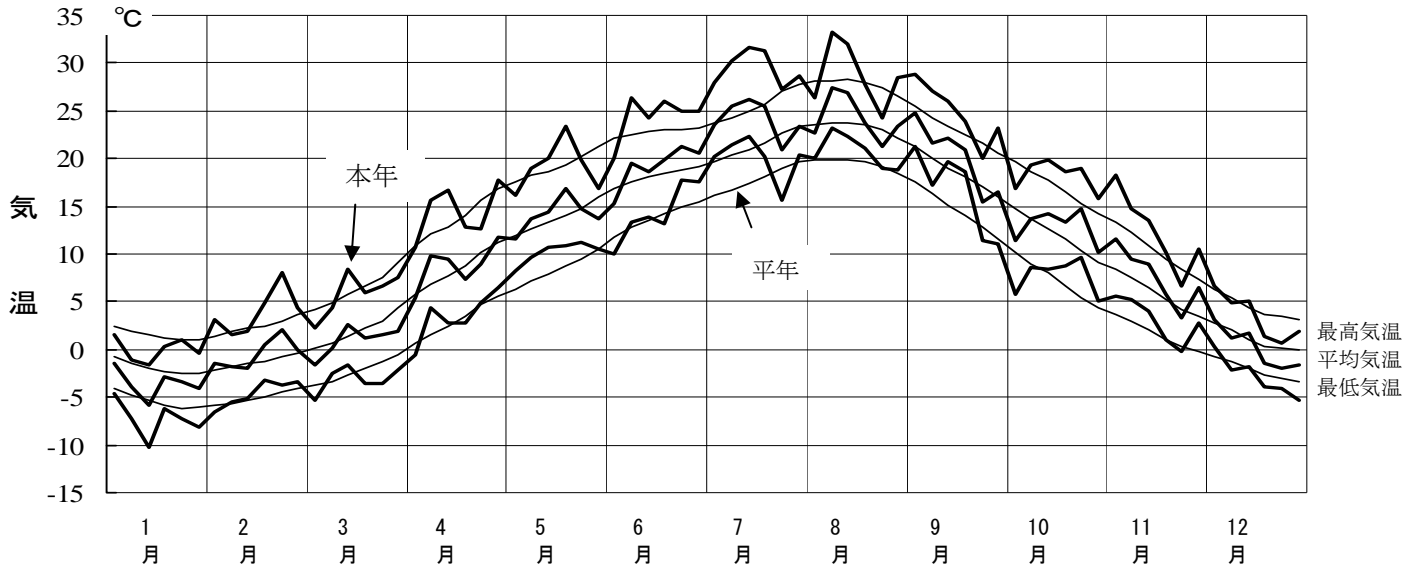
中旬：冬型の気圧配置が多かったため、内陸では曇りや雪の日が多く、沿岸部では全般に晴れの日が多かった。強い寒気が流れ込み内陸を中心に真冬日となるところがあった。

下旬：低気圧や寒冷前線が数日の周期で通過し、冬型の気圧配置が続いたため、内陸では曇りや雪の日が多く、沿岸部では晴れの日が多かった。23日から28日未明にかけてと、30日は強い寒気が南下し風雪が強まり、山沿いを中心に大雪となるところがあった。

### 3 主な気象データ

#### (1) 盛岡における気温、降水量、日照時間

2011年の気象経過 [旬別：盛岡地方気象台]





## (2) 終霜

気象官署	月 日	平 年	昨 年
盛岡	4月 18日	5月 3日	5月 2日

## (3) 梅雨入り、梅雨明け（東北北部）

	月 日	平年	昨年
梅雨入り	6月 21日頃	6月 14日頃	6月 16日頃
梅雨明け	7月 9日頃	7月 28日頃	7月 18日頃

## (4) 気象官署（盛岡、宮古、大船渡）における記録更新（第5位まで）

## ア 月平均気温

気象官署	月	記録(°C)	備 考
大船渡	1	-0.8	低い方から4位
大船渡	6	19.0	高い方から5位
大船渡	7	23.3	高い方から3位
盛岡	11	7.6	高い方から5位

## イ 日最高気温

気象官署	月 日	記録(°C)	備 考
大船渡	6月 30日	33.7	高い方から1位
大船渡	7月 10日	35.4	高い方から2位
盛岡	9月 20日	14.3	低い方から5位

## ウ 日最低気温

気象官署	月 日	記録(°C)	備 考
宮古	5月 20日	18.0	高い方から3位
大船渡	8月 11日	25.1	高い方から4位
宮古	9月 3日	24.1	高い方から3位
盛岡	9月 3日	23.5	高い方から5位
大船渡	9月 2日	23.9	高い方から3位
大船渡	9月 4日	23.6	高い方から4位

## エ 月間降水量

気象官署	月	記録(mm)	備考
盛岡	1	20.0	少ない方から5位
大船渡	1	8.5	少ない方から4位
盛岡	3	21.5	少ない方から2位
大船渡	8	30.0	少ない方から3位
盛岡	11	35.0	少ない方から2位

## オ 降雪の深さの合計

気象官署	月	記録(cm)	備 考
大船渡	1	23	多い方から5位

## II 農林水産物の生育状況

### 1 水稻（作況指数は「102」、1等米比率は94.3%）

活着は概ね良好であったが、5月下旬の低温・寡照で生育が停滞したことで、茎数は少なく推移した。6月以降は、好天で経過したことから生育は回復した。穂数は平年より少ないものの、一穂粒数はやや多く、総粒数は平年並みからやや少なかった。登熟期間の平均気温は平年よりやや高く、登熟歩合はほぼ平年並みであった。千粒重はやや大きく、作況指数は平年に比べやや良の「102」となった。

品質においては、うるち米の1等米比率は94.3%（平成24年2月末日現在）、主な落等理由は着色粒（斑点米カメムシ類）であった。

#### (1) 育苗期（播種盛期は平年に比べ5日遅い4月19日、苗質は概ね良好）

県全体の播種作業は震災の影響もあり、平年に比べ5日遅く行われた。育苗期の気温は、全般に低い日が多いものの育苗が全般に遅れたこともあり、苗丈は平年並み、風乾重／草丈はやや高く、苗質は概ね良好であった。

#### (2) 移植期～活着期（移植盛期は平年より3日遅く5月18日、活着は概ね良好）

県全体の移植作業は、平年より3日遅かった。移植後は好天に恵まれ、活着は概ね良好であった。

#### (3) 分けつ期（初期分けつの遅れで茎数少）

5月下旬の低温・寡照で初期生育が停滞したことで、茎数は少なく推移した。

6月以降は好天で経過し、生育は回復傾向となった。7月10日に各農業改良普及センターが実施した一斉生育調査（23カ所、延べ32品種）の結果、草丈は平年より長く（平年差3.6cm）、 $m^2$ 茎数はやや少なく（平年比85%）、葉数はほぼ平年並み（平年差+0.2枚）となった。

#### (4) 本田生育期の土壌と稲体栄養（地上部乾物重並・窒素吸収量並）

3～4月の降雨は平年より少なく、気温は低いことから乾土効果は少なく、6月までの土壌中のアンモニア態窒素濃度は全般に平年並みからやや少なく、幼穂形成期の土壌中アンモニア態窒素濃度は平年並みであった。乾物重は幼穂形成期頃の乾物重はほぼ平年並まで増加し、稲体窒素濃度は平年並みであったことから、地上部窒素吸収量は平年並みであった。なお、7月が高温で経過し、幼穂形成期までに土壌窒素が吸収され葉色が低下してくる圃場が散見されたことから、葉色に注意しながら、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」、「いわてっこ」は基準量N1～2kg/10aを上限に、また、「どんぴしゃり」は、幼穂形成期にN2kg/10aを追肥するよう指導した。

#### (5) 幼穂形成期～出穂期（出穂盛期は平年並の8月7日）

幼穂形成期は平年並みの7月11日、減数分裂期は平年並みの7月26日、出穂期は平年並の8月7日となった。7月中旬は少雨で経過し、県南では用水の使用制限を行い、用水の均等分配に努めた地域もあった。用水不足となったこともあり、草丈、稈長がやや短い圃場が散見された。7月下旬の低温により草丈の伸長は緩慢になったが、出穂・開花は概ね順調であった。6月から7月が高温で経過したため、カメムシの世代交代が早まり、発生量も多い事が予想されたので、8月1日に警報発令した。

#### (6) 登熟期～成熟期（登熟歩合は平年並み）

登熟期間の平均気温は平年よりやや高く、登熟歩合は平年並みであった。成熟期は平年に比べ4日早まった。稈長・穂長は平年並となり、倒伏も平年並みであった。

#### (7) 刈取り期（刈取り盛期は平年より2日遅い10月5日）

収穫期に雨が多かったことと放射性物質調査の影響により、作業はやや遅れ気味で進行的た。刈取り盛期は平年より2日遅れた。

#### (8) 収量（作況指数102）

5月下旬の低温の影響が残り穂数は平年より少ないものの、一穂粒数は平年よりやや多く、

1㎡当たりの総粒数は平年並からやや少なかった。また、登熟期は平年より高温で経過したため、登熟歩合は平年並みで、千粒重はやや大きかった。これらにより、作況指数は県全体で「102」のやや良となった。

玄米の長さ、幅は大きく、千粒重はやや大きかったが、粒厚はやや薄く、1.9mm以上の割合は平年に比べやや少ない。粒厚1.7～1.9mmの割合は平年より多かったことから、作況指数（1.7mm篩収量）「102」に対して、1.9mm篩収量は平年に比べやや少ない収量となった。

#### (9) 品質（1等米比率94.3%。落等原因1位は斑点米カメムシ）

平成24年2月末日現在、うるち米の1等米比率は94.3%であった。2等以下に格付けされた主な理由は、「着色粒(カメムシ類)」が61.5%、「整粒不足」が15.1%、「心白・腹白」が7.6%などで、斑点米カメムシによる着色粒が落等の主な原因となった。

品種別では、「ひとめぼれ」の1等米比率が95.6%、「どんぴしゃり」が89.2%、「あきたこまち」が93.4%、「いわてっこ」が89.7%となった。

#### (10) 病害虫の発生（斑点米カメムシ類多（斑点米やや少ない）、葉いもち・穂いもち少）

葉いもちは広域的な発生が確認できず、全般発生開始期は不明であった。7月以降の発生量は平年より少なかった。上位葉における葉いもちの発生も平年より少なく、穂いもち発生量も平年より少なかった。

斑点米カメムシ類については越冬世代からカメムシの発生が多く、8月下旬の発生圃場率は平年に比べ高かった。斑点米被害は平年に比べると多かったが、8月1日の警報発令で防除の意識が高まり、昨年よりは少なかった。

## 2 畑作物

### (1) 小麦

#### ア 23年産小麦（22年播種）

##### (7) 越冬前

播種は概ね適期に行われ、播種後の好天により出芽は良好であったが、播種後に一時低温が続いたため、越冬前の生育は平年並みから平年よりもやや劣った。

##### (イ) 越冬後

根雪期間は、北上市で78日（平年よりも15日長い）、軽米町で76日（平年よりも11日長い）となった。雪腐病は県北部を中心に発生が見られたものの、枯死に至る株は少なく、発生ほ場率は平年より低かった。

##### (ウ) 生育期

融雪後の3月から4月に低温が続いたことから、生育の遅延が生じた。このため、茎立ちが遅れ茎数の増加が緩慢であった。

##### (イ) 出穂～収穫

出穂・開花は平年より遅れたものの、5月中旬以降の高温と降雨の影響により一部の地域、品種では生育量が旺盛となり、倒伏がみられる圃場もあった。6月下旬から7月初旬の降雨の影響により、収穫始期は平年よりも5日程度遅れたが、その後の好天により収穫の終期は平年並みとなった。また、6月下旬の大雨により県南部の一部で穂先まで浸かる冠水があったが、収量・品質への影響は小さかった。

成熟期の生育・収量に関しては、登熟期前～中期の高温・乾燥の影響により、一部の品種で粒の充実が劣ったものの、全般的には登熟が良好に進み、粒重は平年並みからやや上回った。穂数は平年並みからやや少なかったものの、一穂粒数は平年よりも多かった。県の平均単収は過去5カ年平均をやや上回る177kg/10aであった。

##### (オ) 病害の発生

萎縮病類の発生は平年よりも少なかったが、例年発生の見られる地域では、株全体が黄化している圃場もあった。赤さび病、うどんこ病の発生は、平年よりも少なかった。赤かび病の発生は平年よりも少なかったが、開花期に降雨にあった県中南部では、収穫

期直前になって発病穂が目立つ圃場もあった。

表1 小麦の品種別検査成績（平成24年1月23日現在）

品種名	区分		23年産	品種名	区分		23年産
ナンブコムギ	検査数量(t)		3,642	ゆきちから	検査数量(t)		2,379
	等級 比率 (%)	1等	81.6		等級 比率 (%)	1等	94.7
		2等	17.1			2等	5.0
		規格外	1.3			規格外	0.3

#### イ 24年産麦（23年播種）

降雨や水稲収穫作業の遅れにより、播種作業は平年よりも5日程度遅れたが、播種後の生育は概ね順調である。

### (2) 大豆

#### ア 播種～開花期

田植え遅れの影響により播種期は平年よりもやや遅れたが、播種後の好天と適度な降雨の影響により出芽は概ね順調であった。ただし、6月下旬に大雨があり、この時期に出芽期を迎えた地域では、出芽不良となる圃場も散見された。

6、7月を通して気温が高く経過したことから、開花は平年よりもやや早かった。主茎長は平年並み～平年よりも長く、蔓化傾向の圃場も見られた。

#### イ 開花～収穫期

「リュウホウ」、「スズカリ」は、開花期から成熟期にかけて平均気温が平年を上回ったことにより登熟が促進され、成熟期が平年よりも早くなったが、成熟までの温度がさらに必要な「ナンブシロメ」では、9月中旬から10月上旬にかけての多雨により、茎水分の低下および落葉の進行が緩慢となった。さらに、この期間の平均気温が平年を下回ったことにより、成熟が平年よりも遅れた。

収穫は10月下旬頃から始まり、断続的な降雨の合間をみて刈取りが進められた。

#### ウ 病害虫の発生

虫害については、一部の地域（盛岡、奥州、遠野）でネキリムシの被害により欠株が発生し、播き直しをする地域もあった。食葉性害虫・アブラムシは、例年並みに発生が確認された。ウコンノメイガによる葉巻は、発生程度は低いものの、広く発生が確認された。

病害については、9月から10月にかけての登熟期後半に入り、黒根腐病による立枯れ症状や、茎疫病による枯れ上がりが各地域で散見された。紫斑病の発生は平年並みであった。

#### エ 収量及び品質

6月から7月にかけての高温により、初期生育が旺盛となったことから主茎長および分枝数は平年をやや上回り、粒の充実も良好であったが、一莢内粒数が平年より少なかったことから、農業研究センター（北上市）作況圃場の「ナンブシロメ」で30.8kg/a（平年比104）と、ほぼ平年並みの収量となった。品質については、障害粒の発生が比較的少なく、平年並みとなった。また、県南部の一部では、9月下旬の大雨の影響により葉先まで冠水し、茎葉や莢への泥の付着や倒伏により収穫不能となる圃場も見られた。

### 3 野菜

#### (1) きゅうり

露地普通作型の定植は、低温の影響により遅れた。その後、少雨乾燥傾向が続いたことにより障害果の発生が見られたほか、降雨と気温回復に伴い出荷量が増加するなど、出荷数量の変動が激しい年であった。特に7月下旬の低温の影響により8月上旬の出荷量が極端に減少した。9月下旬の台風襲来によりほぼ夏秋作型は終了となった。

病害虫では、7月上旬からべと病が増加し、7月下旬から8月上旬には褐斑病、炭そ病が増加したほか、8月に入ってからホモプシス根腐病の発生も増加傾向だった。

なお、こうした気象経過でも、かん水設備を備えた圃場では、草勢を維持することができ、10月まで継続して収穫が行われた。

収量は高温乾燥年だった昨年を上回り105%となったが、全体出荷量は前年比95%となった。

## (2) トマト

震災による停電等の影響により育苗時の生育や作業が遅れた。さらに、定植時期の低温等により半促成作型は全般に5～7日程度遅れて出荷開始となった。雨よけ作型は天候の回復により2～3日程度の遅れで出荷開始となり、7月中旬に1回目の出荷ピークとなった。しかし、6月後半から7月中旬までの高温により生長点の萎れや落花が発生したが、一転して7月下旬は低温に転じたことから生育・着色の停滞、裂果が多発した。無加温作型の出荷ピークは10日ほどずれ込んで8月中旬となったが、例年どおり9月にはほぼ出荷終了となった。

病害虫では、7月に灰色かび病が多発したほか、高温期には青枯病、萎凋病の発生が見られた。昨年ほどではないが、7月中旬以降オオタバコガの発生も多く見られた。

収量は高温乾燥年だった昨年を上回る107%、全体出荷量も前年比105%となったが、例年並みの収量水準には届かなかった。

## (3) ピーマン

震災の影響で育苗等の作業、苗配布が遅れるとともに、4月の低温により、育苗中、定植後の活着、初期生育が、全般に停滞傾向となった。その後、6月にかけて生育は回復傾向であったが、雨よけ作型では6月の乾燥により尻腐れ果が多発したほか、露地作型では圃場の乾燥や風によるすれ等による生育不良も見られた。7月以降は雨よけ、露地作型ともに高温乾燥による落花、果実の日焼けが発生し、特に8月下旬から9月上旬は尻腐れ果が増加した。9月中旬以降は、気温の低下や収穫作業の遅れから赤果が多く見られた。9月下旬の大雨、台風後は出荷量が減少した。

病害虫は、タバコガが7月以降多発したが、大発生した昨年に比べると被害は少なかった。高温期には、雨よけ作型の一部で青枯病やうどんこ病が多発、8月以降草勢の低下とともに、斑点病が全域で発生し、以後10月まで多発傾向となった。

全体出荷量は高温乾燥年だった昨年を上回り102%となったが、収量は障害果の発生などで伸び悩み昨年比98%であった。

## (4) ほうれんそう

冬期間の降雪による圃場準備の遅れや春先の低温により、5月前半まで生育・出荷の遅れによる萎れや生育不良、葉先枯れ症状が各地で発生したほか、7月前半の高温により発芽後の高温障害や生育後半の生育不良が発生したが、7月下旬の低温により生育は回復した。8月に入ると再び高温の影響が見られたが、高温対策への取組が拡大したことにより8月から9月前半の出荷量は前年を大幅に上回った。9月中旬から下旬の長雨・台風の影響により湿害が多く発生した。

病害虫では、6月以降萎凋病が発生したが、土壌消毒を実施した圃場の多くでは発生が抑えられた。その他、ケナガコナダニの被害が広く発生したほか、使用殺虫剤が変更されたことによりアブラムシの発生が見られた。昨年広く大発生したシロオビノメイガは部分的な発生にとどまった。

## (5) ねぎ

春先の低温や降雨の影響から圃場準備が遅れ、定植がやや遅れた。定植後は乾燥や土寄せ作業の遅れも見られ、8月の出荷量は少なめとなった。9月から本格出荷を迎えたが、長雨の影響と稲刈作業との重複から出荷量は伸び悩んだ。さらに、台風15号の影響で倒伏・冠水被害も発生し、9月の出荷量は大幅に減少した。10月は遅れていた収穫が一斉に進んだ上、面積の拡大もあり出荷量は前年を上回った。

## (6) キャベツ

県北部では例年より雪解けが遅く定植が1週間ほど遅れた。その後の生育は比較的順調に進んだものの、例年に比べ1週間遅れで収穫開始となった。7月から8月は一部で

乾燥や降雨の影響によるカルシウム欠乏症や生育遅れが見られたものの、生育は概ね順調に推移した。9月後半以降は連続した降雨や日照不足等の影響から生育が緩慢となり小玉傾向となった。

コナガの発生は例年よりも多発気味だったほか、高温期には軟腐病、腐敗病が発生し、9月以降は例年に比べてべと病が多発傾向であった。

#### (7) レタス

県央部の春レタスは、天候不順による圃場準備の遅れや低温、乾燥の影響から生育が遅れた。収穫は平年並の5月中旬から始まり、6月中旬まで続いたが、全般に小玉傾向であった。

県北部の定植は、平年よりやや遅れて4月中旬から始まったが、その後の降雨等の影響によりさらに定植作業が遅延した。収穫も平年より遅れて6月上旬から開始された。6月には乾燥による小玉傾向、7月～8月は降水量の地域差から、多雨地域では腐敗性病害の発生、少雨地域では小玉傾向と作柄が不安定であった。また、9月後半には全般に連続した降雨による病害、腐敗の発生があり、10月に入って急激な気温の低下により肥大が進まず、例年より10日程度早く切り上がる圃場が多かった。

春先のナモグリバエは例年に比べて少発生であり、昨年多発したオオタバコガは7～8月にかけて多発したものの、防除の徹底により被害は少なかった。

#### (8) だいこん

高冷地での播種作業は低温や強風の影響から、やや遅れて5月に入ってから開始された。5月下旬に強い低温があったが抽だいはなく、生育は比較的良好であった。

8月以降、キスジノミハムシの被害が多発し、9月下旬頃まで被害の多い圃場が見られた。

### 4 花き

#### (1) りんどう

##### ア 生育始期

3月から4月にかけて気温が低く推移したこと、地域によっては雪解けが遅れたことにより、萌芽・展葉期は平年に比べ数日から1週間程度の遅れとなった。

##### イ 生育期

5月中旬以降は好天に恵まれ生育は回復し、草丈等の生育量は概ね平年並みとなった。しかしながら、7月中旬の高温はりんどうの生育適温を超える気温となり、着蕾後の生育が一時的に停滞した。

##### ウ 開花期

地域により差が見られたが、7月下旬から8月初めにかけての低温と8月上～中旬の高温が開花遅れの要因となった。早生種は昨年ほどではないものの平年に比較して5～10日遅れる結果となった。また、花卉に脱色が生じる高温障害が多発した。

9月以降も気温はやや高めに推移したものの、昨年のような遅れはなく、晩生種は平年並みから若干遅れる程度の開花となった。

草丈は、早生種で低めの傾向にあったが、その他は平年並みから平年を上回る生育となった。

##### エ 病害虫

病害の発生は、総体的に平年並みであり、特に問題となるものはなかった。主要病害である葉枯病、褐斑病の発生は低く抑えられ一部で炭疽病、茎枯病の被害が見られた。また、県南地域では近年の傾向として黒斑病の発生が増加傾向にある。

害虫は、昨年ほどではないもののリンドウホソハマキが高温気象の影響により多発傾向となった。ハダニ類は6月下旬以降から増加し平年並みの発生量となった。昨年からの問題となっているオオタバコガの被害が各地で散見された。また、新たな害虫としてキオビトガリメイガによる被害が県内で初めて確認された。

## (2) 小ぎく

### ア 育苗・定植期

3月は低温で推移したため、挿し穂の生育の遅れに伴い、育苗の遅れや苗の数量不足が生じた。また、4月後半が低温・多雨で推移したため、8月咲品種の定植はやや遅れ気味となった。しかし、5月以降は天候に恵まれ、9月咲品種の定植は順調に進んだ。

### イ 生育期

初期生育の遅れが見られたものの、5月中旬以降は天候に恵まれ生育は順調に推移した。8月咲品種の着蕾が7月上旬から中旬に確認されたが、平年並みから若干の遅れとなった。

### ウ 開花期

りんどうと同様に7月下旬から8月初めにかけての低温による生育停滞と8月上、中旬の高温の影響による開花遅延が見られた。しかしながら、昨年ほどの開花遅延には至らず、盆需要期の出荷は平年との比較では若干の遅れから平年並みとなった。

9月咲品種の開花についても同様に平年並みから若干遅れた開花となったが、彼岸需要期には概ね間に合う出荷となった。

### エ 病害虫

生育前半には白さび病の発生やハモグリバエ類の被害が見られたが、主要病害である白さび病の発生は、生育期間全般を通じて少なめに推移した。

害虫ではハダニ類が全般的に平年並みの発生となった。昨年防除に苦慮したオオタバコガについては7月に入り各地で発生が確認され、フェロモントラップによる調査では8月中旬以降増加が確認された。被害は各地で見られたものの、昨年に比較して少ない発生量であったことや昨年の経験を踏まえ対策が講じられたことにより、大きな被害には至らなかった。

## 5 果 樹

### (1) りんご

#### ア 花芽の状況

平成23年産りんごの花芽の状況を花芽率（県平均）で見ると、平年、昨年、一昨年をより低く、また園地によってバラツキが大きかった。前年7月の花芽形成期の高温が大きな要因と考えられるが、前年4月の低温で開花が遅れたことによる摘果作業の遅れ、それに伴う着果過多、さらに、夏から秋にかけて高温で経過したことから、早生や中生の赤色品種では着色不良、「ふじ」では蜜入りが遅れたことによる収穫作業の遅れなど栽培管理面も一因と考えられる。

#### イ 発芽～展葉期

4月初旬まで気温の低い状態が続き、発芽は県平均で2～3日程度、昨年より1～2日程度遅くなった。

展葉期は、4月中旬以降気温が低く推移したものの、4月上旬に気温が高くなる日もあり、展葉は平年より2～3日遅い程度で維持された。一方、昨年より2～3日早まった。これは昨年のこの時期の気温の低下が著しかったためである。

#### ウ 開花期および結実の状況

4月中旬以降の低温により、開花は県平均で平年より5日程度遅くなった。気温低下が著しかった昨年よりは1日程度早くなった。地域別にみると、気温の低下が緩やかであった沿岸地域の開花は平年より3日程度の遅れであった。

結実状況を県平均の「ふじ」の結実率で見ると、平年や昨年を上回った。「ふじ」以外の品種では、「つがる」、「ジョナゴールド」とも平年を上回った。しかし、花芽率が地域、園地によりバラツキがあるため、果実品質や収量等に影響がみられた（後述）。

なお、5月8日に奥州市を中心とした地域で降霜が確認され、りんごに被害が認められた。

## エ 果実肥大

生育初期の果実肥大は、開花期が遅れた影響で、横径が平年比 70%（6月1日時点）と小さめのスタートとなった。6月以降は気温が高く推移したため、8月下旬時点では「ふじ」と「つがる」で平年並み、「ジョナゴールド」で平年比 97%（8月21日時点）まで回復した。

今年の夏は昨年ほどではないが気温は高く推移し、7月下旬、8月下旬に気温が低下する日もみられたが、特にも9月までの最低気温は平年より高く推移した。

なお、生育期の雹害については、6月10日に一関地域で降雹を確認し、果実に被害が発生した。

## オ 収穫期および果実品質

「つがる」の収穫期の果実糖度は平年より高くなった。硬度、デンプン反応は9月1日までは平年より高く推移したものの、気温が高めに推移したため9月11日時点では成熟が進み平年を下回った。一方、8月下旬以降、日照時間が少ない状態が続いたため、着色は進まず、結果的に果肉先行型となった。収穫期のピークは9月中旬であり、台風15号（9月21日襲来）の影響により収穫作業は進んだ。

「ジョナゴールド」の果実品質は9月中下旬に降水量が多かったため糖度は平年並みとなったが、硬度、デンプン指数は平年より高く推移した。これは開花が平年よりやや遅れたこと、10月以降も果実肥大がみられ、熟度が進まなかったためと考えられた。一方、10月に入り、気温は低下し、日照時間も増加したため着色は進んだが、デンプンと地色の抜けが悪く、収穫期のピークは10月中旬から下旬と収穫作業は遅れた。

「ふじ」の果実品質は糖度、硬度、デンプン反応とも平年より高く、これは開花の遅れによるものと考えられる。一方、蜜入りは昨年同様、平年より少なく、夏季の高温の影響や10月中旬以降気温が高く推移したこと、熟期の遅れなどが要因と推察される。また、花芽率が低く、弱い花芽が多かったことから、生育不良果の発生が多かった。

いずれの品種もサビ、果点の荒れ等の発生が目立った。また、ビターピットの発生が多く、これは6月上旬、7月上旬、8月上旬と極端に降水量が少ない時期があったことが要因と考えられる。

なお、収穫期の強風害では、9月21日の台風15号及び10月7日と12月4日の低気圧による強風により落果や倒木の被害が認められた。

## カ 病害虫

収穫期になり、輪紋病や炭そ病、黒点病など果実病害が散見されたが、全体的に病害の発生は少なかった。また、例年多発するハダニ類についても一部地域を除き発生は少なかった。一方、枝幹害虫であるヒメボクトウによる被害が県中南部を中心に目立った。

## キ 作柄評価

生産量は、全農岩手県本部の取扱実績（平成24年1月末時点）から、数量で前年対比 83%と減収となった。これは、花芽率が低く着果量が確保できなかったこと、また、花芽の状態も悪くサビや果点の荒れが目立ち品質が劣ったこと、ビターピットなど果実障害が発生したことが原因と推察される。

販売単価については、前年比 100%と同額であり、全国的に収量が少なく、流通量が少ないためと考えられる。

## (2) ぶどう（キャンベルアーリー）

### ア 発芽期～展葉期

4月中下旬の低温により紫波町赤沢の定点調査地点で、発芽期は平年と比較して6日、昨年より4日程度遅くなった。5月に入り気温が高い日があったため、展葉は平年より2日の遅れとなり、やや回復した。

### イ 開花期～結実期

6月以降は気温が高めに推移したため、定点観測地点の満開期は概ね平年並となった。結実率は、平年をやや下回った。これは、6月の開花期間中における新梢の伸長が旺盛に



なったことにより、花震いが発生したためと考えられる。

#### ウ 新梢伸長期

新梢生育は、発芽・展葉の遅れから、5月25日の調査開始時点では、平年の76%という遅いスタートであったが、6月以降の高温により、6月15日時点で平年並まで回復した。

果粒肥大は、7月上中旬の干魃の影響により一時停滞する時期も見られたが、ほぼ平年並みの肥大となった。

#### エ 収穫期

高温の影響により8月上旬時点で果実の着色始は平年より遅く着色の進みも緩慢だったものの、糖度上昇は例年より早かった。

収穫期の果実品質は、概ね平年並み、糖度は平年よりやや高くなった。8月下旬以降の降雨により、品種により裂果や着色の遅れ等もみられたが、収穫期は概ね平年並みからやや早い程度であった。

#### オ 落葉期

10月中旬の気温が低めで経過したものの、落葉は平年並だった。

新梢の登熟程度は、全般に日照に恵まれたため、概ね平年並みだった。

#### カ 病害虫

病害虫の発生は全体的に少なかったが、地域や品種によって、灰色かび病の発生が見られた。

#### キ 作柄評価

生産量は、系統取り扱いの出荷販売実績から、前年比109.5%の数量となった。これは、収穫直前の降雨により一部品種で裂果はみられたものの、生育期の高温などどうの生育には好条件であったためと推測される。

販売単価については前年比98%であり、概ね平年並みが維持された。

### 6 飼料作物

#### (1) 牧草

##### ア 1番草

4月の低温・日照不足・消雪遅れにより、生育はやや遅れ気味であったが、その後の高温により、5月下旬には平年並みの生育となった。5月下旬に降雨が多く、収穫開始が遅れたが、6月上旬の連続した好天により作業が順調に進んだ。収量は平年並～やや少なくなった。

##### イ 2番草

一番草刈取り後の高温と少雨で若干生育が遅れたが、その後の降雨により生育が回復し、7月中旬から収穫が始まった。その後も好天により作業は順調に進んだ。収量は平年並であった。

##### ウ 3番草

県南地区は8月下旬の少雨・低日照により、生育はやや不良となり、収量は平年並～やや少なくなった。県北地区の生育は平年並みで、収量は平年並み～やや多くなった。9月中旬の連続した降雨により全地域で収穫作業がやや遅れた。

#### エ 草地更新

9月中旬の連続した降雨により草地更新の作業がやや遅れた。

#### オ 局地的に生じた障害等

8月上旬に、住田町の一部高標高地域でイナゴによるイネ科牧草の食害が発生した。

## (2) とうもろこし

### ア 播種～生育・出穂期

4月の低温による消雪遅延、5月下旬の連続した降雨により、播種作業が遅れたが、その後の高温により、6月下旬には平年並みの生育となった。

雄穂、絹糸の抽出は平年並みであった。

### イ 収穫期

黄熟期の到達は平年並みであったが、9月中旬の連続した降雨や台風の影響で収穫作業の開始が若干遅れた。

収量は平年並～やや多くなった。

### ウ 局地的に生じた障害等

台風15号により、久慈市、洋野町、岩泉町、滝沢村、遠野市、金ヶ崎町で倒伏折損被害が生じた。

## 7 特用林産物

### (1) 乾しいたけ

春先は、曇りや雪または雨の日が多く低温が続いたため、芽切りは平年より遅かったが、ホダ場やホダ木の水分が比較的豊富であったことから、5月の連休明けには気温の上昇とともに発生が進んだ。その結果、昨年より多い生産量となった。

### (2) まつたけ

気温は6月以降、平年より高めに推移し、降水量も7～8月は平年より少なかった。9月の発生期になっても気温が高めであったことから、作柄は全体的に不作であった。

## 8 水産物

### (1) わかめ (H23年産わかめ)

芽出し期にあたる平成22年9月から11月の沿岸域の表層水温は、9月と10月は平年より高めであったが11月は平年並みとなり、種苗の芽落ちなどは見られず概ね良好な生育状況であったが、東日本大震災津波によって養殖わかめは、ほぼ壊滅状態となった。

### (2) こんぶ

種苗の沖出し時期である平成22年11月から12月の沿岸域の表層水温は、ほぼ平年並みであり、種苗の生育は概ね良好であったが、東日本大震災津波によって養殖こんぶは、ほぼ壊滅状態となった。

### (3) ほたてがい

東日本大震災津波によってほぼ壊滅状態となり、養殖施設の復旧や種苗購入により一部で養殖が再開されたが、本格的な生産には至らなかった。

なお、沿岸域の表層水温は、1月から4月はほぼ平年並み、5月から7月は平年より高め、8月から12月はほぼ平年並みで推移した。

### (4) かき

東日本大震災津波によってほぼ壊滅状態となり、養殖施設の復旧や種苗購入により一部で養殖が再開されたが、本格的な生産には至らなかった。

### Ⅲ 農林水産業気象災害の発生状況

#### 1 12月30日から1月2日にかけての大雪、暴風、波浪災害

##### (1) 気象概況

平成22年12月31日、秋田県沖の低気圧が発達しながら東北地方を通過し、三陸沖に進んだ。一方、関東の東海上の低気圧が発達しながら日本の東海上に進み、また別の低気圧が三陸沖に発生した。平成23年1月1日には、これらの低気圧が一つにまとまり発達しながら日本の東海上を東進し、北日本は強い冬型の気圧配置となった。

低気圧の通過、接近の影響により県内は沿岸を中心に大雨、その後は北部山沿いを中心に湿った雪による大雪となった。31日の降雪量は、葛巻87cm、一戸町奥中山83cm、八幡平市岩手松尾69cm、宮古市区界56cmなど8地点で、12月として（一戸町奥中山と八幡平市岩手松尾は年としても）1位の値を更新した。この雪は、翌1月1日にも北部を中心に降り続き、最深積雪は一戸町奥中山や葛巻など7地点で、12月または1月として（葛巻は年としても）1位の値を更新した。また、31日に降った雨や雪による日降水量は、岩泉167.5mm、盛岡市好摩99.0mm、葛巻96.0mm、八幡平市岩手松尾85.5mm、八幡平市荒屋63.0mmの5地点で、12月として1位の値を更新した。

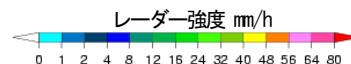
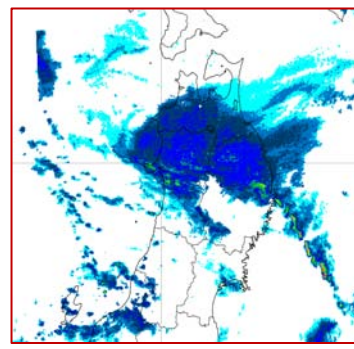
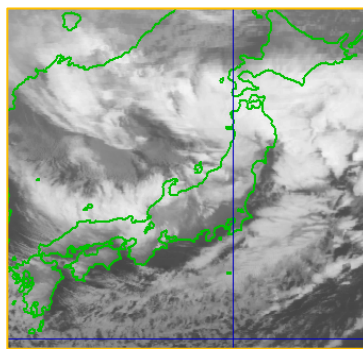
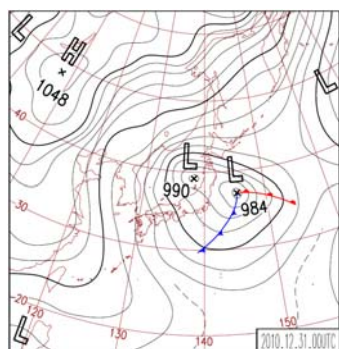
一方、31日朝から風が次第に強まり、31日の日最大風速は宮古14.9m/s、岩泉町小本16.9m/s、日最大瞬間風速も宮古25.0m/s、岩泉町小本29.0m/sを観測した。海上では、12月30日から1月1日にかけて雪を伴って暴風となり、波の高さは8メートルを超える大しけとなった。

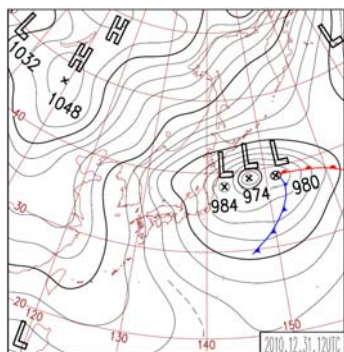
県内各地で土砂災害や浸水害、強風害などのほか、農作物や農業施設、倒木や林業施設などの林業被害が発生した。また、沿岸や海上では波浪や高潮による養殖施設や漁港施設などの水産業被害が発生した。

#### ○関連する警報・注意報の発表状況（平成22年12月30日～平成23年1月1日）

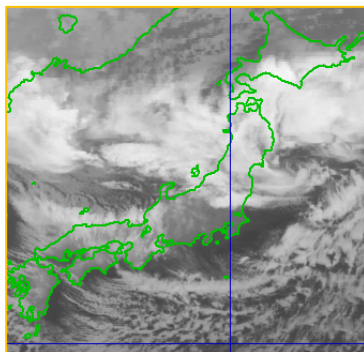
地域	警報	注意報	地域	警報	注意報
盛岡地域 二戸地域 遠野地域	大雪	大雪、なだれ、風雪 着雪、雷	沿岸北部	大雨、大雪、暴風 暴風雪、波浪	大雨、大雪、洪水、強風、なだれ 風雪、着雪、雷、波浪、高潮
奥州金ヶ崎地域 両磐地域	—	大雪、なだれ、風雪 着雪、雷	沿岸南部	暴風、暴風雪 波浪	大雨、大雪、洪水、強風、なだれ 風雪、着雪、雷、波浪、高潮

#### ○地上天気図、気象衛星赤外画像、レーダー画像（平成22年12月31日09時～平成23年1月1日09時）

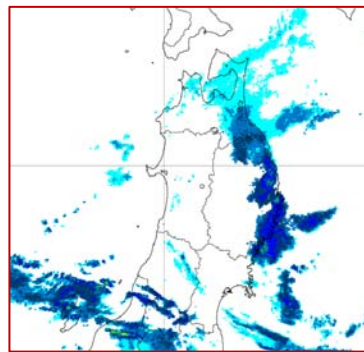




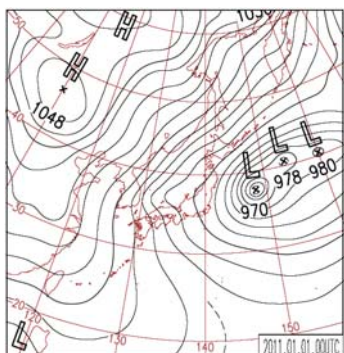
地上天気図 12月31日 21時



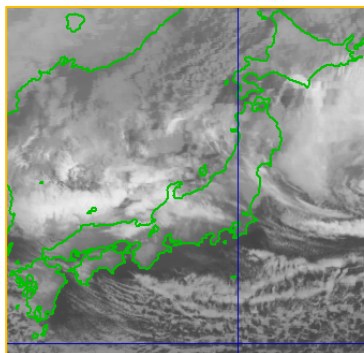
気象衛星赤外画像 12月31日 21時



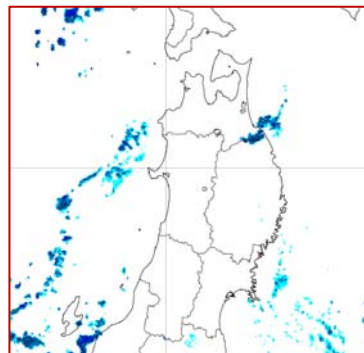
レーダー画像 12月31日 21時00分



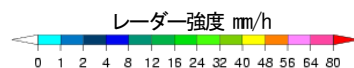
地上天気図 1月1日 09時



気象衛星赤外画像 1月1日 09時

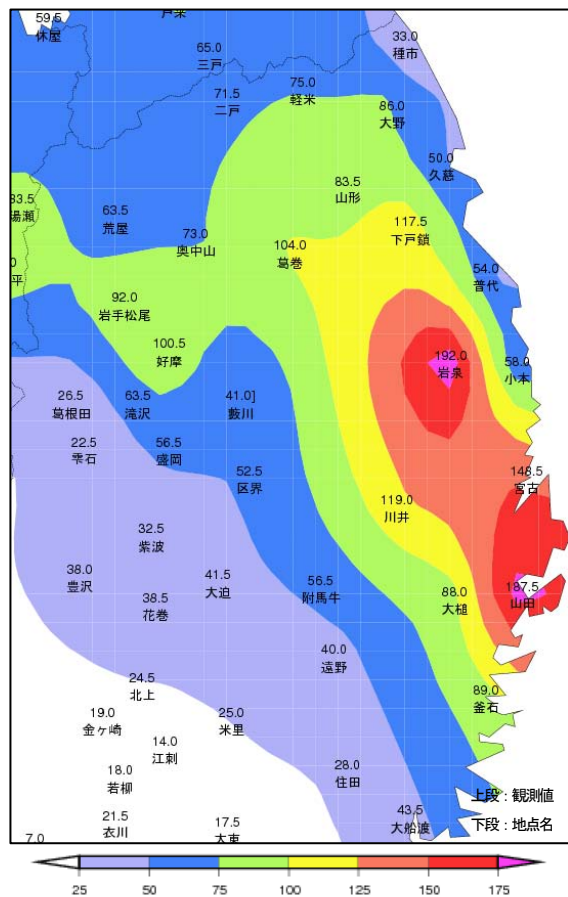


レーダー画像 1月1日 09時00分



○降水量分布図

平成22年12月30日21時～平成23年1月1日09時の降水量 (単位: mm)



総降水量 100mm 以上の地点の降水量と最大 1 時間降水量

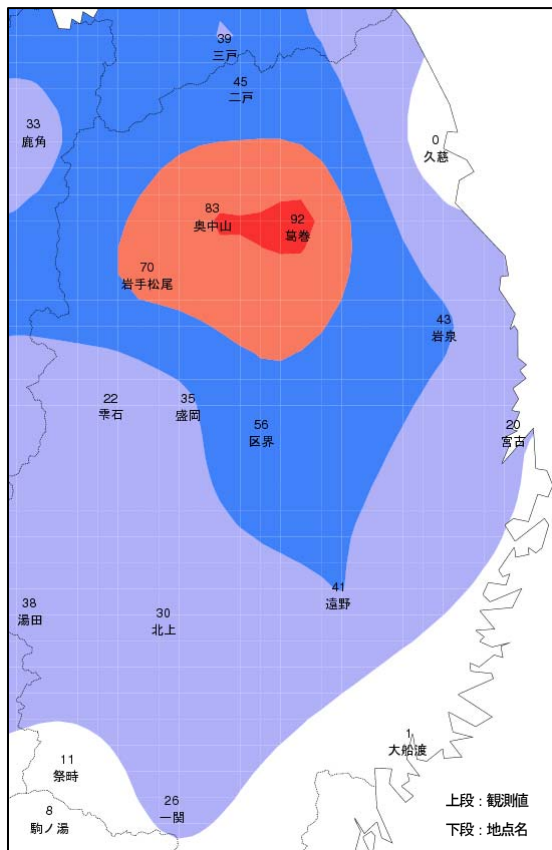
(単位: mm)

地点名	総降水量	最大 1 時間降水量	起時
葛巻	104.0	9.5	31日 11 時 16 分
下戸鎖	117.5	12.5	31日 06 時 45 分
岩泉	192.0	19.0	31日 08 時 42 分
宮古	148.5	24.5	31日 08 時 24 分
川井	119.0	15.0	31日 13 時 30 分
山田	187.5	17.5	31日 09 時 22 分

注) 図中の藪川の値はデータの一部に欠測があることを示す。

○降雪量分布図

平成22年12月30日21時～平成23年1月1日09時の降雪量（単位：cm）



総降雪量 50cm 以上の地点の降雪量と最大 1 時間降雪量

(単位：cm)

地点名	総降雪量	最大 1 時間降雪量	起時
奥中山	83	14	31 日 08 時
葛巻	92	9	31 日 24 時
岩手松尾	70	12	31 日 08 時
区界	56	9	31 日 15 時

注) 最大 1 時間降雪量は毎正時の観測値を表す。

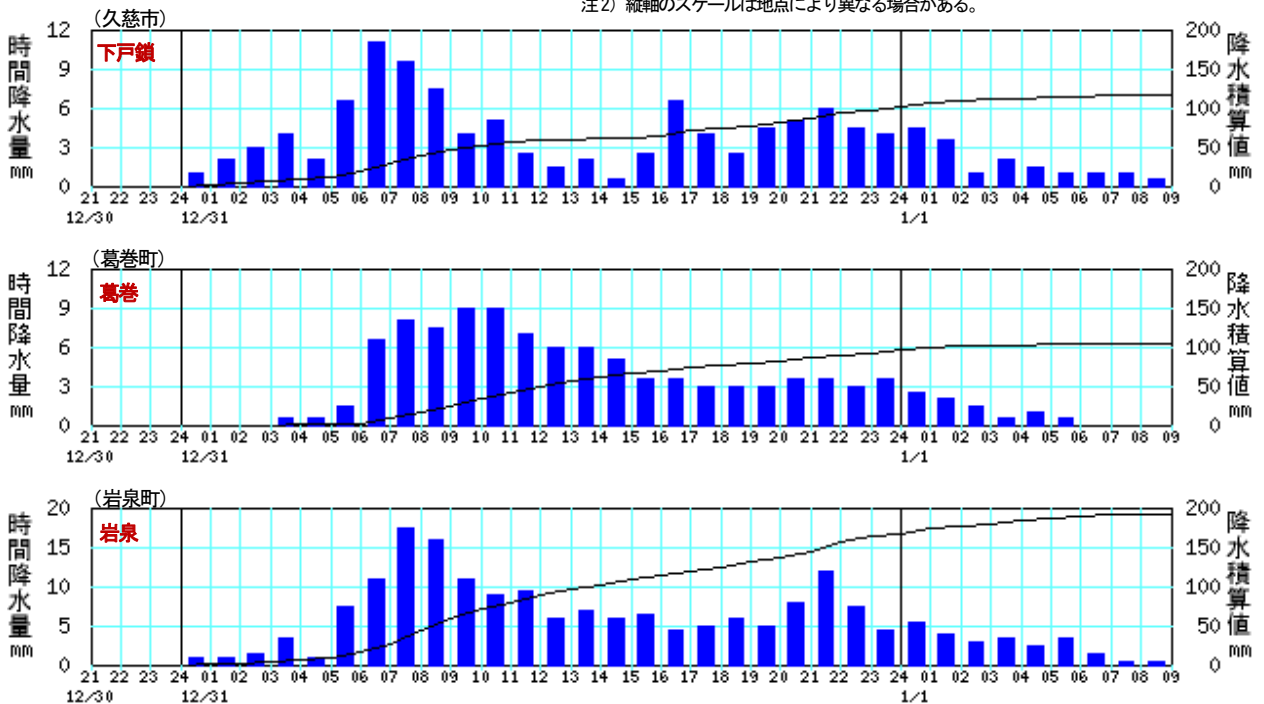


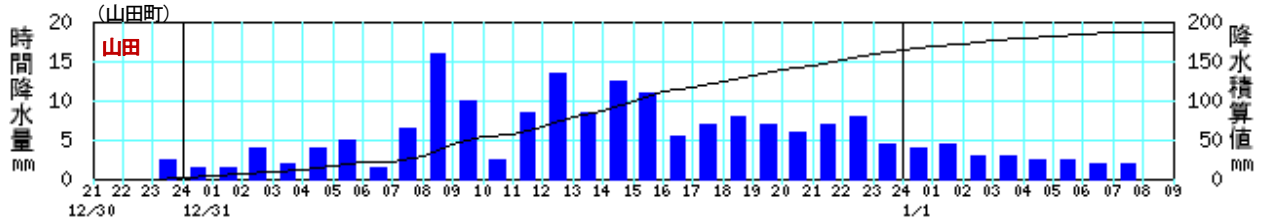
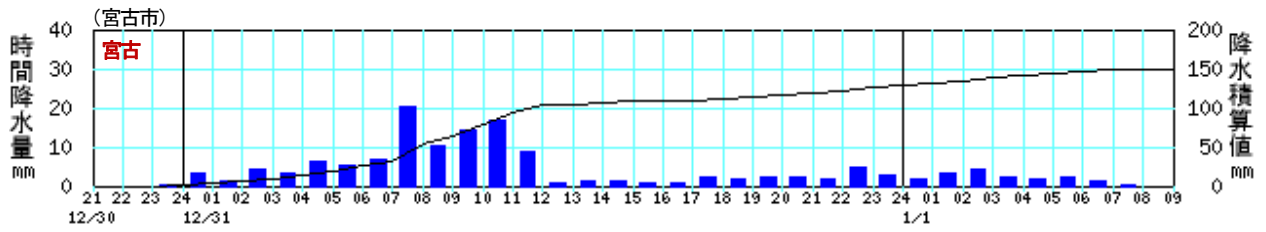
○主な地点の時系列降水量

平成22年12月30日21時～平成23年1月1日09時

注1) 棒グラフは1時間降水量、折れ線グラフ降水量の積算値を表す。

注2) 縦軸のスケールは地点により異なる場合がある。



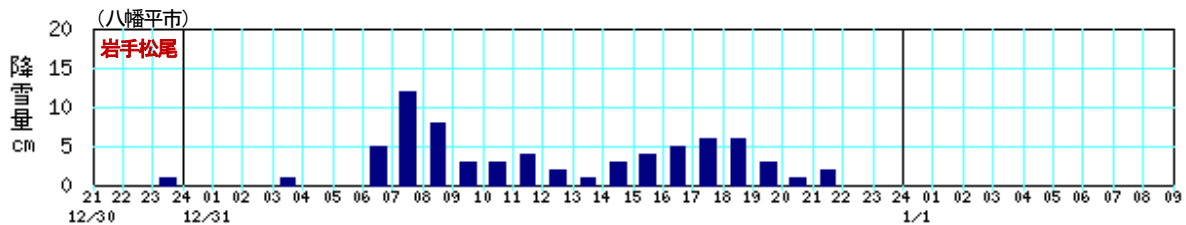
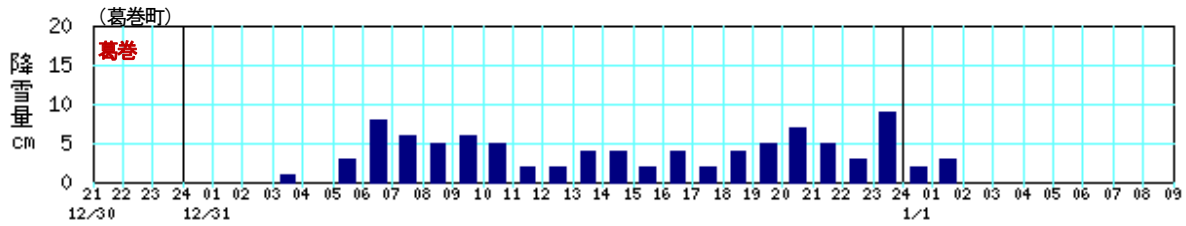
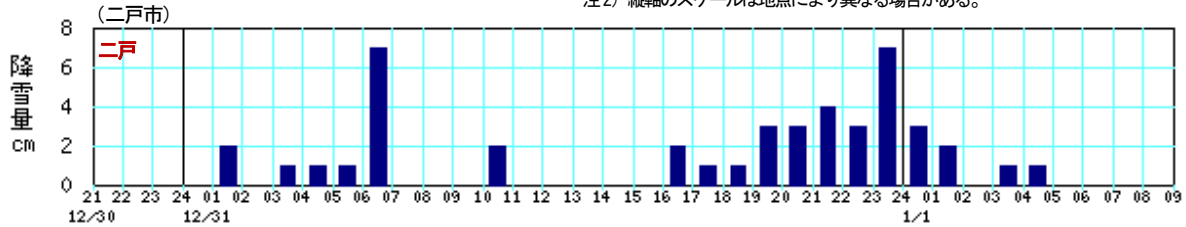


○主な地点の時系列降雪量

平成22年12月30日21時～平成23年1月1日09時

注1) 棒グラフは1時間降雪量を表す。

注2) 縦軸のスケールは地点により異なる場合がある。



○最大風速と最大瞬間風速の観測値

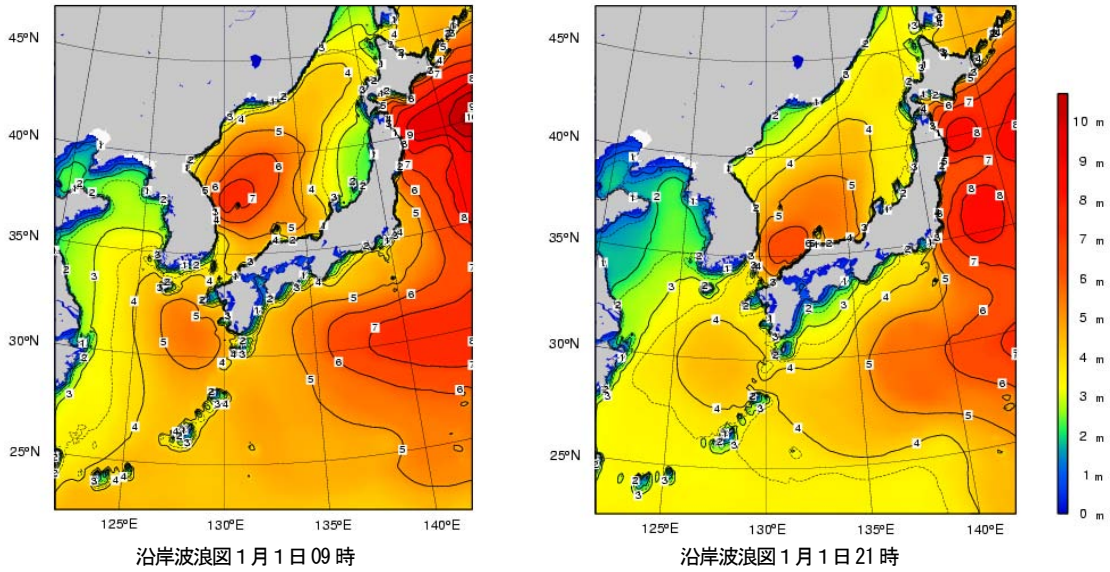
平成22年12月31日の日最大風速10m/s以上の地点 (単位: m/s)

地点名	日最大風速		日最大瞬間風速		地点名	日最大風速		日最大瞬間風速	
	風向・風速	起時	風向・風速	起時		風向・風速	起時	風向・風速	起時
久慈	北東 10.3	16時26分	東 21.6	08時57分	紫波	北北西 14.7)	22時28分	北北西 20.6)	22時21分
荒屋	北北東 10.0	18時25分	北北東 15.9	18時32分	花巻	北 13.8	20時16分	北 19.0	21時12分
小本	東北東 16.9	15時20分	北東 29.0	10時15分	若柳	北北西 10.3	21時00分	北 18.5	20時07分
盛岡	北 12.2	21時10分	北 20.6	22時14分	大船渡	北 11.0	23時07分	北北東 20.5	22時57分
宮古	北東 14.9	06時04分	北北東 25.0	17時37分					

注1) 黄色の網掛けは12月として極値更新(統計期間5年以上の要素)。

注2) 値)はデータの一部に欠測があることを表す。

○沿岸波浪図 (平成 23 年 1 月 1 日)



○主な極値更新

12月として1位更新(統計期間5年以上の要素)

要素名	単位	地点名	順位	値	起日	統計開始年
月最深積雪	cm	二戸	1	41	2010年12月31日	1983年～
		奥中山	1	111	2010年12月31日	1979年～
		葛巻	1	109	2010年12月31日	1984年～
		岩手松尾	1	75	2010年12月31日	1991年～
		岩泉	1	30	2010年12月31日	1991年～
降雪の深さの合計	cm	二戸	1	38	2010年12月31日	1983年～
		奥中山	年1	83	2010年12月31日	1979年～
		葛巻	1	87	2010年12月31日	1984年～
		岩手松尾	年1	69	2010年12月31日	1991年～
		岩泉	1	31	2010年12月31日	1991年～
		区界	1	56	2010年12月31日	1985年～
		遠野	1	41	2010年12月31日	1984年～
日降水量	mm	荒屋	1	63.0	2010年12月31日	1976年～
		葛巻	1	96.0	2010年12月31日	1976年～
		岩手松尾	1	85.5	2010年12月31日	1976年～
		好摩	1	99.0	2010年12月31日	1976年～
		岩泉	1	167.5	2010年12月31日	1976年～
日最大1時間降水量	mm	岩手松尾	1	12.0	2010年12月31日	1976年～
		好摩	1	12.0	2010年12月31日	1976年～
日最大風向・風速	m/s	荒屋	1	北北東 10.0	2010年12月31日	1976年～

1月として1位更新(統計期間5年以上の要素)

要素名	単位	地点名	順位	値	起日	統計開始年
月最大24時間降水量	mm	盛岡	1	45.5	2011年1月1日	1971年～
月最深積雪	cm	奥中山	1	110	2011年1月1日	1980年～
		葛巻	年1	114	2011年1月1日	1985年～
		岩手松尾	1	72	2011年1月1日	1992年～
		区界	1	105	2011年1月1日	1986年～
		遠野	1	45	2011年1月1日	1985年～

注) 「年1」は年としても1位更新。

(2) 被害状況

(単位：千円)

区 分		被害額	被害状況	被害地域*
農 業	農作物等	3,468	破損したハウスの下敷きによる寒 じめほうれんそう等の被害1.25ha	八幡平市、大槌町、山田町等8市町村
	家畜等	106,626	鶏舎・畜舎倒壊による死亡等、鶏 (ブロイラー)181,300羽、乳用牛 15頭、豚167頭 生乳の集荷不能による破棄等 86,150kg	久慈市、盛岡市、九戸村等12市町
	農業施設	1,221,712	畜舎・パイプハウス破損等969棟・ 件	葛巻町、盛岡市、八幡平市等24市町 村
林 業	林業施設	163,109	菌床しいたけ栽培施設等の倒壊等 35箇所	岩泉町、八幡平市、久慈市等14市町 村
	林産物	106,267	菌床ブロックの損傷等306.5千本	岩泉町、滝沢村、岩手町等4町村
	森 林	405,441	私有林の倒木等224.96ha	盛岡市、軽米町、八幡平市等17市町 村
水 産 業	水産施設	132,585	漁船巻き上げ小屋の破損等79箇所	宮古市、洋野町、岩泉町等11市町村
	漁 船	54,700	漁船の破損等53隻	山田町、久慈市、普代村等8市町村
	漁 具	1,434,371	定置網の破損等459ヶ統・箇所	久慈市、宮古市、洋野町等11市町村
	養殖施設	295,959	養殖施設の破損等2,611台	宮古市、野田村、岩泉町等11市町村
	水産物	1,863,657	養殖物の落下等10,295,250kg	宮古市、田野畑村、野田村等8市町村
	漁港施設	1,782,588	消波ブロックの飛散等50箇所	宮古市、釜石市、岩泉町等10市町村
計		7,570,483		

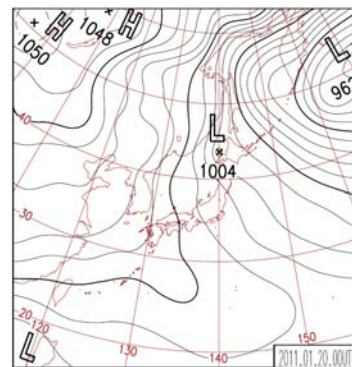
※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

2 1月20日の大雪災害

(1) 気象概況

16日から22日にかけては、東北地方は冬型の気圧配置が続き、  
内陸の山沿いを中心に大雪となる場所があった。

大雪により、20日に西和賀町で農業施設などに被害が発生した。



地上天気図 1月20日 09時

○関連する注意報の発表状況（花北地域：1月20日）

地域	注意報
花北地域	大雪、風雪 なだれ

○西和賀町湯田の降雪量と最深積雪（1月17日～20日）単位：cm

日	降雪量	最深積雪
17日	21	142
18日	12	147
19日	21	167
20日	12	172



## (2) 被害状況

(単位：千円)

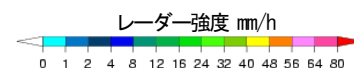
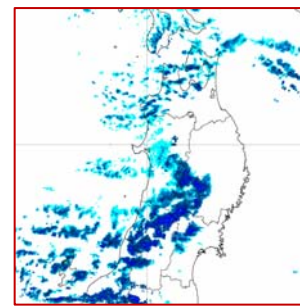
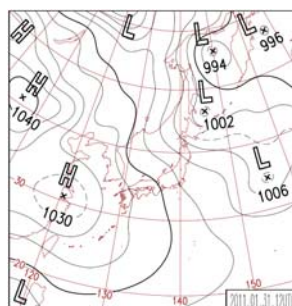
区 分		被害額	被害状況	被害地域
農 業	農業施設	3,000	パイプハウスの破損2棟	西和賀町
計		3,000		

## 3 1月31日から2月2日にかけての大雪災害

### (1) 気象概況

1月31日から2月1日にかけては、東北地方は冬型の気圧配置が続き、内陸を中心に大雪となるところがあった。1月31日は西和賀町湯田と北上で、2月1日は北上で、それぞれ月の最深積雪の1位の値を更新した（北上は年としても1位の値を更新）。2月1日の最深積雪は西和賀町湯田で216cm、北上で68cmとなった。

大雪により、西和賀町、奥州市、金ケ崎町で農業施設や畜産に被害が発生した。



○関連する注意報の発表状況（花北地域及び奥州金ケ崎地域：1月31日～2月2日）

地域	注意報
花北地域	大雪 なだれ
奥州金ケ崎地域	大雪

○湯田と北上の降雪量、最深積雪（1月31日～2月1日）単位：cm

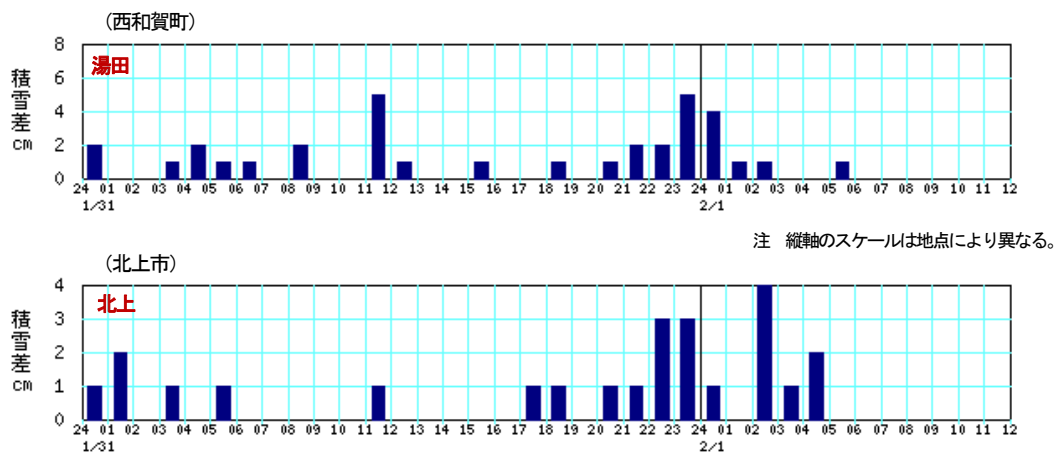
	湯田		北上	
	降雪量	最深積雪	降雪量	最深積雪
1月31日	27	210	16	60
2月1日	9	216	9	68

注1) 黄色の網掛けは月として極値更新。

注2) 橙色の網掛けは年としても極値更新。

○湯田と北上の時系列降雪量

1月31日00時～2月1日12時



## (2) 被害状況

(単位：千円)

区 分		被害額	被害状況	被害地域*
農 業	家 畜 等	732	畜舎倒壊により乳用牛死亡4頭	西和賀町
	農 業 施 設	37,919	畜舎の破損等7棟	西和賀町、金ヶ崎町、奥州市
計		38,651		

※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

## 4 3月9日の地震・津波災害

### (1) 気象概況

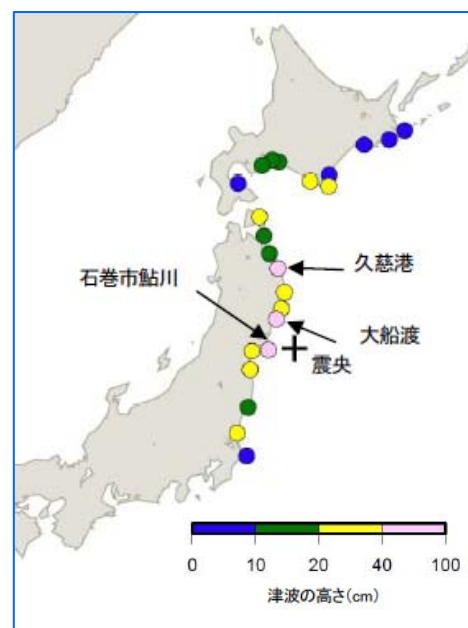
9日11時45分に三陸沖の深さ8kmでマグニチュード7.3の地震が発生し、宮城県北部で震度5弱を観測したほか、北海道から近畿地方にかけて震度4～1を観測した。岩手県では、花巻市や北上市など広い範囲で震度4を観測したほか、全域で震度4～2を観測した。

気象庁は、この地震に対して東北地方太平洋沿岸を中心に津波注意報を発表した。この地震により、大船渡で55cm、久慈港で46cm、石巻市鮎川で48cmなど、東北地方の太平洋沿岸で津波を観測した。

この津波により、釜石市、大船渡市、陸前高田市では養殖施設等に被害が発生した。また、地震により花巻市で農業施設に被害が発生した。

#### ○「岩手県」の津波注意報の発表状況

発表日時分	内 容
9日11時48分	津波注意報発表
9日14時50分	津波注意報解除



主な検潮所等で観測された津波の最大の高さ

【図の見方】

観測値は気象庁による読み取り値。

観測施設には、内閣府、国土交通省港湾局、海上保安庁、国土地理院の検潮所を含む。

本資料中の観測点名は、津波情報で発表する観測点名称を用いている。

#### ○岩手県内の検潮所等で観測された津波の最大の高さ

津波観測点名	所属	最大の高さの波	
		時刻	高さ (cm)
久慈港	国土交通省港湾局	9日13時13分	46
宮古	気象庁	9日13時04分	28
釜石	海上保安庁	9日12時19分	35
大船渡	気象庁	9日12時16分	55

※値は後日変更される場合がある。

#### ○花巻市の震度

震度観測点	震度
花巻市石鳥谷町*	4
花巻市材木町*	4
花巻市東和町*	4
花巻市大迫町	3
花巻市大迫総合支所*	3

注) \*は岩手県または防災科学技術研究所の震度観測点を表す。

## (2) 被害状況

(単位：千円)

区 分		被害額	被害状況	被害地域*
農 業	農 業 施 設	30	資材倉庫(農協所有)の窓ガラス破損2棟	花巻市
水 産	養 殖 施 設	1,050	養殖いかだの移動等115台	大船渡市、釜石市、陸前高田市
計		1,080		

※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

## 5 3月11日の東日本大震災津波

### (1) 気象概況

11日14時46分に三陸沖で発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（マグニチュード9.0、深さ24km）により、宮城県栗原市で震度7を観測したほか、東北地方を中心に北海道から九州地方にかけて震度6強～1を観測した。この地震により、東北地方太平洋沿岸をはじめとして全国の沿岸で津波を観測した。各地の津波観測施設では高いところで9mを超える津波を観測するなど、東日本の太平洋沿岸を中心に非常に高い津波を観測した（図1）。

岩手県では、滝沢村、矢巾町、花巻市、一関市、奥州市、釜石市、大船渡市で震度6弱を観測したほか全域で震度5強～4を観測した（表4及び図4）。また、沿岸では、宮古市で8.5m以上、※釜石市で4.2m以上、※大船渡市で8.0m以上の非常に高い津波を観測した（表2）。

気象庁は、この地震に対して、最初の地震波の検地から3分後の14時49分に岩手県、宮城県、福島県の沿岸に津波警報（大津波）を、北海道から九州にかけての太平洋沿岸と小笠原諸島に津波警報（津波）と津波注意報を発表した。その後、津波警報、津波注意報の範囲を拡大する続報を順次発表し、12日03時20分には日本の全ての沿岸に津波警報、津波注意報を発表した。岩手県の津波警報は13日07時30分に津波注意報に切り替え、13日17時58分に津波注意報を解除した（表1）。

気象庁は、津波観測施設及びその周辺地域において現地調査を実施し、海岸付近の建物に残された痕跡などから津波の高さの推定を行った結果、岩手県内の高いところでは約10mを超える津波の痕跡を確認した（図2及び表3）。

この「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」により、東北地方をはじめとした東日本に甚大な被害が発生した。岩手県では死者と行方不明者約6千人、建物の流失・倒壊などのほか、農林水産業などに大きな被害が生じた（2012年2月6日現在、岩手県による）。

注）※観測施設が津波により被害を受けたため、データを入力できない期間あり。

○「岩手県」の津波警報、津波注意報の発表状況（表1）

発表日時分	種類	内容
11日14時49分	津波警報	大津波 「大津波3m」
11日15時14分	津波警報	大津波 「大津波6m」
11日15時30分	津波警報	大津波 「大津波10m以上」
12日20時20分	津波警報	津波 「津波2m」に切替
13日07時30分	津波注意報	注意報に切替
13日17時58分	津波注意報解除	

○岩手県内の検潮所等で観測された津波の最大の高さ（表2）

※値は後日変更される場合がある。

津波観測点名	最大の高さの波		所属
	時刻	高さ	
宮古 *1 *3	11日15時26分	8.5m以上	気象庁
釜石 *1 *2 *4	11日15時18分	420cm以上	海上保安庁
大船渡 *1 *4	11日15時21分	8.0m以上	気象庁

#### 【表の解説】

津波の観測値は、観測された潮位データにバンドパスフィルターをかけ、その波形を用いて作成している。

\*1はデータを入力できなかった期間があったことを示す。

\*2は巨大津波計により観測されたことを示す。（観測精度は0.1m単位）

\*3は最大波を巨大津波計により観測されたことを示す。

\*4は地震発生後、岩手県～千葉県太平洋沿岸では、1.2mから0.1m程度の沈降があったと推定されおり（国土地理院の地殻変動調査による）、これらの沿岸付近は波源域に含まれていることが推察される。

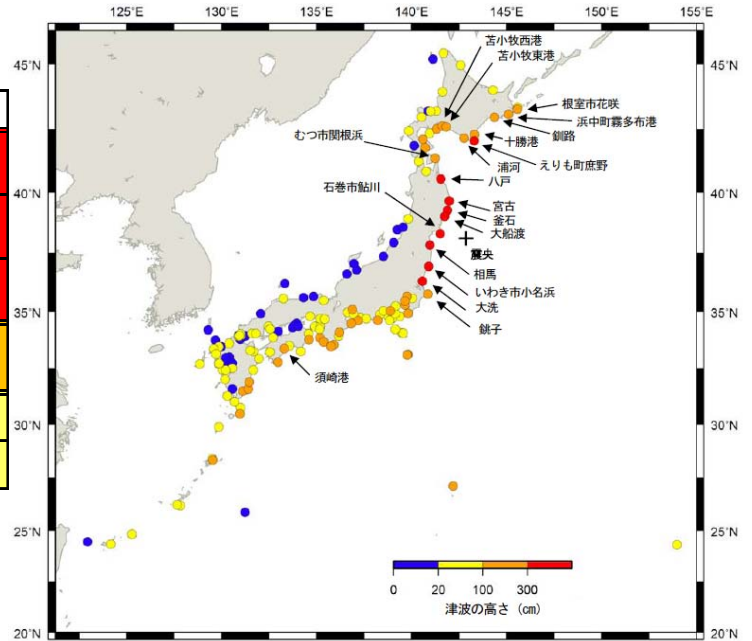


図1 検潮所等で観測された津波の最大の高さ

#### 【図1の見方】

①観測値は気象庁による読み取り値。

②観測点には、内閣府、国土交通省港湾局、海上保安庁、国土地理院、愛知県、四日市港管理組合、兵庫県、宮崎県、日本コークス工業株式会社の検潮所を含む。

③高さ200cm以上を観測した観測点名を表記。

④本資料中の観測点名は、津波情報で発表する観測点名称を用いる。

⑤国土地理院の地殻変動調査によれば、地震発生後、岩手県～千葉県の太平洋沿岸では、1.2mから0.1m程度の沈降があったと推定されている。津波の高さは、こうした地盤の沈降量を含んでいる可能性がある。

○津波の痕跡をもとに作成した津波の高さ（現地調査）

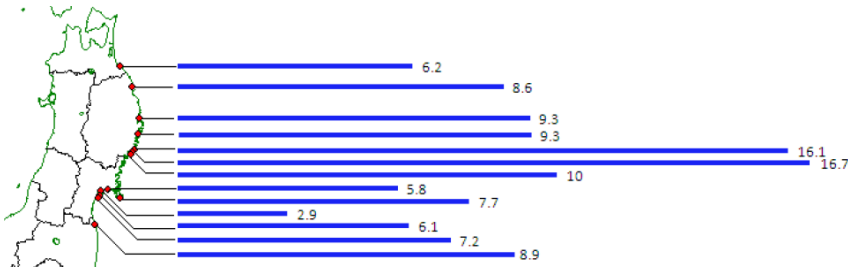


図2 東北地方の主な地点における津波の痕跡をもとに作成した津波の高さ  
（数字は津波の高さを示す（単位：m））

市町村名	調査地点名	推定した津波の高さ
久慈市	長内町 （久慈検潮所付近）	8.6m
	久慈港	7.8m
宮古市	日立浜町 （宮古検潮所付近）	7.3m
	宮古港	8.5m
	藤原閉伊郡川河口	9.3m
釜石市	魚河岸町 （釜石検潮所付近）	9.3m
	釜石市釜石港	8.4m
大船渡市	三陸町越喜来	16.1m
	三陸町小石浜	16.5m
	白浜漁港	16.7m
	綾里漁港	13.4m
	赤崎町長崎 （大船渡検潮所付近）	11.8m
	赤崎町山口	10.0m
	野々田	9.7m

表3 岩手県の現地調査地点と津波の高さ

○震度分布図

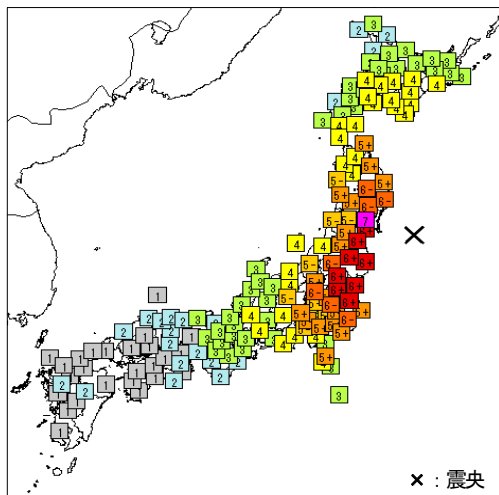


図3 日本の震度分布図（地域震度）

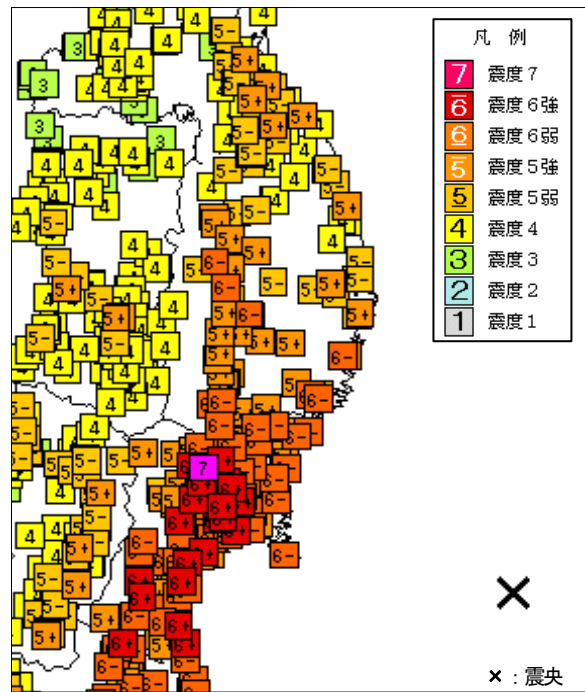


図4 岩手県付近の震度分布図（地点震度）

○震度5強以上を観測した岩手県の震度観測点（表4）

震度	地域名	震度観測点
6弱	内陸北部	滝沢村鶴飼*、矢巾町南矢幅*
	内陸南部	花巻市大迫町、一関市山目*、一関市花泉町*、一関市千厩町* 一関市室根町*、一関市藤沢町*、奥州市前沢区*、奥州市衣川区*
	沿岸南部	大船渡市大船渡町、大船渡市猪川町、釜石市中妻町*
5強	内陸北部	盛岡市山王町、盛岡市玉山区藪川*、盛岡市玉山区洪民*、八幡平市田頭* 八幡平市野駄*
	内陸南部	花巻市石鳥谷町*、花巻市材木町*、花巻市東和町*
		北上市柳原町、北上市相去町*、遠野市松崎町*、遠野市宮守町*
		一関市大東町、一関市東山町*、一関市川崎町*、金ヶ崎町西根* 平泉町平泉*、奥州市水沢区大鐘町、奥州市水沢区佐倉河*、奥州市江刺区*
	沿岸北部	宮古市茂市*、山田町大沢*、普代村銅屋*
沿岸南部	釜石市只越町、住田町世田米*	

注）\*は岩手県または防災科学技術研究所の震度観測点を表す。

## (2) 被害状況

(単位：千円)

区 分		被害額	被害状況	被害地域※
農 業	農作物等	13,195	野菜類：燃料不足による集荷不能に伴う廃棄（ほうれんそう等）、冠水等（アスパラガス）0.53a 花き：施設破損（花苗等）0.4ha	零石町、陸前高田市、一戸町等5市町
	家畜等	1,969,328	酪農：生乳の廃棄（停電により冷却停止、燃油不足による集荷不能）4,391千kg 養鶏：鶏の死亡（停電による暖房停止等）2,885千羽 牛：乳用牛、肉用牛の死亡（飼料不足等）11頭 豚：種豚、肉豚の死亡（飼料不足等）1,463頭	一関市、洋野町、矢巾町等33市町村
	農業施設	2,865,268	穀類乾燥調製施設やパイプハウス等の破損等656棟・件	大槌町、一関市、奥州市等23市町村
	農地・農業用施設	63,919,000	畦畔等の破損等13,321箇所 ため池堤体の亀裂等、水路・農道法面の破損等3,657箇所 水槽等の破損等41箇所 海岸堤防の破損等10箇所	陸前高田市、山田町、大船渡市等26市町村
林 業	林業施設	22,146,124	林道・作業道・舗装の破損等109路線・473箇所 治山施設：防潮堤の流出、落石防止土留擁壁の破損等55箇所 林産施設等：木材加工施設等の損壊等133箇所	宮古市、大船渡市、野田村等26市町村
	林産物	753,935	素材丸太等の流失32,897m <sup>3</sup> 特用林産物の流出4,111kg 菌床しいたけブロックの破損等608千個 ほだ木流失314千本	大船渡市、久慈市、陸前高田市等18市町村
	森 林	5,953,848	地震・津波による林野火災、防潮林の流失等778ha	陸前高田市、野田村、宮古市等12市町村
	林地荒廃	763,384	林地崩壊35箇所	一関市、一戸町、奥州市等6市町村
水 産 業	水産施設	36,574,970	共同利用施設等の流失1,893箇所	宮古市、大船渡市、陸前高田市等12市町村
	漁 船	33,826,512	漁船の流失、損壊等13,271隻	大船渡市、山田町、宮古市等12市町村
	漁 具	15,570,634	定置網、刺し網、カゴ等の流失323ヶ統（箇所）	山田町、久慈市、大船渡市等12市町村
	養殖施設	13,086,648	ワカメ、コンブ、ホタテ、カキ等の養殖施設の流失25,841台	大船渡市、釜石市、陸前高田市等11市町村
	水産物	13,173,757	養殖物、カキ・ホタテ種苗などの流失49,597t 殻つきカキ等の流出417,185千個 稚魚等の流出1,630千尾	大船渡市、山田町、宮古市等12市町村
	漁港施設	452,704,566	防波堤の倒壊等108漁港	大船渡市、山田町、陸前高田市等12市町村
計	663,321,169			

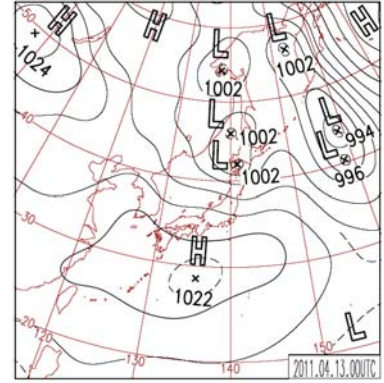
※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

## 6 4月13日の強風災害

### (1) 気象概況

13日は、本州付近は日本の南に中心をもつ高気圧におおわれた。一方、低気圧が渡島半島付近を通過し東北地方は気圧の傾きが大きくなり、県内は強風となるところがあった。

強風により、花巻市、北上市、奥州市、金ヶ崎町、住田町で農業施設に被害が発生した。



地上天気図4月13日09時

○関連する注意報の発表状況（4月13日）

地域	注意報
岩手県	強風

○最大風速と最大瞬間風速の観測値（4月13日）

南部の主な地点の日最大風速と日最大瞬間風速(単位:m/s)

地点名	日最大風速	日最大瞬間風速	地点名	日最大風速	日最大瞬間風速
花巻	西 9.6	西 16.5	湯田	南 3.1	北北西 9.5
大迫	西 6.5	西 13.3	若柳	西 13.0	西 25.4
沢内	南西 9.0	南西 16.0	江刺	西 8.7	西北西 16.6
北上	西北西 6.8	北西 17.1	住田	西北西 10.3	北西 17.8

### (2) 被害状況

(単位：千円)

区 分	被害額	被害状況	被害地域*
農 業 農業施設	1,582	育苗ハウス破損等 54 棟	北上市、奥州市、金ヶ崎町等 5 市町
計	1,582		

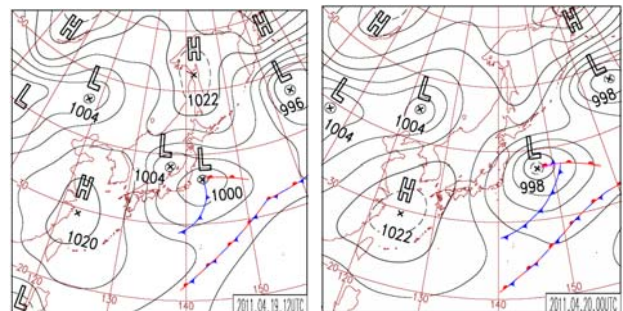
※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

## 7 4月19日から20日にかけての大雪災害

### (1) 気象概況

19日は、寒気を伴った低気圧が日本海中部を東進し、別の低気圧が本州南岸を東北東進した。20日は、本州南岸の低気圧が発達しながら三陸沖を東北東進し、東北地方は弱い冬型の気圧配置となった。19日から20日にかけて、沿岸部を中心に雨や雪となり、沿岸北部では大雪となるところがあった。

大雪により、久慈市と洋野町で農業施設に被害が発生した。

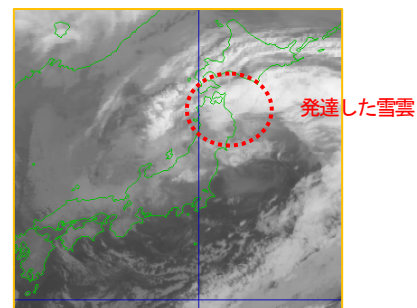


地上天気図4月19日21時

地上天気図4月20日09時

○関連する注意報の発表状況（沿岸北部：4月19日～20日）

地域	注意報
沿岸北部	大雪、風雪、強風 着雪、なだれ



気象衛星赤外画像4月20日02時

○降雪量の観測値（4月19日～20日）

沿岸北部の降雪量(単位:cm)

地点名	降雪量	
	19日	20日
久慈	0	0
岩泉	4	9
宮古	0	0)
区界	6	1

注：値）はデータの一部に欠測があることを示す。

(2) 被害状況

(単位：千円)

区 分	被害額	被害状況	被害地域*
農 業 農 業 施 設	2,156	簡易ビニールハウス全壊等4棟	洋野町・久慈市
計	2,156		

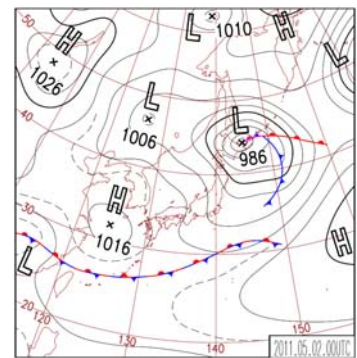
※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

8 5月2日の強風災害

(1) 気象概況

1日は、前線を伴った低気圧が日本海を北東進した。2日は、この低気圧が発達しながら北海道付近を通過し、その後、千島近海に進んだ。東北地方は気圧の傾きが急になり、県内では強風となる場所があった。2日の最大風速は、久慈や岩泉など16地点で5月として日最大風速の1位の値を更新した。また、沿岸北部の海上では暴風となる場所があった。

強風により、住家損壊や停電、交通障害のほか、農業施設に被害が発生した。



地上天気図5月2日09時

○関連する警報・注意報の発表状況（5月2日）

地域	警報	注意報
内陸	—	強風
久慈地域	暴風	強風
宮古地域	—	強風
沿岸南部	—	強風

○最大風速と最大瞬間風速の観測値（5月2日）

最大風速 10m/s 以上の地点の日最大風速と日最大瞬間風速(単位:m/s)

地点名	日最大風速	日最大瞬間風速	地点名	日最大風速	日最大瞬間風速	地点名	日最大風速	日最大瞬間風速
軽米	西北西 11.0	西 19.8	小本	西南西 14.4	西 27.7	花巻	西 11.3	西 19.5
久慈	西 13.1	西 25.4	雫石	西南西 13.3	西 23.8	若柳	西 15.3	西北西 26.9
奥中山	西 11.6	西北西 24.8	盛岡	西南西 11.6	西北西 20.0	江刺	西北西 13.5	西 21.4
葛巻	南南西 10.2	南南西 21.4	宮古	西南西 12.6	西 25.2	住田	西北西 11.8	北西 24.8
岩手松尾	西 11.0	西北西 22.0	紫波	西 17.1	西 25.7	大船渡	北北西 11.3	北 25.3
好摩	南南西 10.8	南南西 21.8	川井	西 11.6	南南西 25.6	千厩	西北西 10.5	西 21.7
岩泉	西南西 16.4	西南西 27.6	沢内	南西 10.2	南西 20.5			

注1) 釜石は欠測のため、最大風速10m/sの地点から除く。

注2) 黄色の網掛けは5月として1位更新（統計期間5年以上の要素）。

注3) 最大風速10m/s未満の普代、大迫、北上、一関の4地点でも5月として1位更新。

## (2) 被害状況

(単位：千円)

区 分		被害額	被害状況	被害地域*
農 業	農業施設	27,170	堆肥センター屋根破損、ビニールハウス破損等 232 棟	久慈市、奥州市、北上市等 12 市町村
計		27,170		

※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

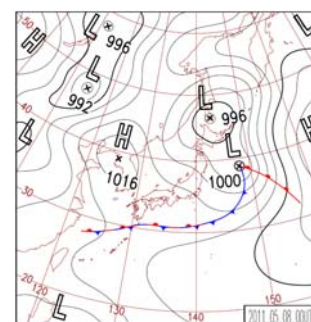
## 9 5月8日の降雹、強風災害

### (1) 気象概況

8日は、寒冷前線が東北地方を通過した。前線通過後、上空に寒気が流れ込み、岩手県では大気の状態が非常に不安定となった。レーダー観測では、13時から14時にかけて発達した積乱雲が奥州市水沢区付近を通過し、13時30分頃に突風が発生した。

盛岡地方気象台は気象庁機動調査班による現地調査を実施し、この突風をもたらした現象は竜巻の可能性が高いと判断した。また、突風の強さは藤田スケールでF0と推定した。(藤田スケールについては、次頁参照)

この突風により、奥州市水沢区を中心に住家損壊や農作物・農業施設に被害が発生した。



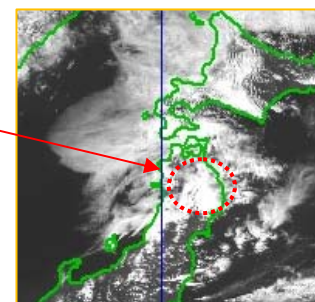
地上天気図 5月8日 09時

### ○関連する注意報、気象情報の発表状況

地域	注意報
岩手県	強風、雷(突風・ひょう)

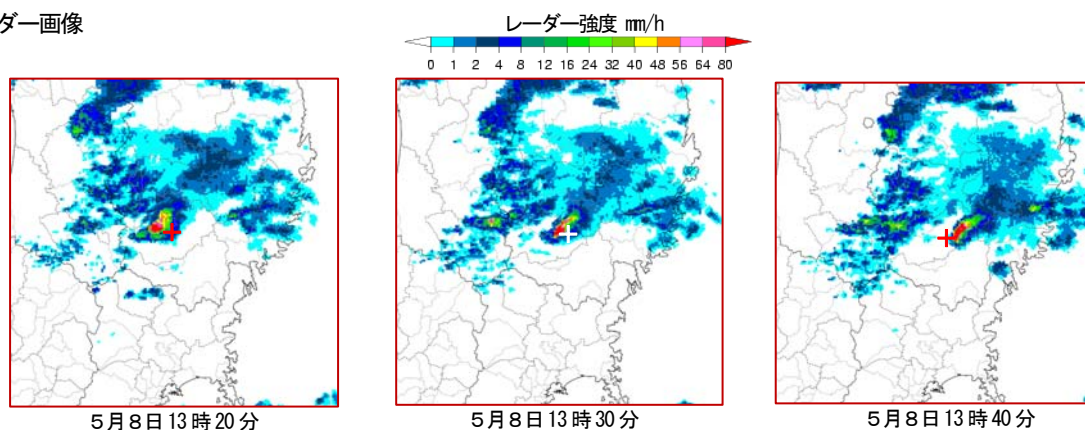
岩手県竜巻注意情報 第1号～第3号

発達した積乱雲



気象衛星可視画像 5月8日 14時

### ○レーダー画像





○奥州市（江刺・若柳）の観測値

日最大風速と日最大瞬間風速(単位:m/s)

地点名	日最大風速		日最大瞬間風速	
	風向・風速	起時分	風向・風速	起時分
若柳	西南西 10.5	13時28分	西 26.4	13時27分
江刺	西北西 11.2	18時32分	北西 18.3	18時19分

10分ごとの各観測値（12時30分～14時30分）

江刺							若柳								
時	降水量(mm)	気温(°C)	風向・風速(m/s)				日照時間(分)	時	降水量(mm)	気温(°C)	風向・風速(m/s)				日照時間(分)
			平均	風向	最大瞬間	風向					平均	風向	最大瞬間	風向	
12:30	0	21.6	3.9	西南西	8.4	西南西	9	12:30	0	20.0	4.7	西	8.3	西	10
12:40	0	20.4	4.5	西南西	8.6	西南西	7	12:40	0	19.5	4.6	西南西	8.5	西	5
12:50	0	20.4	3.5	西	6.5	西南西	1	12:50	0	18.8	5.4	西	10.2	西北西	6
13:00	0	20.6	4.2	西北西	7.8	西	3	13:00	0	18.9	4.9	西	9.5	西	5
13:10	0	19.3	4.5	北西	7.7	北西	0	13:10	0	18.4	3.8	西	8.7	西北西	1
13:20	0	18.5	1.8	北	4.5	西北西	0	13:20	0	18.4	4.1	南南西	14.1	南西	0
13:30	4.5	13.7	4.9	北西	13.8	北西	0	13:30	2.5	15.8	10.1	西北西	26.4	西	0
13:40	2.0	14.2	4.4	西北西	8.9	北西	5	13:40	0	14.2	3.3	北西	7.4	北北西	0
13:50	0	14.6	4.7	北西	7.5	北西	0	13:50	0	14.7	3.8	北西	7.2	北西	0
14:00	1.0	13.6	5.4	北西	8.1	北西	0	14:00	0.5	14.1	4.5	北北西	7.4	北北西	0
14:10	0.5	13.4	4.6	北西	7	北西	0	14:10	0	13.4	3.0	北北西	5.4	北北西	0
14:20	1.0	13.4	3.7	北西	7.7	北西	0	14:20	0	13.3	3.7	北北西	6.3	北北西	0
14:30	0	14.0	2.4	北西	4.1	西北西	3	14:30	0	13.4	2.5	北北西	5.0	北北西	2

○参考（Fスケール）

Fスケール（藤田スケール）とは、竜巻やダウンバーストなどの風速を、構造物の被害調査から簡便に推定するため、1971年に当時シカゴ大学の教授であった故・藤田哲也氏により考案された風速のスケールで、世界的に採用されている。

Fスケールと被害の対応

F0	17～32m/s(約15秒間の平均) テレビアンテナなどの弱い構造物が倒れる。小枝が折れ、根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。
F1	33～49m/s(約10秒間の平均) 屋根瓦が飛び、ガラス窓が割れる。ビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木は幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると、道から吹き落とされる。
F2	50～69m/s(約7秒間の平均) 住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、ねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、車が脱線することがある。
F3	70～92m/s(約5秒間の平均) 壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車はもち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半折れるか倒れるかし、引き抜かれることもある。
F4	93～116m/s(約4秒間の平均) 住家がバラバラになって辺りに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもベシヤンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十mも空中飛行する。1t以上ある物体が降ってきて、危険この上もない。
F5	117～142m/s(約3秒間の平均) 住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などがもち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数tもある物体がどこからともなく降ってくる。

参考文献：日本気象学会編（1998）：気象科学辞典、東京書籍、637pp.

(2) 被害状況

(単位：千円)

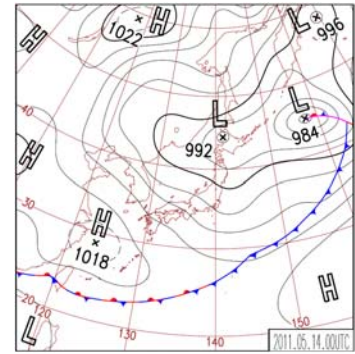
区分		被害額	被害状況	被害地域*
農業	農作物等	15,537	アスパラガスの傷・先端の曲り等の発生等9.62ha	金ケ崎町、奥州市
	農業施設	625	パイプハウスの穴あき・剥離等29棟	奥州市、金ケ崎町、北上市
計		16,162		

※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

## 10 5月14日の強風災害

### (1) 気象概況

14日は、上空に寒気を伴った低気圧が北海道付近を東進し、県内は強風や局地的に雷を伴って大雨となる場所があった。  
強風により、北上市で農業施設に被害が発生した。



地上天気図5月14日09時

### ○最大風速と最大瞬間風速の観測値（5月14日）

花北地域の日最大風速と日最大瞬間風速(単位:m/s)

地点名	日最大風速	日最大瞬間風速	地点名	日最大風速	日最大瞬間風速
花巻	南西 7.4	西 14.4	北上	西北西 4.3	西北西 11.1
大迫	西北西 7.2	西北西 13.3	沢内	南西 7.6	南西 17.2
			湯田	北北西 3.3	南西 9.6

### (2) 被害状況

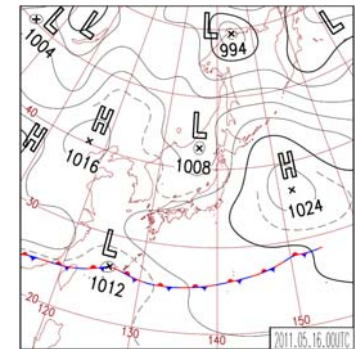
(単位:千円)

区分	被害額	被害状況	被害地域
農業 農業施設	160	育苗用ハウスビニール破損4棟	北上市
計	160		

## 11 5月16日の強風災害

### (1) 気象概況

16日は、上空に寒気を伴った低気圧が日本海北部を北東進し、県内は強風となる場所があった。強風により、北上市で農業施設に被害が発生した。



地上天気図5月16日09時

### ○注意報の発表状況（花北地域：5月16日）

地域	注意報
花北地域	強風、雷(突風、ひょう)

### ○最大風速と最大瞬間風速の観測値（5月16日）

花北地域の日最大風速と日最大瞬間風速(単位:m/s)

地点名	日最大風速	日最大瞬間風速	地点名	日最大風速	日最大瞬間風速
花巻	南 9.2	南 13.4	北上	南南東 5.3	南南東 11.1
大迫	北西 4.6	西 9.0	沢内	西南西 5.4	南西 11.0
			湯田	北北西 4.2	北北西 10.4

(2) 被害状況

(単位：千円)

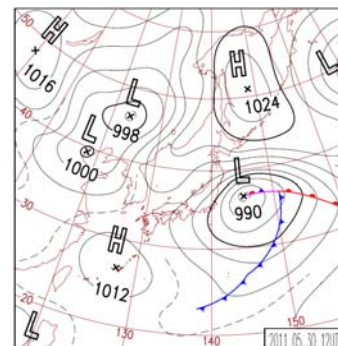
区 分		被害額	被害状況	被害地域
農 業	農業施設	250	育苗用ハウス本体及びビニールハウス破損1棟	北上市
計		250		

12 5月30日の強風災害

(1) 気象概況

30日は、台風2号から変わった低気圧が本州の南岸を北東進し、関東の東海上に進んだ。県内は、大雨や強風となるところや海上では暴風やしけとなり、荒れた天気となった。大船渡で最大瞬間風速26.1m/sを観測し、5月として日最大瞬間風速の1位の値を更新した。

大雨により、沿岸を中心に道路冠水や道路損壊の被害が発生した。また、強風により県内各地で停電被害があったほか、花巻市で農業施設に被害が発生した。



地上天気図5月30日21時

○関連する警報・注意報の発表状況（花北地域：5月30日）

地域	警報	注意報
花北地域	大雨	大雨、強風 雷(突風、ひょう)

○最大風速と最大瞬間風速の観測値（5月30日）

花北地域の日最大風速と日最大瞬間風速(単位:m/s)

地点名	日最大風速	日最大瞬間風速	地点名	日最大風速	日最大瞬間風速
花巻	南 9.2	南 13.4	北上	南南東 5.3	南南東 11.1
大迫	北西 4.6	西 9.0	沢内	西南西 5.4	南西 11.0
			湯田	北北西 4.2	北北西 10.4

(2) 被害状況

(単位：千円)

区 分		被害額	被害状況	被害地域
農 業	農業施設	55	ビニールハウス被覆材被害2棟	花巻市
計		55		

### 13 6月23日から24日にかけての大雨災害

#### (1) 気象概況

23日は、梅雨前線が華中から朝鮮半島を通過して東北地方北部に停滞した。一方、太平洋高気圧が西日本に張り出し、前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となった。24日は、前線上の低気圧が東北北部を通過し、その後、梅雨前線が東北地方をゆっくり南下した。

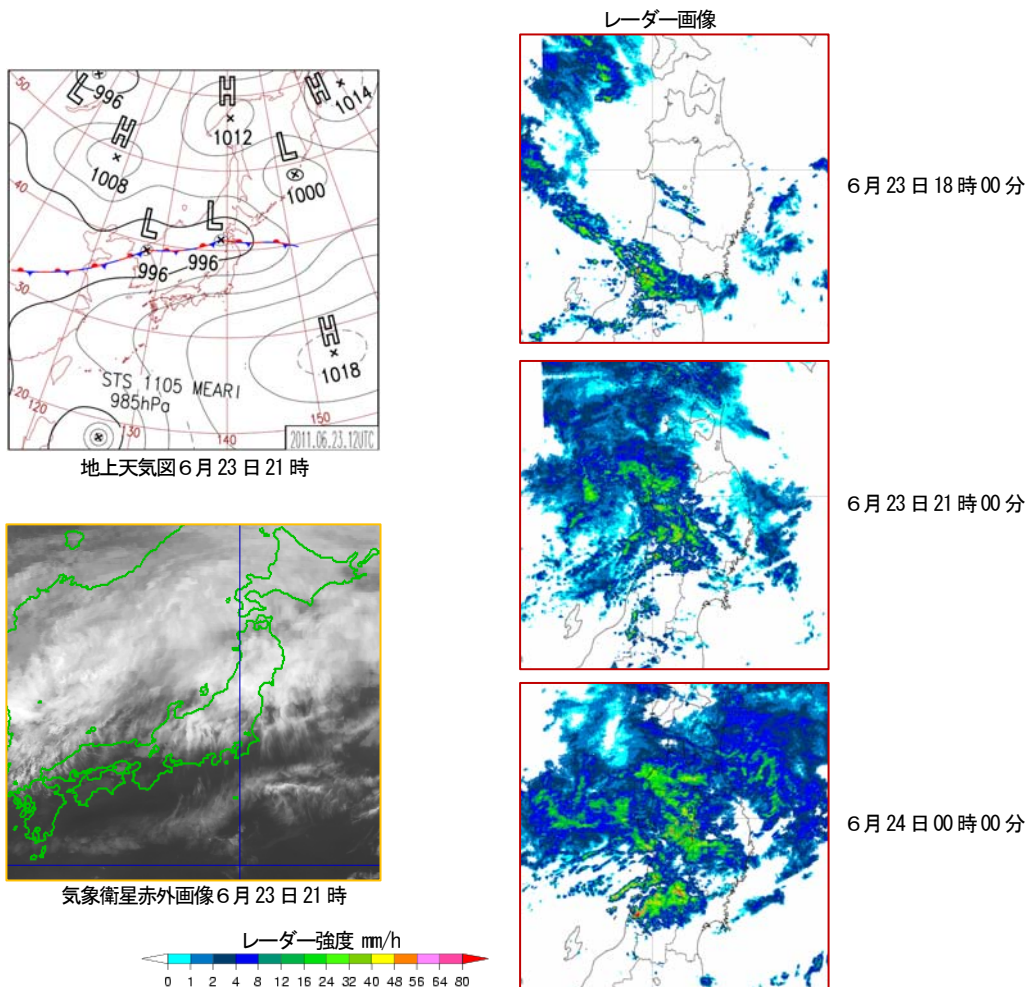
低気圧や前線の影響により、23日から24日にかけて内陸を中心に大雨となる場所があった。23日と24日の降水量の合計は内陸を中心に100mmを超えるところがあり、24日の日降水量は西和賀町沢内や花巻市豊沢など5地点で、24日の日最大1時間降水量は西和賀町沢内や同町湯田など3地点で、それぞれ6月として1位の値を更新した。

大雨により、内陸で浸水害や土砂災害、交通障害、停電被害のほか、農作物や農業施設、林業施設などに被害が発生した。

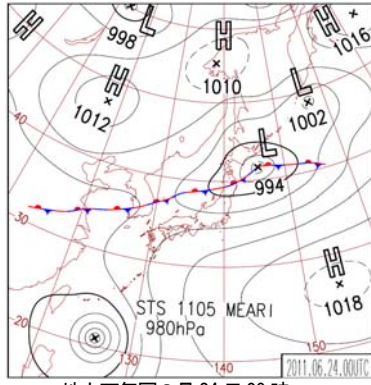
#### ○関連する警報・注意報の発表状況（6月23日～24日）

地域	警報	注意報	地域	警報	注意報
盛岡地域	大雨、洪水	大雨、洪水、雷	久慈地域	—	大雨、洪水、雷
二戸地域	—	大雨、洪水、雷	宮古地域	大雨、洪水	大雨、洪水、雷
花北地域	大雨、洪水	大雨、洪水、雷	釜石地域	大雨	大雨、洪水、雷
遠野地域	大雨、洪水	大雨、洪水、雷	大船渡地域	—	大雨、洪水、雷
奥州金ヶ崎地域	大雨、洪水	大雨、洪水、雷	雷注意報には突風、ひょうの現象を付加。		
両磐地域	大雨、洪水	大雨、洪水、雷			

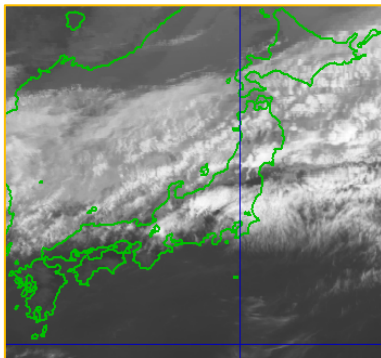
#### ○地上天気図、気象衛星赤外画像、レーダー画像（6月23日18時～24日09時）



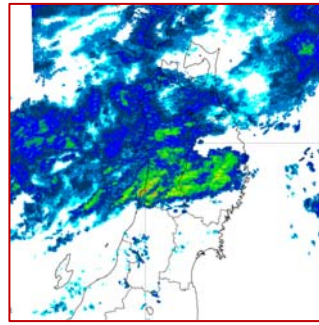
レーダー画像



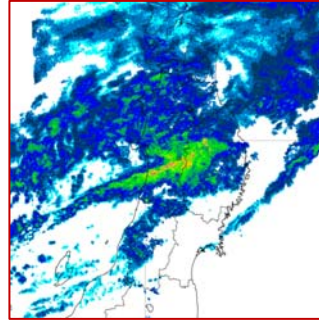
地上天気図 6月24日 09時



気象衛星赤外画像 6月24日 09時



6月24日 03時00分



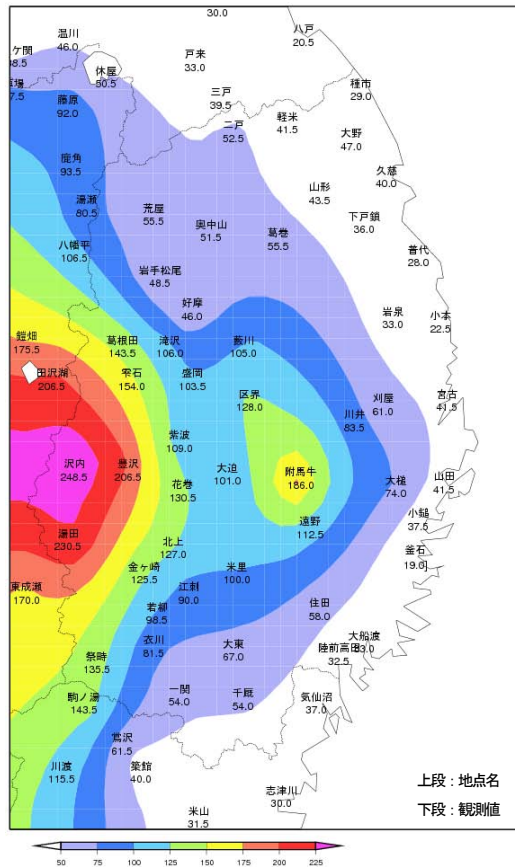
6月24日 06時00分



6月24日 09時00分

○降水量分布図

6月23日～24日の降水量 (単位: mm)



内陸を中心にした主な地点の降水量 (単位: mm)

地点名	日降水量		2日間 の合計	24日の最大 1時間降水量	
	23日	24日		最大	時分
葛根田	48.0	95.5	143.5	27.5	06時08分
雫石	49.5	104.5	154.0	24.0	06時48分
区界	44.0	84.0	128.0	24.5	07時28分
沢内	83.5	165.0	248.5	39.0	03時46分
豊沢	61.5	145.0	206.5	32.0	07時24分
花巻	57.0	73.5	130.5	15.0	07時44分
附馬牛	65.0	121.0	186.0	22.0	07時54分
湯田	82.5	148.0	230.5	30.0	03時11分
金ヶ崎	62.5	63.0	125.5	14.5	08時30分
北上	54.5	72.5	127.0	13.0	08時19分
祭時	71.0	64.5	135.5	13.0	10時45分

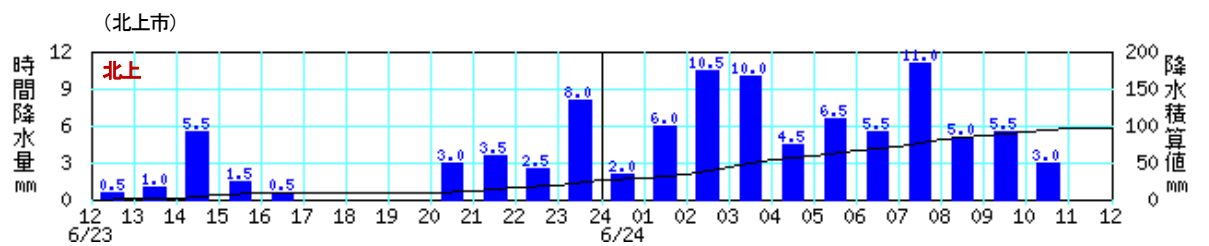
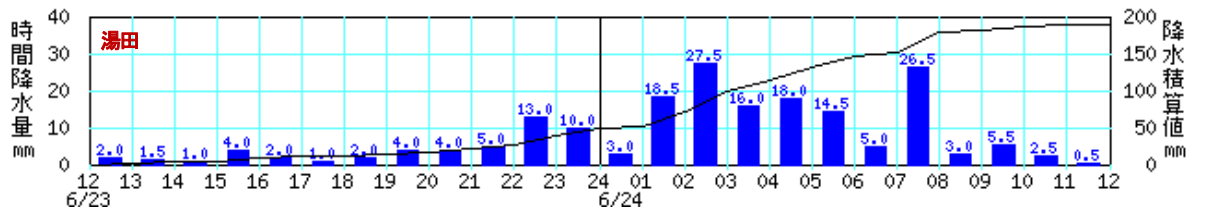
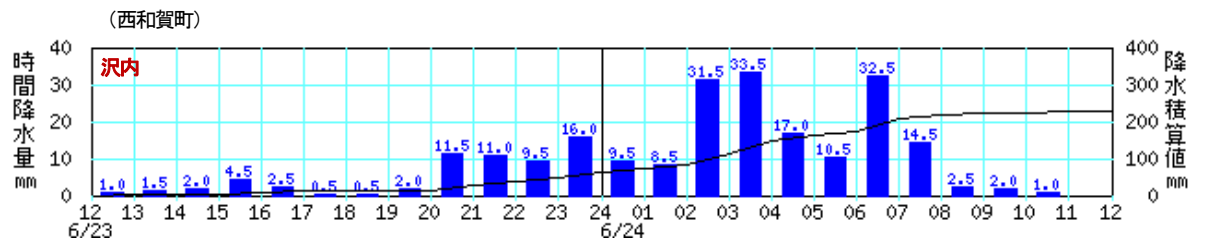
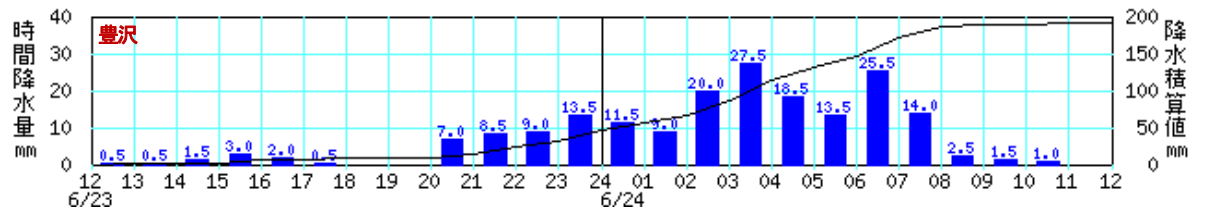
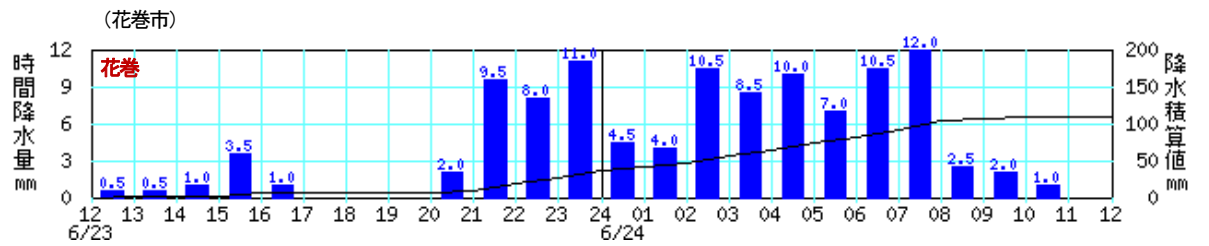
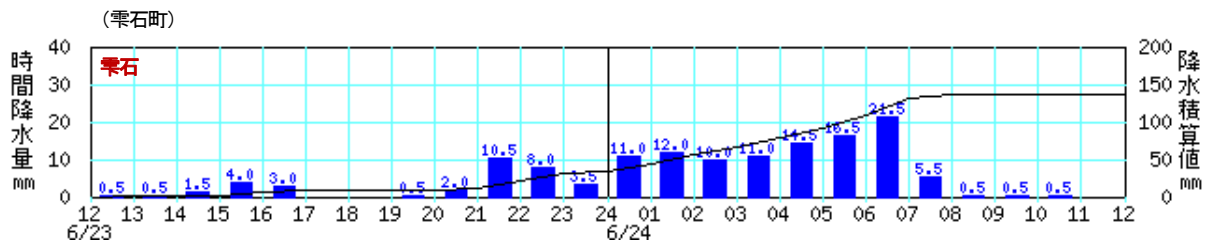
注) 黄色の網掛けは6月として1位更新。

○内陸の主な地点の時系列降水量

6月23日12時～24日12時

注1) 棒グラフは1時間降水量、折れ線はグラフ降水量の積算値を表す。

注2) 縦軸のスケールは地点により異なる場合がある。



○主な極値更新（統計期間5年以上の要素）

6月として1位更新

要素名	単位	地点名	順位	値	起日	統計期間
日降水量	mm	滝沢	1	56.5	6月24日	2006年～
		区界	1	84.0	6月24日	1994年～
		沢内	1	165.0	6月24日	1977年～
		豊沢	1	145.0	6月24日	1976年～
		附馬牛	1	121.0	6月24日	2006年～
日最大1時間降水量	mm	沢内	1	39.0	6月24日	1977年～
		附馬牛	1	22.0	6月24日	2006年～
		湯田	1	30.0	6月24日	1976年～

(2) 被害状況

(単位：千円)

区分		被害額	被害状況	被害地域*
農 業	農作物等	54,555	花き(りんどう)冠水等525.10ha	西和賀町、一関市、平泉町
	農業施設	5,750	冠水による機器の損壊、飼料ロールの流出9棟	西和賀町
	農地・農業用施設	389,000	護岸等被災、法面崩落等163箇所	花巻市、西和賀町、北上市等9市町村
林 業	林業施設	299,351	路肩崩落等57箇所	雫石町、西和賀町、花巻市
	林産物	1,000	乾しいたけのホダ木流出2,000本	遠野市
	森 林	500	山腹崩壊0.01ha	雫石町
	林地荒廃	29,000	若畑・湯本・甲子地区等4箇所	西和賀町、北上市
計		779,156		

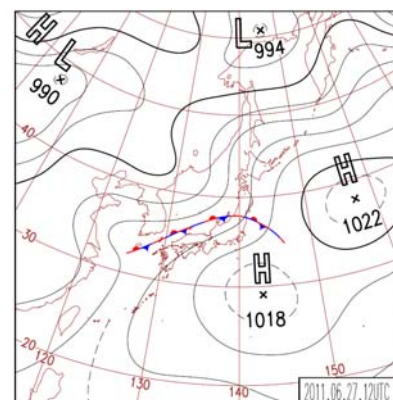
※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

14 6月27日から28日にかけての大雨災害

(1) 気象概況

27日から28日にかけては、梅雨前線が対馬海峡から山陰沖をとおって東北地方南部に停滞した。梅雨前線に日本の南の高気圧の縁辺から暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となり、内陸を中心に大雨となる場所があった。

大雨により、土砂災害や停電被害、交通障害のほか、雫石町で林業被害が発生した。



地上天気図6月27日21時

○関連する警報・注意報の発表状況（盛岡地域：6月27日～28日）

地域	警報	注意報
盛岡地域	大雨	大雨、洪水

○日降水量と時間降水量の観測値（6月27日～28日）

雫石町の日降水量と1時間最大降水量（単位：mm）

地点名	27日			28日		
	日降水量	1時間降水量		日降水量	1時間降水量	
		最大	時分		最大	時分
葛根田	60.5	9.5	17時15分	17.5	9.0	02時36分
雫石	67.0	10.5	15時53分	15.5	10.0	02時27分

## (2) 被害状況

(単位：千円)

区 分		被害額	被害状況	被害地域
林 業	森 林	888	県行造林小志戸前(2)事業区等 0.32ha	雫石町
計		888		

## 15 7月23日の地震災害

### (1) 気象概況

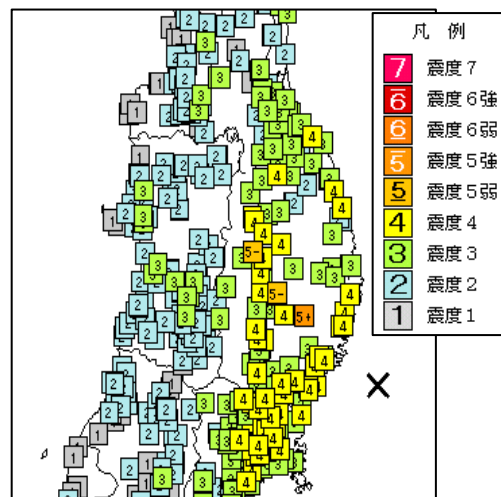
7月23日13時34分に宮城県沖の深さ47kmでマグニチュード6.4の地震が発生し、岩手県遠野市で震度5強を観測したほか、東北地方を中心に北海道から中部地方にかけて震度5弱～1を観測した。遠野市以外の岩手県の震度は、花巻市および滝沢村で震度5弱を観測したほか、震度4～2を観測した。

この地震により、岩手県では住家等の建物被害のほか、遠野市及び北上市で農業施設等に被害が発生した。

#### ○遠野市及び北上市の震度

震度観測点	震度
遠野市松崎町*	5強
遠野市宮守町*	4
北上市相去町*	4
北上市柳原町	3

注) \*印は岩手県または防災科学技術研究所の震度観測点を表す。



×は震央  
岩手県付近の観測点毎の震度分布図

### (2) 被害状況

(単位：千円)

区 分		被害額	被害状況	被害地域*
農 業	農業施設	11,367	花巻農協・米倉庫の損壊等2棟	北上市、遠野市
計		11,367		

※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

## 16 8月20日の大雨災害

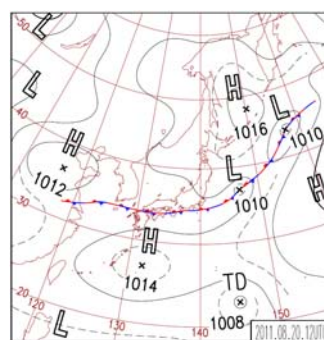
### (1) 気象概況

20日は、上空に寒気を伴った気圧の谷が北日本を通過した。県北部は大気の状態が不安定となり、発達した雷雲が発生した。盛岡地域付近は雷を伴って局地的に非常に激しい雨が降り大雨となる場所があった。

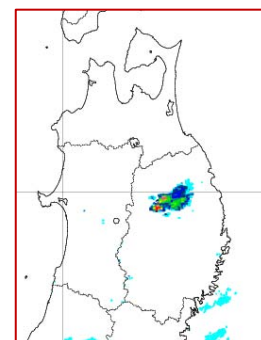
大雨により、盛岡市で浸水害や停電被害のほか、農地や農業施設に被害が発生した。

#### ○関連する警報・注意報の発表状況（盛岡市：8月20日）

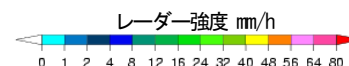
市町村	警報	注意報
盛岡市	大雨、洪水	大雨、洪水 雷(突風・ひょう)



地上天気図8月20日21時



レーダー画像8月20日20時20分



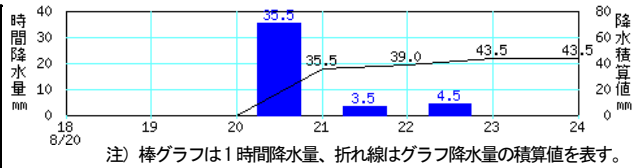


○降水量の観測値（8月20日）

盛岡市の降水量（単位：mm）

地点名	日降水量	1時間降水量		10分間降水量	
		最大	起時	最大	起時
好摩	43.5	38.5	21時19分	15.5	20時31分
藪川	0.0	0.0	—	0.0	—
盛岡	2.0	1.0	24時00分	1.0	23時55分

盛岡市好摩の時系列降水量（20日18時～24時）



(2) 被害状況

(単位：千円)

区 分		被害額	被害状況	被害地域
農 業	農地・農業 用 施 設	45,000	法面崩落 33 箇所	盛岡市
	計	45,000		

17 7月から9月にかけての暑熱災害

(1) 気象概況

夏（6月～8月）の気温：

7月下旬と8月後半には太平洋高気圧の張り出しが弱まり、一時低温の時期があったものの、高気圧におおわれ晴れて気温の高い時期が多く、夏（3か月）の平均気温は高かった。

7月中頃には久慈など5地点で7月として日最高気温の高い方からの1位の値を更新する日があった。8月10日から11日にかけては、山田で日最高気温と日最低気温の8月として高い方からの1位の値を更新した。

また、猛暑日（日最高気温35℃以上）となる日もあったほか、真夏日（日最高気温30℃以上）の日数は平年を上回るが多かった。東北地方の梅雨入りは遅く、梅雨明けはかなり早く、梅雨期間は18日間となり記録的に短かった（1967年の15日間に次ぐ第2位の短い記録）。

9月の気温：

月の前半は、南から暖かく湿った気流が入り気温は高く厳しい残暑となり、夏日が続く真夏日となるが多かった。2日と3日には種市など13地点で9月として日最低気温の高い方からの1位の値を更新した。

7月から9月中頃にかけての高温により、熱中症による人的被害のほか、北部を中心に久慈市や軽米町など9市町村で家畜のへい死の被害が発生した。

東北北部の梅雨入り・梅雨明け

種別	2011年	平年
梅雨入り	6月21日ごろ	6月14日ごろ
梅雨明け	7月9日ごろ	7月28日ごろ

○7月～9月の月平均気温と気温経過図

気象官署及び特別地域気象観測所

単位：℃

	7月			8月			9月		
	平均 気温	平年 差	階級 区分	平均 気温	平年 差	階級 区分	平均 気温	平年 差	階級 区分
盛岡	24.1	+2.3	かなり高い	24.2	+0.8	高い	20.2	+1.5	高い
宮古	21.1	+1.3	高い	23.0	+0.8	高い	19.9	+1.1	高い
大船渡	23.3	+2.3	かなり高い	23.6	+0.6	平年並	20.6	+1.1	高い

注) 値)はデータの一部に欠測があることを表す。

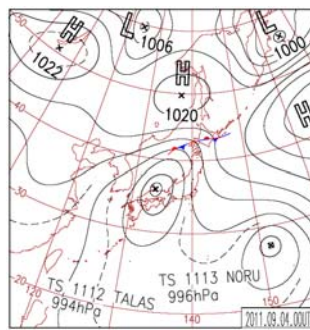


## 18 9月4日の台風12号による災害

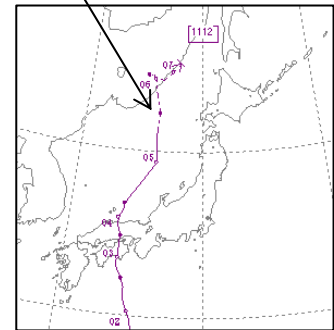
### (1) 気象概況

8月25日にマリアナ諸島の西海上で発生した台風12号は、9月3日に四国地方から中国地方をゆっくり縦断した。その後、5日にかけて日本海を北上し、5日15時に温帯低気圧に変わった。台風の動きが遅く、長時間にわたって台風周辺の湿った空気が流れ込み、2日から6日にかけての県内は、大雨や強風となるところがあった。

強風により、4日に住田町で農業施設に被害が発生した。



地上天気図9月4日09時



台風12号の経路図

#### 経路図の説明

経路上の○印は傍らに記した日の09時(午前9時)、●印は21時(午後9時)の位置で、-Iは消滅を示す。経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧または温帯低気圧の期間を示す。

### ○関連する警報・注意報の発表状況（9月4日）

地域	警報	注意報	地域	警報	注意報
盛岡地域	—	大雨、強風	久慈地域	—	強風
二戸地域	—	強風	宮古地域	—	大雨、強風
花北地域	大雨	大雨、強風	沿岸南部	大雨	洪水、強風
遠野地域	—	大雨、強風			
奥州金ヶ崎地域	大雨	大雨、強風			
両磐地域	大雨	洪水、強風			

### ○最大風速と最大瞬間風速の観測値（9月4日）

沿岸南部の日最大風速と日最大瞬間風速（単位：m/s）

地点名	日最大風速	日最大瞬間風速
釜石	東 3.9	東南東 10.6
住田	南南東 6.1	東南東 11.3
大船渡	南南東 8.1	南南東 12.4

### (2) 被害状況

(単位：千円)

区分		被害額	被害状況	被害地域
農業	農業施設	100	倒木によるパイプハウスの破損1棟	住田町
計		100		

## 19 9月21日から22日にかけての台風15号による災害

### (1) 気象概況

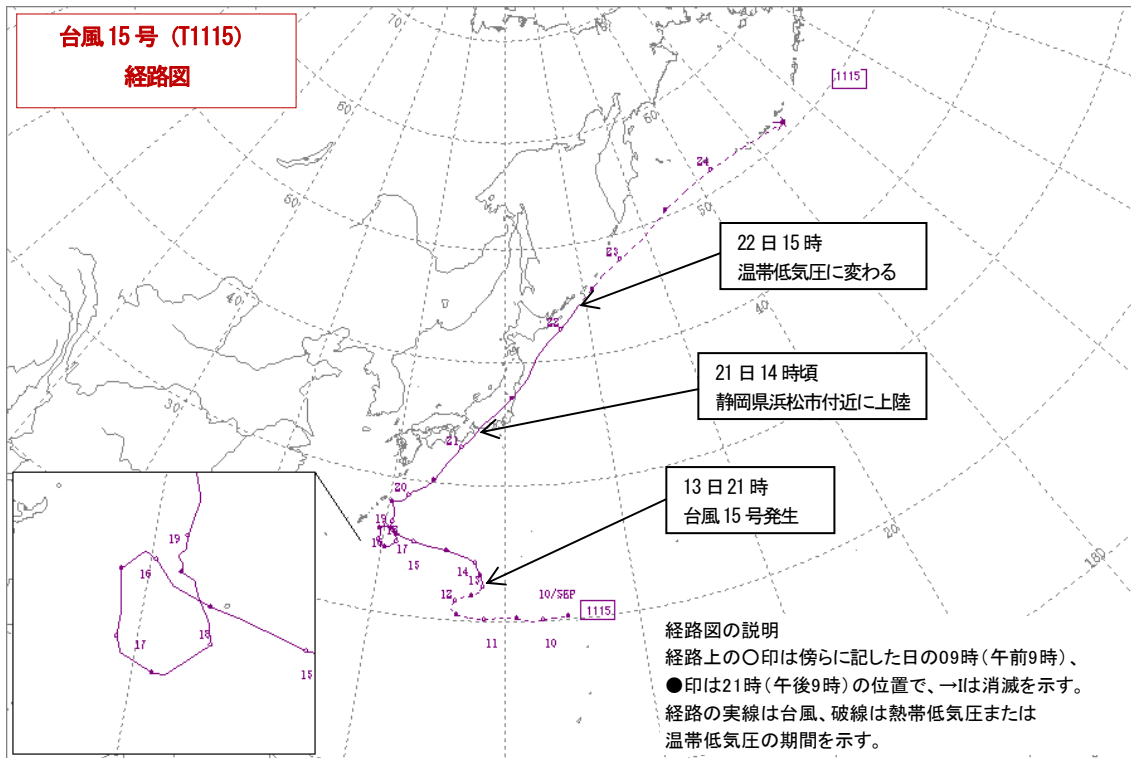
9月13日に日本の南の海上で発生した台風15号は、ゆっくり西北西に進んだ。15日頃から20日頃にかけて南西諸島付近に停滞したのち北東に進路を変え、非常に強い勢力を維持したまま21日14時頃には、静岡県浜松市付近に上陸した。台風15号はその後も北東に進み、21日夜遅くには福島県付近を通過し、22日未明には三陸沖に進み22日15時に温帯低気圧に変わった。

台風の北上に先立って本州付近に停滞する前線の活動が活発化したため、県内は20日から雨が降り続き、台風の接近した21日夜には激しい雨となった。20日00時（降り始め）から22日15時までの総雨量は岩泉町小本で273.0mm、釜石で267.5mm、久慈市下戸鎖で255.0mmの大雨となった。また、台風の接近と満潮が重なったため高潮となったほか、岩泉町小本では最大瞬間風速30.2m/sを観測するなど、海上や海岸付近を中心に暴風となり海上は大しけとなった。

21日の日降水量は久慈市下戸鎖と奥州市江刺で、22日の最大1時間降水量は普代で、それぞれ9月として1位の値を更新した。また、22日の日最大風速は紫波など4地点で9月として1位の値を更新した。

台風15号の影響により、県内各地で山がけ崩れ害や浸水害、強風害のほか、農作物や農業施設などに被害が発生した。また、沿岸や海上では波浪や高潮による被害が発生した。

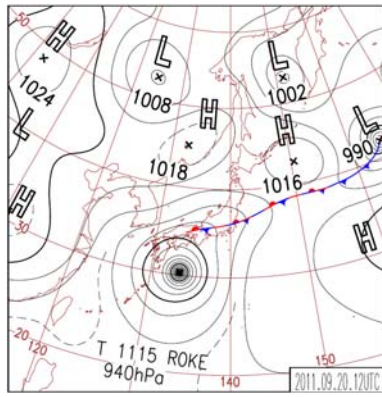
### ○台風15号の経路図



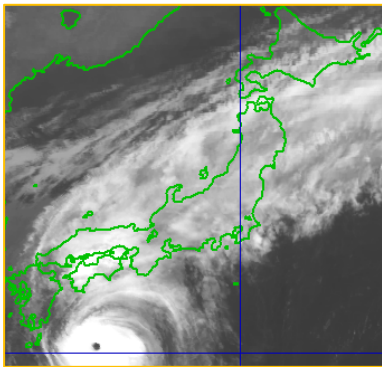
### ○警報・注意報の発表状況（9月20日～22日）

地域	警報	注意報	地域	警報	注意報
内陸	大雨、洪水	大雨、洪水、強風 雷、濃霧	久慈地域	大雨、洪水 暴風、波浪	大雨、洪水、強風 雷、濃霧、波浪、高潮
			宮古地域	大雨、洪水 暴風、波浪、高潮	大雨、洪水、強風 雷、濃霧、波浪、高潮
			沿岸南部	大雨、洪水 暴風、波浪、高潮	大雨、洪水、強風 雷、濃霧、波浪、高潮

○地上天気図、気象衛星赤外画像、レーダー画像（9月20日18時～22日03時）

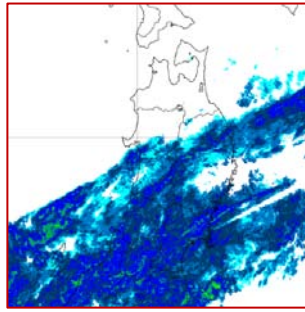


地上天気図9月20日21時

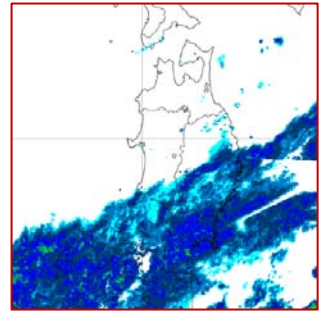


気象衛星赤外画像9月20日21時

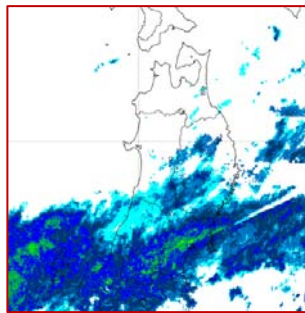
レーダー画像



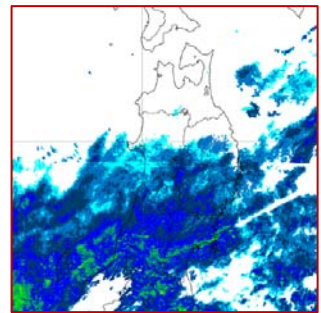
9月20日18時00分



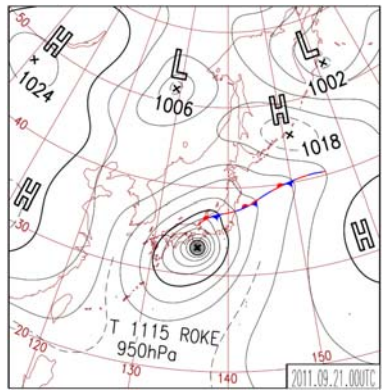
9月20日21時00分



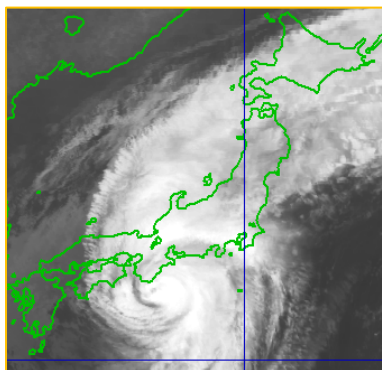
9月21日00時00分



9月21日03時00分

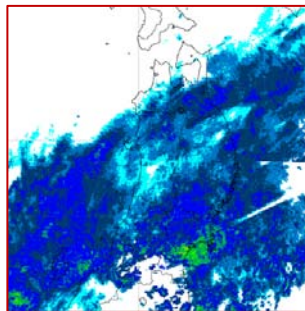


地上天気図9月21日09時

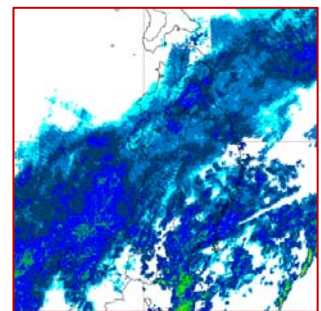


気象衛星赤外画像9月21日09時

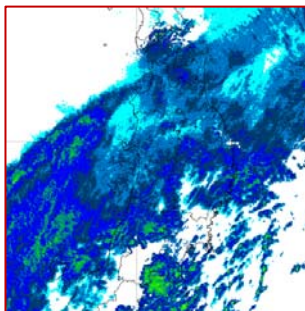
レーダー画像



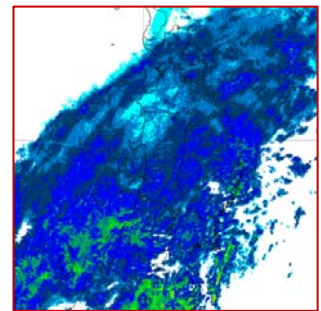
9月21日06時00分



9月21日09時00分

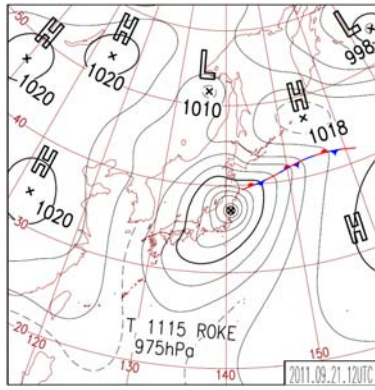


9月21日12時00分



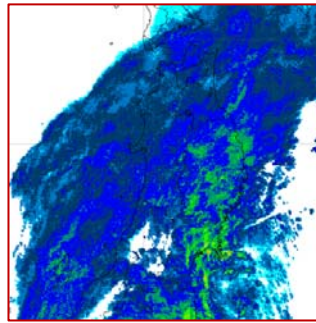
9月21日15時00分



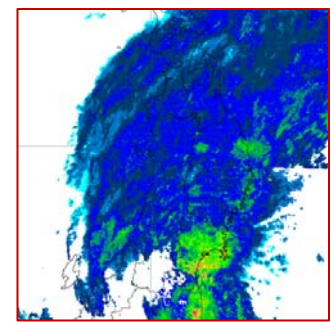


地上天気図9月21日21時

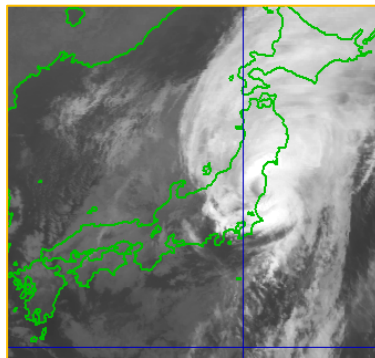
レーダー画像



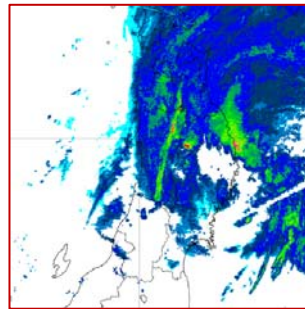
9月21日18時00分



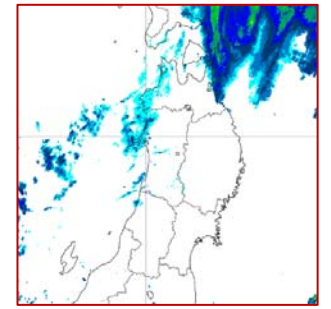
9月21日21時00分



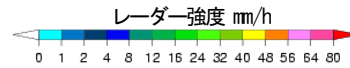
気象衛星赤外画像9月21日21時



9月22日00時00分

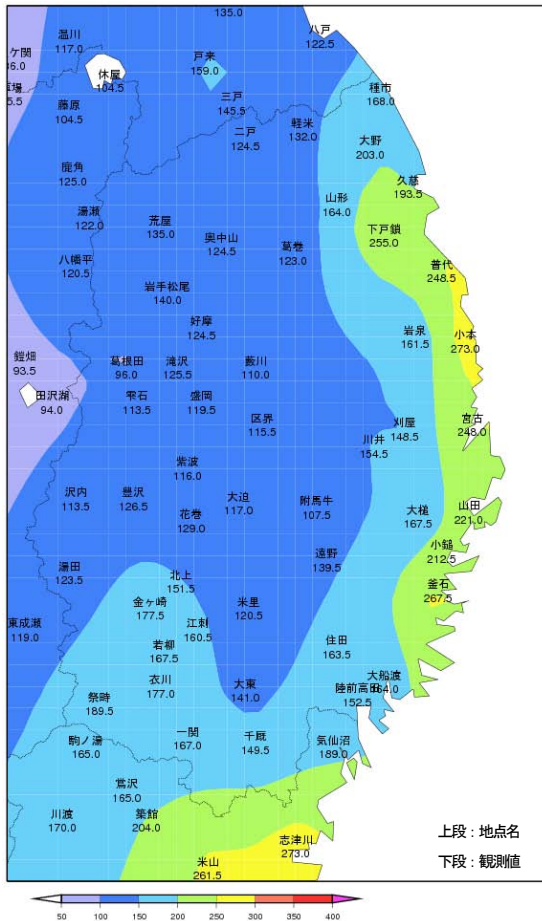


9月22日03時00分



○降水量分布図

9月20日00時～22日09時の降水量(単位:mm)



各地点の降水量(単位:mm)

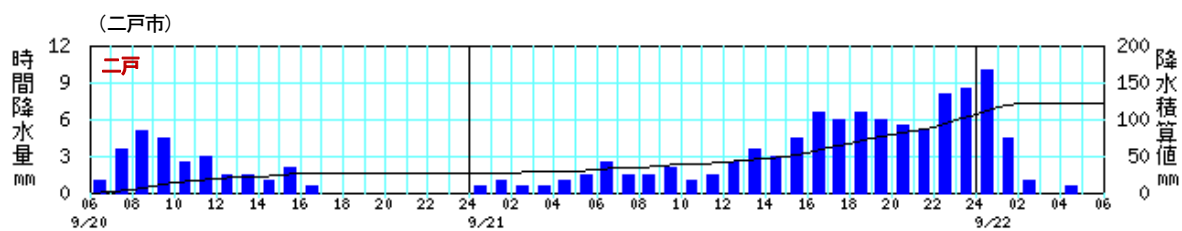
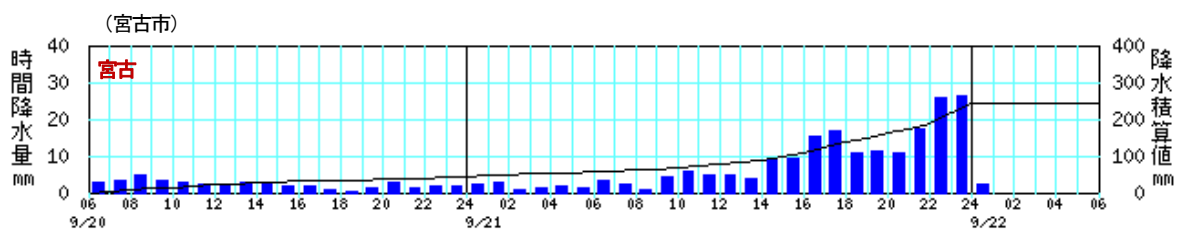
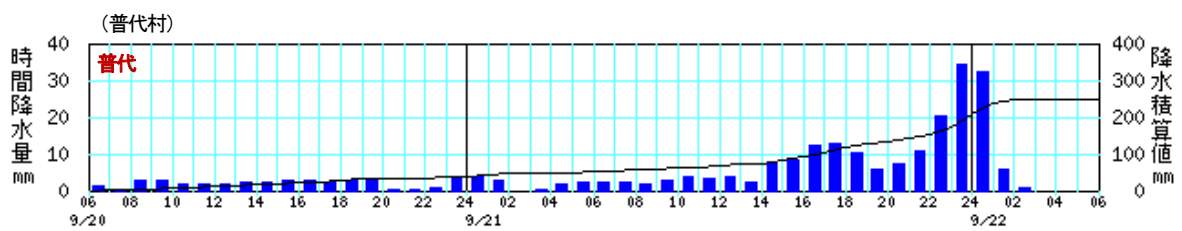
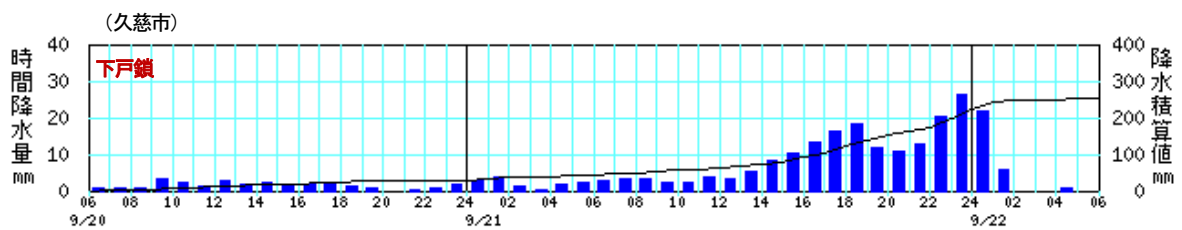
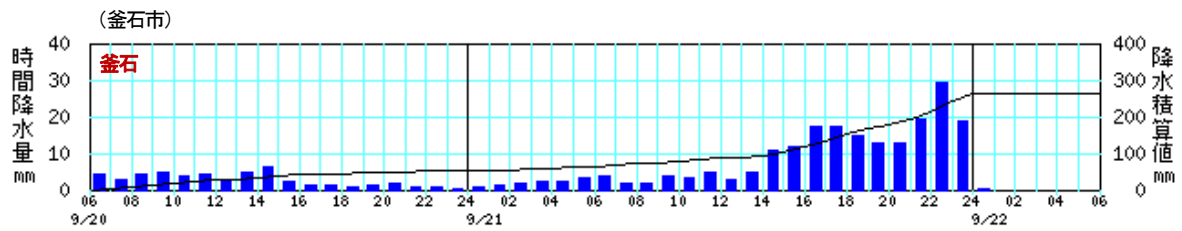
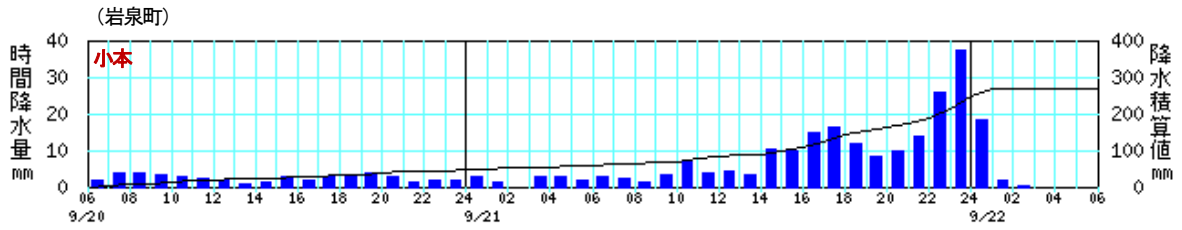
地点名	降水量 (mm)	地点名	降水量 (mm)
種市	168.0	沢内	113.5
軽米	132.0	豊沢	126.5
二戸	124.5	花巻	129.0
大野	203.0	大迫	117.0
山形	164.0	附馬牛	107.5
久慈	193.5	大槌	167.5
荒屋	135.0	山田	221.0
奥中山	124.5	湯田	123.5
葛巻	123.0	遠野	139.5
下戸鎖	255.0	小釜	212.5
普代	248.5	金ヶ崎	177.5
岩手松尾	140.0	北上	151.5
好摩	124.5	米里	120.5
岩泉	161.5	釜石	267.5
小本	273.0	若柳	167.5
葛根田	96.0	江刺	160.5
滝沢	125.5	住田	163.5
藪川	110.0	祭時	189.5
雫石	113.5	衣川	177.0
盛岡	119.5	大東	141.0
区界	115.5	陸前高田	152.5
刈屋	148.5	大船渡	164.0
宮古	248.0	一関	167.0
紫波	116.0	千厩	149.5
川井	154.5		

○主な地点の時系列降水量

9月20日06時～22日06時の総降水量（単位：mm）

注1) 棒グラフは1時間降水量、折れ線はグラフ降水量の積算値を表す。

注2) 縦軸のスケールは地点により異なる場合がある。



○最大風速と最大瞬間風速の観測値（9月21日～22日）

最大風速 10m/s 以上の地点の日最大風速と日最大瞬間風速（単位：m/s）

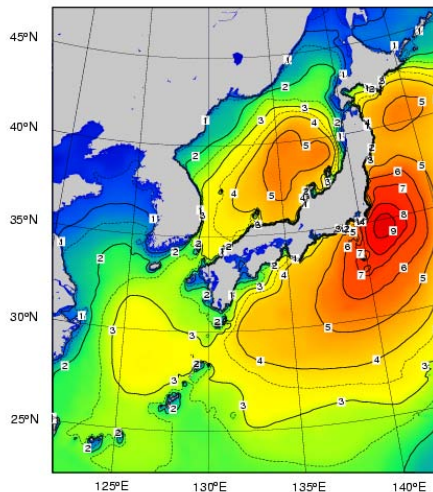
地点名	日最大風速		日最大瞬間風速		地点名	日最大風速		日最大瞬間風速	
	風向・風速	起時	風向・風速	起時		風向・風速	起時	風向・風速	起時
岩泉	東北東 11.8	23時59分	東北東 30.2	23時59分	紫波	北北西 16.6	23時50分	北北西 23.8	23時58分
盛岡	北 11.0	23時35分	北 19.4	23時26分	花巻	北 15.2	21時46分	北北西 21.6	23時58分
宮古	北北東 13.2	20時26分	北 25.3	23時13分					

9月22日

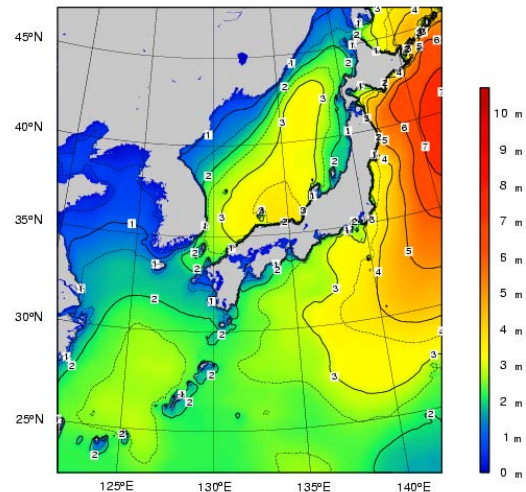
地点名	日最大風速		日最大瞬間風速		地点名	日最大風速		日最大瞬間風速	
	風向・風速	起時	風向・風速	起時		風向・風速	起時	風向・風速	起時
久慈	北 10.0	00時30分	北 21.9	00時22分	紫波	北北西 17.0	00時31分	北北西 23.3	00時46分
岩泉	東北東 12.1	00時05分	西南西 19.8	01時46分	花巻	北 15.2	01時07分	北 23.1	01時15分
雫石	北北東 10.6	02時01分	東北東 20.4	00時47分	若柳	北北西 10.0	02時21分	北北西 15.8	02時09分
盛岡	北 12.8	01時44分	北 24.3	01時37分	大船渡	北西 10.4	01時08分	北西 18.7	01時01分
宮古	北北西 11.8	00時04分	北西 25.7	01時59分					

注) 黄色の網掛けは9月として1位更新(統計期間5年以上の要素)

○沿岸波浪図（9月21日～22日）



沿岸波浪図9月21日 21時



沿岸波浪図9月22日 09時

【図の説明】

- ・波の高さを等高線で示す。等高線は、1mごとの実線と0.5mごとの破線（4m未満の領域のみ）を表示。
- ・波の高さは「有義波高」で示す。

○潮位の観測値

9月15日00時～22日24時の最大潮位偏差と最高潮位（速報値）

観測地点	最大潮位偏差		最高潮位	
	偏差 (cm)	起時	標高 (cm)	起時
宮古(臨時)	119	22日05時43分	142	22日11時21分
大船渡(臨時)	62	22日00時41分	81	21日20時29分

注1) 標高の基準は、TP（東京湾平均海面）または国土地理院の高さの基準もしくは平均潮位。

注2) 潮位偏差は推算潮位（天文潮位）からの偏差。

注3) 宮古、大船渡では、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」により検潮所が破損したため、7月下旬以降は臨時観測点で観測を行っている。



○主な極値更新

9月として1位更新（統計期間5年以上の要素）

要素名	単位	地点名	順位	値	起日	統計期間
日降水量	mm	下戸鎖	1	192.0	2011年9月21日	1979年～
		江刺	1	112.0	2011年9月21日	1976年～
日最大1時間降水量	mm	普代	1	43.5	2011年9月22日	1977年～
日最大風向・風速	m/s	岩泉	1	東北東 12.1	2011年9月22日	1977年～
		紫波	1	北北西 17.0	2011年9月22日	1977年～
		花巻	1	北 15.2	2011年9月22日	2003年～
		若柳	1	北北西 10.0	2011年9月22日	1977年～

(2) 被害状況

(単位：千円)

区 分		被害額	被害状況	被害地域※
農 業	農作物等	417,985	水 稲：冠水・倒伏 1,457.92ha 豆・雑穀：冠水・倒伏（大豆、そば） 142.52ha 野菜類：冠水・倒伏（トマト、きゅうり、キャベツ、さといも、 ねぎ等）55.22ha 果 樹：りんご、なしの落下等 174.24ha 飼料作物：冠水・倒伏（牧草、デント コーン）340.11ha 花き等：冠水（りんどう、小菊、葉 たばこ）4.02ha	滝沢村、一関市、陸前高田市等 24 市町村
	家 畜 等	12,000	ブロイター：浸水によるへい 24,000羽	二戸市
	農業施設	19,527	ビニールハウス等の破損等 41 箇所	二戸市、久慈市、滝沢村等 9 市町村
	農地・農業 用 施設	1,278,000	法面の崩落等 363 箇所 水路・農道法面の破損等 380 箇所	九戸村、洋野町、二戸市等 23 市町 村
	林 業	318,994	林道・作業道：法面の崩落、路面流出等 208 箇所 作業道：路肩決壊、路面流出 13 箇所 治山施設：山腹崩壊 5 箇所 特用林産施設：菌床しいたけハウスの 破損 1 箇所	葛巻町、久慈市、軽米町等 19 市町 村
	林 産 物	2,300	木材チップの流出 17m <sup>3</sup> 木炭製造中の炭窯浸漬 18,360kg 菌床しいたけの浸水 60kg	軽米町、洋野町、久慈市等 4 市町村
	森 林	103	県有林の山腹崩壊 0.04ha	葛巻町
	林地荒廃	663,859	山腹崩壊、土砂流出（人的被害あり） 26 箇所	二戸市、住田町、九戸村等 7 市町村
水 産 業	水産施設	10,281	漁船巻揚機の損壊、ふ化場の冠水等 12 箇所	野田村、洋野町、久慈市等 5 市町村
	漁 船	8,300	漁船の転覆・水没 3 隻	大槌町、洋野町、山田町
	漁 具	167,330	定置網の被災 16 ケ統(箇所)	普代村、洋野町、大槌等 4 町村
	水 産 物	15,315	養殖のアユ、ヤマメ（稚魚含む）、 イワナ等の流出 8,990kg	二戸市、岩泉町、宮古市
	漁港施設	12,700	島の越漁港 3・5m岸壁の倒壊 1 箇所 漁港内への流木等の流入等 4 箇所	田野畑村、普代村、野田村等 4 市村
計		2,926,694		

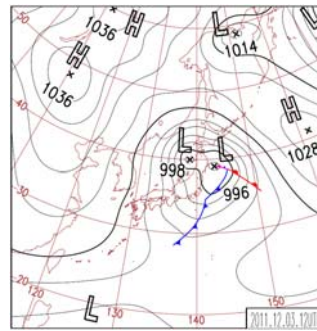
※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

## 20 12月3日から4日にかけての強風、波浪災害

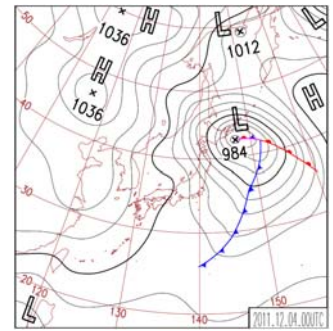
### (1) 気象概況

3日は、日本海の低気圧が発達しながら東北地方北部を通過した。また、別の低気圧が発達しながら三陸沖を北東進した。4日は、これらの低気圧が北海道の東海上で一つにまとまって急速に発達し、東北地方は強い冬型の気圧配置となった。3日から4日にかけては、県内は雪を伴って強風となるところがあり、4日の最大風速は八幡平市岩手松尾や奥州市若柳など6地点で12月として1位の値（八幡平市岩手松尾は年としても1位の値）を更新した。また、沿岸の海上では暴風やしけとなった。

強風により、停電や交通障害のほか、内陸を中心に農業施設に被害が発生した。また、大槌町では漁船の被害が発生した。



地上天気図 12月3日 21時



地上天気図 12月4日 09時

### ○関連する警報・注意報の発表状況（12月3日～4日）

地域	警報	注意報
内陸	—	強風、風雪
久慈地域	暴風、波浪	強風
宮古地域	暴風、波浪	強風、高潮
沿岸南部	暴風、波浪	強風、高潮

### ○最大風速と最大瞬間風速の観測値（12月4日）

最大風速 10 m/s 以上の地点の日最大風速と日最大瞬間風速（単位：m/s）

地点名	日最大風速	日最大瞬間風速	地点名	日最大風速	日最大瞬間風速
久慈	西 12.7	西 24.9	川井	南南西 10.5	南南西 25.7
奥中山	西 10.6	西 24.2	沢内	西南西 10.0	西南西 20.4
岩手松尾	西北西 13.8	西 27.3	花巻	西 12.7	西 20.6
好摩	西 10.0	西 18.0	釜石	西北西 11.1	西 24.0
岩泉	西 12.6	西南西 24.8	若柳	西 15.1	西北西 29.4
小本	西 11.6	西南西 23.6	江刺	西北西 15.2	西北西 25.4
雫石	西 13.0	西 20.8	住田	西北西 11.8	西北西 21.9
盛岡	西 10.5	西北西 21.2	大船渡	北北西 12.2	北西 27.2
紫波	西 17.3	西 26.2	千厩	西北西 12.0	北西 23.4

注1) 黄色の網掛けは12月として極値更新(統計期間5年以上の要素)。

注2) 橙色の網掛けは年としても極値更新(統計期間5年以上の要素)。

### (2) 被害状況

(単位：千円)

区分	被害額	被害状況	被害地域*	
農業	農作物等	831	りんごの落下、損傷 1.00ha	釜石市
	農業施設	29,858	ビニールハウス被覆材被害等 375棟	奥州市、金ヶ崎町、一関市等 9市町
水産業	漁船	500	漁港においていた新造船が転倒 1隻	大槌町
計	31,189			

※「被害地域」の欄の市町村は、被害額が多い順に記載。

## IV 主な農林水産業気象災害における対策等の概要

### 1 12月30日から1月2日にかけての大雪、暴風、波浪災害

#### (1) 農作物被害に対する対策

##### ア 技術対策等

大雪による農業施設被害等に対応するため、農業施設の復旧作業及び除雪作業に当たっての事故防止や酪農における乳房炎対策について、「農作物技術情報 号外 大雪被害に伴う復旧対策」(1月6日)を発行し、関係機関・団体に対し、メール等で周知するとともに、ホームページによる公開、報道機関への連絡など、農家への周知に努めた。

##### イ 被災農家への対策

大雪等に伴う農作物技術対策について、情報提供を行うとともに、農業施設の被害防止やりんごの野そ被害防止に向けた技術指導を実施した。

農業共済の対象となる園芸施設(パイプハウス等)や建物(住宅、作業小屋等)等については、農家からの被害申告を徹底させるとともに、迅速かつ適切な現地確認や損害評価の実施により共済被害量・共済金支払額を確定させ、共済金の早期支払が行われるよう農業共済団体を指導した。

また、被害を受けた農林水産業者への資金の円滑な融通等が図られるよう金融機関等に協力要請するとともに、生産活動の継続や再開のための制度資金の紹介等を行う融資相談窓口を本庁及び広域振興局等に設置して助言等を行った。

#### (2) 畜産関係被害に対する対策

##### ア 被災畜産農家への対策

停電に伴う搾乳機器、生乳保冷機器(バルククーラー)の稼働不能で、搾乳できなかったことにより、乳牛の体調不良(乳房炎等)が懸念された酪農家に聞き取りし、県、市町村、農業団体等で構成する「酪農の郷サポートチーム」で「技術情報」を活用した飼養管理指導を行った。

農業共済の対象となる畜舎等の損壊や畜舎等の損壊等により死亡・廃用等となった家畜(牛、豚)については、農家からの被害申告を徹底させるとともに、迅速かつ適切な現地確認や損害評価の実施により共済被害量・共済金支払額を確定させ、共済金の早期支払が行われるよう農業共済団体を指導した。

#### (3) 農業施設被害に対する対策

##### ア 復旧対策事業

暴風、波浪、大雪等で被災した地域の農業の復興を図るため、いわて希望農業担い手応援事業費補助で、新たな産地づくりに必要な施設等の整備を支援した。

表1 いわて希望農業担い手応援事業による農業施設の復旧支援状況

(金額単位：千円)

広域局名	市町村名	事業費	補助金額	主な事業内容
盛岡	盛岡市	24,726	8,242	パイプハウス19棟、畜舎1棟
	八幡平市	8,394	2,798	パイプハウス15棟
	葛巻町	61,227	20,409	パイプハウス3棟、畜舎2棟、堆肥舎15棟
	岩手町	17,901	5,967	パイプハウス20棟(しいたけ栽培用ハウス含む)
	滝沢村	9,960	3,320	パイプハウス4棟(しいたけ栽培用ハウス含む)
	矢巾町	8,118	2,706	パイプハウス5棟
	(計)	130,326	43,442	パイプハウス66棟(しいたけ栽培用ハウス含む)、畜舎3棟、堆肥舎15棟
県南	花巻市	14,175	4,725	パイプハウス8棟、ぶどう棚9件(1.4ha)

沿 岸	宮古市	25,872	8,624	パイプハウス 14 棟、畜舎 3 棟、育苗施設 1 棟
	岩泉町	35,895	11,965	パイプハウス 24 棟(しいたけ栽培用ハウス含む)、畜舎 1 棟、農機具格納庫 1 棟
	田野畑村	1,545	515	畜舎 1 棟
	(計)	63,312	21,104	パイプハウス 38 棟(しいたけ栽培用ハウス含む)、畜舎 5 棟、育苗施設 1 棟、農機具格納庫 1 棟
県 北	一戸町	5,847	1,949	パイプハウス 9 棟
	九戸村	4,515	1,505	堆肥舎 2 棟
	(計)	10,362	3,454	パイプハウス 9 棟、堆肥舎 2 棟
計	218,175	72,725	パイプハウス 121 棟(しいたけ栽培用ハウス含む)、ぶどう棚 9 件(1.4ha)、畜舎 8 棟、堆肥舎 17 棟、育苗施設 1 棟、農機具格納庫 1 棟	

※平成 22 年 12 月 22 日から 23 日にかけての暴風、波浪、大雪被害等と、平成 22 年 12 月 24 日から 26 日の大雪被害の復旧対策と併せて実施。

#### (4) 林業関係被害に対する対策

##### ア 林産物被害に対する対策

暴風雪等により、しいたけ栽培用ハウスが倒壊し、菌床しいたけブロック破損等で、4 箇所、106,267 千円の被害となった。

その復旧に当たっては、生産者の自力復旧によるほか、保険等の補償により対応した。

##### イ 森林被害に対する対策

大雪の影響により内陸北部を中心に倒木等の被害が発生した。復旧にあたっては、森林整備事業等による被害木の除去等に対し支援している。

#### (5) 水産関係被害に対する対策

##### ア 被災漁家への対策

既存の制度資金では十分な対応が難しい定置網の復旧に対しては、定置網の購入・修繕に要する資金を貸し付けするため、県単独の定置網復旧緊急支援資金を創設するなどして対応した。

##### イ 復旧対策事業

養殖施設の流失や破損、養殖生産物被害など、宮古以北の海域を中心に大きな被害が発生したことから、養殖施設の復旧について県単独事業による支援を平成 22 年度 2 月補正予算で措置するとともに、国の平成 23 年度補助事業を導入して支援することとしたほか、被害資材の廃棄処分及び養殖種苗の購入について県単独事業による支援を同 2 月補正予算において措置したが、その直後に東日本大震災津波によってより甚大な被害を受けることとなった。

#### (6) 漁港関係被害に対する対策

漁港施設について、公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法（以下「負担法」）の採択基準を満たす被害があり、沿岸北部のほか大槌町、大船渡市の県営・市町村営漁港において防波堤の損壊、消波ブロックの飛散等の被害が発生し、国に対し 18 箇所 1,030,848 千円の採択を申請した。

また、沿岸漁場整備開発施設（以下「漁場施設」）について、農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律（以下「暫定法」）の採択基準を満たす被害があり、宮古市と岩泉町の県営施設において離岸潜堤の飛散等の被害が発生し、国に対し 6 箇所 428,626 千円の採択を申請した。

国による災害査定は、3 月 1 日から 4 日にかけて実施され、負担法では 18 箇所 788,726 千円が採択され、暫定法では 6 箇所 278,536 千円が採択された。

なお、このうち負担法の 11 箇所と暫定法の 4 箇所が 3 月 11 日の東日本大震災津波により増破し、後災に転属されている。

## 2 3月11日の東日本大震災津波

### (1) 農作物被害に対する対策

#### ア 技術対策等

地震及び津波被害に対応する技術情報について、「農作物技術情報 第1号」（3月23日）、「農作物技術情報 水稲 地震対策追補」（3月29日）、「農作物技術情報 号外 地震対策に伴う復旧作業の留意点」（4月8日）、「農作物技術情報 第2号」（4月26日）を発行し、関係機関・団体に対し、メール等で周知するとともにホームページによる公開、報道機関への連絡など、農家への周知につとめた。また、指導者を対象として「平成23年東北地方太平洋沖地震及び津波災害の復旧・復興に係る営農技術マニュアル」（4月8日）を作成し、除塩対策等の技術を徹底した。

そのほか、関係機関・団体に対し、東北地方太平洋沖地震の被災地域等における営農準備のための技術指導通知を発出（4月1日）した。

#### イ 被災農家への対策

沿岸各地域において、関係機関、団体が参集した農業復興対策会議等を開催し、情報共有を図り、農業復旧に向けて取組を行った。

また、農業改良普及センターでは、関係機関、団体と連携し、避難所等を巡回しての営農相談や説明会を開催し、作付意欲のある農家に対して除塩対策等の相談・指導を行うとともに、津波被災農地土壌の土壌分析や、除塩実証ほの設置による、稲作技術支援を実施した。

農業共済の対象となる園芸施設（パイプハウス等）や農作物（麦）、建物（住宅、作業小屋等）については、農業共済組合における被災農家への支援体制を早急に確立するとともに、農家からの被害申告を徹底させ、迅速かつ適切な現地確認や損害評価の実施により共済被害量・共済金支払額を確定のうえ、共済金の支払が早期に行われるよう農業共済団体を指導したほか、津波による浸水があった水田において除塩対策により収穫が可能となる場合の共済引受の取扱いや、共済掛金払込期限の延長等の対応について周知した。

また、融資機関に対し、資金の円滑な融通を図るとともに、償還期間の延長等借入金償還の負担軽減等が行われるよう依頼を行った。

#### ウ 販売対策

県産農林水産物の販路回復・拡大・安定化を目的に、量販店での物産展（主に首都圏、中京圏で6回開催）や県外から寄せられる復興支援イベント等（企業や自治体等主催の17件に対応）に、被災事業者等の参画を支援した（いわて食財販路回復・拡大推進事業費、農林水産物共通）。

また、被災した地方卸売市場施設の災害復旧を促進するため、事業費補助を実施した（卸売市場施設災害復旧事業費補助）。

### (2) 畜産関係被害に対する対策

#### ア 技術対策等

停電や長期間にわたる燃油不足、飼料不足が継続する中で、被害を最小限に食い止めるため、畜産農家に対して、給餌制限や衛生管理など飼養管理の指導を徹底した。

#### イ 被災畜産農家への対策

八戸・石巻地区の飼料工場の損壊に伴う飼料供給の停止により、県内の畜産農家においては、家畜の死亡や生乳の廃棄、出荷遅延による肉質低下等の被害が発生した。

家畜飼料、燃油の安定的な確保や、災害派遣等従事車両として家畜飼料運搬車両を取り扱うことなどを国へ要請し、国や業界団体を通じて、家畜飼料や燃油の供給について支援した。

農業共済の対象となる畜舎等の損壊や畜舎等の損壊等により死亡・廃用等となった家畜

(牛、豚)については、農業共済組合における被災農家への支援体制を早急に確立するとともに、農家からの被害申告を徹底させ、迅速かつ適切な現地確認や損害評価の実施により共済被害量・共済金支払額を確定のうえ、共済金の支払が早期に行われるよう農業共済団体を指導したほか、家畜共済掛金払込期限の延長や現地確認等の取扱いなどについて周知した。

#### ウ 復旧対策事業

家畜導入事業資金供給事業により、沿岸地域の被災繁殖農家への家畜導入を支援するとともに、被災地域の繁殖農家に対する県有種雄牛精液 260 本を無償で提供した。

また、肉用子牛生産者補給金制度の対象子牛の要件緩和、生産者積立金の支払い猶予や、肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン)の登録申請期限の要件緩和、生産者積立金についての納付期限延長、免除を国へ要請し、国や農業団体を通じて畜産農家の負担軽減を行った。

東日本大震災津波及びその影響で死亡した家畜、家禽の円滑かつ適正な処理を行うため、被災家畜円滑処理事業を創設(国庫)し、畜産経営の継続、早期再開や、死亡家畜放置による公衆衛生上の問題発生を防ぐ対策を講じた。

表2 被災家畜円滑処理事業の実績

家畜の種類	処理頭数	補助金額	備考
牛	7 頭	43 千円	埋却、焼却処理
豚	506 頭	1,214 千円	化製処理
鶏	2,255,574 羽	65,791 千円	化製、埋却、焼却処理
中雛	1,794,717 羽	16,153 千円	化製処理
合計	—	83,201 千円	

#### エ 販売対策

東京電力原子力発電所事故による本県産牛に対する消費者の不安等を解消する風評被害防止対策として、県内外に出荷される県産牛全頭の放射性物質検査を実施するための施設整備((株)岩手畜産流通センター)及び経費の助成を行った(岩手県東日本大震災農業生産対策交付金事業、県産牛肉安全安心確立緊急対策事業)。

知事によるトップセールス(いわての牛肉安全宣言)等の結果、東京食肉市場での枝肉価格は震災前の水準に回復しつつある。

### (3) 農業施設被害に対する対策

#### ア 復旧・復興対策事業

農業協同組合や市町村が所有する被災共同利用施設のうち、復旧事業費 40 万円以上となる 20 施設については、国庫補助の農林水産業共同利用施設災害復旧事業により復旧することとし、国に対して 20 箇所 57,806 千円の採択を申請した。

国による災害査定は、8 月から 12 月にかけて実施され、20 箇所 54,207 千円が採択され、年内には全箇所の復旧工事が完了した。

なお、現在は県内全域が激甚災害地域に指定されており、激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律(以下「激甚法」)に基づく国庫補助率は 40 万円まで 3/10、40 万円超 5/10 であるが、さらに激甚法に基づく「告示地域」に指定された場合は、それぞれ 4/10、9/10 となる。

被災した地域の農業の復興を図るため、東日本大震災農業生産対策交付金(国庫)で、被災した施設・機械の再整備、新たな産地づくりに必要な施設等の整備を支援した。

表3 東日本大震災農業生産対策交付金による農業施設等の復旧支援状況

(金額単位：千円)

広域局名	市町村名	事業費	補助金額 (国+県)	主な事業内容
盛岡	盛岡市	12,495	5,950	ライスセンター等の整備

	八幡平市	7,350	3,500	野菜集荷施設の整備
	矢巾町	38,569	18,533	カントリーエレベーター等の復旧
	雫石町	37,365	17,793	ライスセンター等の整備
	(計)	95,779	45,776	
県南	奥州市	1,683,038	791,982	カントリーエレベーター等の整備
	花巻市	69,038	32,875	カントリーエレベーターの整備
	北上市	103,130	53,020	カントリーエレベーター等の整備
	遠野市	86,634	41,253	カントリーエレベーター等の整備
	一関市	378,451	184,227	カントリーエレベーター等の整備、生産資材の購入
	金ヶ崎町	4,969	2,432	カントリーエレベーター等の整備
	平泉町	69,195	31,665	カントリーエレベーターの復旧
	(計)	2,394,453	1,137,454	
沿岸	大船渡市	49,654	26,971	乾燥調製施設、集出荷貯蔵施設等の整備
	陸前高田市	303,955	191,802	乾燥調製施設等の整備、リース用機械の購入支援
	住田町	26,160	16,606	リース用機械の購入支援
	山田町	26,374	17,581	生産資材や農業機械の購入支援
	大槌町	1,676	1,116	生産資材の購入
	田野畑村	49,521	23,581	野菜集荷施設の整備
		(計)	457,339	277,657
県北	二戸市	3,749	1,785	野菜集荷施設等の整備
	洋野町	51,315	32,579	野菜集荷施設の整備、生産資材の購入
	一戸町	24,219	11,533	野菜集荷施設の整備
	野田村	19,523	12,394	野菜集荷施設の整備
		(計)	98,805	58,291
その他	団体	56,396	28,198	畜産物処理加工施設の整備
	計	3,102,773	1,547,376	

#### (4) 農地・農業用施設被害に対する対策

被災した農地及び農業用施設のうち、復旧事業費 40 万円以上の箇所について、暫定法に基づく国庫補助の災害復旧事業により復旧することとし、国に対し 925 箇所 15,259,309 千円の採択を申請した。

国による災害査定は、5 月から 12 月にかけて実施され、925 箇所 12,802,864 千円が採択された。

なお、国庫補助率は農地 50%、農業用施設 65%が基本であるが、本災害に係る国庫補助率は、暫定法による補助率増高及び激甚法に基づく特別措置の適用を申請したことにより、県平均で農地 97.9%、農業用施設 99.3%となった。

津波による海水の侵入のため農用地が受けた塩害を除去するため、事業費 40 万円以上の箇所について、農用地の除塩にかかる特定災害復旧事業により除塩を行うこととし、国に対し 115 箇所 1,755,470 千円の採択を申請した。

国による災害査定は、9月から12月にかけて実施され、115箇所1,711,342千円が採択された。

なお、国庫補助率は90%となっている。

被災した農業集落排水施設のうち、復旧事業費200万円以上の箇所について、災害関連農村生活環境施設復旧事業により復旧することとし、国に対し19箇所506,561千円の採択を申請した。

国による災害査定は、6月から11月にかけて実施され、19箇所494,001千円が採択された。

なお、国庫補助率は50%が基本であるが、東日本大震災特財法により、特定被災地方公共団体に指定された市町村は80~90%に補助率が嵩上げされる。

被災した農地海岸保全施設について、負担法に基づく国庫負担の災害復旧時量により復旧することとし、国に対し15箇所19,454,453千円の採択を申請した。

国による災害査定は、10月から12月にかけて実施され、15箇所19,251,780千円が採択された。

なお、国庫負担率は66.7%が基本であるが、激甚法に基づく特別措置の結果、97.2%となった。

## (5) 林業関係被害に対する対策

### ア 林業施設被害に対する対策

木材加工施設や林業機械等が損壊・流失し、その規模は46箇所13,005,851千円となった。また、しいたけや木炭等特用林産施設が損壊・流失し、その規模は87箇所272,947千円となった。

木材加工施設については、木材供給緊急対策事業（国の一次補正）により、被災した木材加工施設において、加工機械の入替や建屋の修繕を行った（久慈、宮古地区3件、421,375千円）。また、同事業により、販路を失った原木等を県内外の木材加工施設に運搬する経費を支援した（77事業体、約13万 $m^3$ 、225,524千円）。

特用林産施設については、原木しいたけ生産復旧事業により、被災した生産組合等に対し、ホダ木や乾燥機の整備を支援した（8事業体、13,523千円）。

地震による林業施設（治山施設）の崩壊・破損及び津波による防潮堤等の倒壊・流失被害が生じ、その規模は55箇所8,077,533千円と過去最大のものとなった。

被災した林業施設（治山施設）のうち、復旧事業費が120万円以上の箇所について、負担法に基づく災害復旧事業により復旧することとし、陸前高田市ほか6市2町2村の治山施設19箇所9,179,575千円について、国に対して査定申請を行った。

現地査定（第1次：平成23年8月から第5次：平成24年3月）の結果、19箇所8,869,180千円（仮決定分を含む）が国庫負担の災害復旧事業として採択された（年度内の復旧工事完了は3箇所）。

なお、国庫負担率は、負担法及び激甚災害指定に係る特別財政援助額の加算に該当したため97.2%となった。

地震による林業施設（林道施設）の路面クラック・法面崩壊被害が生じ、その規模は106路線473箇所789,793千円となった。

被災した林業施設（林道施設）のうち、暫定法に基づき、28路線84箇所581,142千円を申請した。

国による災害査定は、平成23年8月から10月までの間に5回にわたって実施され、査定の結果、28路線84箇所555,295千円が採択された。

### イ 林産物被害に対する対策

素材丸太や製材品等が流失し、その規模は30,437 $m^3$  570,772千円となった。また、しいたけの菌床ブロックが落下・流失したほか、しいたけホダ木が流失し、その規模は922.2千本・千玉 169,913千円となった。さらに、チップ等木質バイオマス燃料が流失し、その規模は2,460 $m^3$  9,000千円、乾しいたけ等の特用林産物が流失し、その規模は4,111kg 4,250千円となった。

流失した素材丸太については、木材供給緊急対策事業（国の一次補正）により、回収を支援した（1,125 $m^3$  980千円）。また、菌床ブロックについては、菌床しいたけ生産復旧



事業により、菌床の再整備を支援した（1事業体 63,627千円）。

#### ウ 森林被害に対する対策

大槌町、釜石市、山田町及び宮古市において、地震及び津波の後に発生した住宅火災等からの延焼による林野火災が発生した。復旧に当たっては、森林所有者の意向を確認したうえで、森林整備事業等による被害木の除去や再造林等に対し支援することとしている。

潮害防備などの保安林26箇所において、津波により立木がほぼ流失するなどの甚大な被害が発生し、その規模は約67ha、5,329,938千円となった。

そのうち、被害を受けた県有防潮林の撰待地区（宮古市）及び浦の浜地区（山田町）の2箇所については、津波で流失した林帯（土壌）の復旧に向け、負担法に基づく災害復旧事業に平成23年度から着手した。

また、その他の防潮林の植栽については、近接する海岸工事（防潮堤等）の復旧進度を見据えながら、植栽が可能と判断される事業区において、平成25年度から順次行うこととしている。

#### エ 林地荒廃に対する対策

地震による比較的小規模な山腹崩壊が一関市及び二戸市を中心として発生し、35箇所763,384千円の被害となった。

特に、人家等の保全対象に近接しており緊急度が高い4箇所のうち、一関市の2箇所については災害関連緊急治山事業（事業費46,304千円）で復旧することとした。

また、災害関連緊急治山事業の採択要件に満たない2箇所（一関市1、釜石市1）については、平成23年度予防治山事業（事業費50,036千円）で早期の復旧を図った。

平成24年度は、予防治山事業により6箇所（奥州市1、一関市3、大船渡市1、大槌町1）で、被災箇所の復旧整備を実施することとしている。

### (6) 水産関係被害に対する対策

#### ア 被災漁家への対策

東日本大震災津波で被害を受けた漁業者等の既往債務の負担軽減等を図ることを目的として、岩手県信用漁業協同組合連合会が創設した新たな資金制度の無利子化を図るため、市町村等と連携して利子補給制度を創設するなどして対応した。

また、漁業を再開するまでの収入対策として、国の漁場復旧対策支援事業、緊急雇用創出事業を導入し、漁場等のガレキの回収処理や漁協が行う養殖施設や定置網の復旧作業への従事を通じて被災した漁業者の生活を支援した。

#### イ 復旧対策事業

水産業においては、漁船、定置網、養殖施設及び浸水域の生産・流通・加工関連施設などの殆どが被災し、壊滅的な被害を受けたことから、国に対して国家プロジェクトとしての全面的な支援を要望し、国の3次におたる補正予算を導入しながら、地域に根ざした水産業を再生するため、漁業協同組合を核とした漁業、養殖業の構築と産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築を一体的に進めることとし、各種の復旧対策事業に取り組んだ。

表4 平成23年度水産関係（非公共）の主な復旧・復興事業

（金額単位：千円）

事業名	事業概要	予算額 (2月現計)	国の事業名 補助率等
漁業協同組合等機能回復支援事業	・事務所の修繕、仮設事務所の整備 ・OA機器、机・椅子、車両等の購入等	62,502	水産業共同利用施設復旧支援事業（一部県単）
水産団体機能回復支援事業	・加工組合、魚市場等の事務所機能の復旧	28,854	（県単）
共同利用漁船等復旧支援対策事業	・共同利用漁船の取得、修繕 ・定置網等の漁具の取得	39,581,149	共同利用漁船等復旧支援対策事業

水産養殖施設災害復旧事業	・激甚災害法に基づく養殖施設（個人施設）の原形復旧	714,221	養殖施設災害復旧事業
水産業経営基盤復旧支援事業（養殖施設）	・養殖施設（共同利用施設）の復旧整備	4,532,377	水産業共同利用施設復旧支援事業 水産業共同利用施設復旧整備事業
養殖用種苗供給事業	・ワカメ、コンブ種苗の委託生産 ・ホタテ、カキ種苗の購入費補助	416,115	（県単）
水産業経営基盤復旧支援事業（共同利用施設）	・荷捌き施設など水産業共同利用施設の新設整備	20,670,170	水産業共同利用施設復旧整備事業
水産業共同利用施設復旧支援事業	・荷捌き施設など水産業共同利用施設の修繕、機器等の整備	13,022,470	水産業共同利用施設復旧支援事業
製氷保管施設等早期復旧支援事業	・魚市場に関連する製氷・貯氷施設の修繕、新設整備	3,998,129	水産業共同利用施設復旧支援事業 水産業共同利用施設復旧整備事業
水産加工事業者生産回復支援事業	・民間事業者の水産加工用機器類の整備	1,595,479	（県単）
さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業	・さけ・ますふ化場施設の応急復旧 ・サケ稚魚放流経費の補助	2,850,281	さけ・ます生産地震災復旧支援緊急事業 被災海域における種苗放流支援事業
さけ・ます種苗生産施設等復興支援事業	・さけ・ますふ化場施設の本格整備	3,660,695	水産業共同利用施設復旧整備事業
水産技術センター施設災害復旧事業	・種市、大船渡の種苗生産施設の復旧整備	1,132,076	水産業共同利用施設復旧整備事業
漁場復旧対策支援事業	・漁業者グループによる漁場等のガレキの回収処理	2,358,166	漁場復旧対策支援事業
いわての漁業復旧支援事業	・漁協が行う養殖施設、定置網の復旧整備における被災漁業者の雇用	280,563	緊急雇用創出事業
合 計		94,903,247	

加えて、水産業協同組合が所有する被災共同利用施設（養殖施設を除く）のうち、復旧事業費40万円以上となる施設については、国庫補助の農林水産業共同利用施設災害復旧事業により復旧することとし、国に対して6箇所319,692千円の採択を申請した。

国による災害査定は、9月から11月にかけて実施され、6箇所313,950千円が採択され、年度内には5施設の復旧工事が完了の見込みであるが、残る1施設については、翌年度の施工となる。

なお、現在は県内全域が激甚災害地域に指定されており、激甚法に基づく国庫補助率は40万円まで3/10、40万円超5/10であるが、さらに激甚法に基づく「告示地域」指定により、それぞれ4/10、9/10となる見込み。

## ウ 販売対策

津波で失われた沿岸地域の凍結・冷凍保管能力を補完し、漁業者の生産意欲の維持、加工原料の安定確保を支援するため、県内陸部及び県外の冷凍倉庫における一時保管と、その倉庫から産地に輸送する物流コストを助成し、魚価の安定を図った（魚価安定緊急対策事業費補助）。

さらに、秋の漁期が本格化するまでに水産物加工業者等を対象とした品質管理指導や商品開発、販路開拓を支援し、食材・加工品供給体制の強化を図るためのアドバイザー等による現地指導を実施した（産地パワーアップ復興支援事業）。

### (7) 漁港関係被害に対する対策

漁港関係施設について、負担法、暫定法、災害関連漁業集落環境施設復旧事業（以下「関連集落」）の採択基準を満たす被害があり、県内沿岸全域の県営・市町村営施設において防波堤や防潮堤の倒壊、地盤沈下に伴う漁港施設全体の沈下、集落排水処理場の損壊など甚大な被害が発生した。

国に対し、負担法では1,329箇所320,608,857千円（転属分除く）、暫定法（漁場施設）では34箇所4,073,048千円（転属分除く）、関連集落では23箇所3,123,846千円の採択を申請した。

国による災害査定は、6月から12月にかけて実施され、採択状況は、負担法1,329箇所294,302,666千円、暫定法34箇所3,511,057千円、関連集落23箇所3,091,110千円が採択された。

なお、東日本大震災津波では激甚法に基づく特別措置の適用を受け、補助率は、負担法では県営97.2%、市町村営84.8%～100%、暫定法では県営65%～84.5%、市町村営84.5%、関連集落では50%～86.9%となった。

上記事業の対象とならない施設については、次の事業で対応することとしている。

漁港施設用地の沈下に対しては、漁港施設機能強化事業（国庫補助事業）により嵩上げを行うこととしている。

漁場泊地・航路以外の海域のガレキ撤去に対しては、漁場復旧対策支援事業（国庫補助事業）で対応した。

漁場施設のうち着定基質等の復旧に対しては、水産環境整備事業（国庫補助事業。県事業名：漁場機能回復事業）で対応した。

トイレや荷役クレーン等の共同利用施設の復旧に対しては、水産業共同利用施設復旧支援事業（国庫補助事業）で対応することとしている。

緑地・広場などの漁港環境施設の復旧に対しては、復興交付金を活用し、県、市町村の単独災害復旧事業として実施することとしている。

また、上記事業の対象とならない施設については県、市町村の単独災害復旧事業により復旧を行うこととしている。

## 3 6月23日から24日にかけての大雨災害

### (1) 農地・農業用施設被害に対する対策

被災した農地及び農業用施設のうち、復旧事業費40万円以上の箇所について、暫定法に基づく国庫補助の災害復旧事業により復旧することとし、国に対し22箇所119,604千円の採択を申請した。

国による災害査定は、8月から11月にかけて実施され、22箇所108,453千円が採択された。

なお、国庫補助率は農地50%、農業用施設65%が基本であるが、本災害に係る国庫補助率は、暫定法による補助率増高の適用を申請したことにより、県平均で農地81.9%、農業用施設87.8%となった。

### (2) 林業関係被害に対する対策

#### ア 林業施設被害に対する対策

大雨による林業施設（林道施設）の路肩決壊・法面崩壊被害が生じ、その規模は26路線57箇所299,351千円となった。

被災した林業施設（林道施設）のうち、暫定法に基づき、5路線17箇所244,727千円を申請した。

国による災害査定は、平成23年10月に実施され、査定の結果、5路線17箇所218,273千円が採択された。

#### イ 林地荒廃に対する対策

西和賀町において山腹崩壊が発生し県道への土砂流出被害が発生したことから、北上土木センター西和賀出張所と連携し応急対策（土のう設置、片側交互通行）を講じた。

被災箇所については平成24年度予防治山事業（事業費20,000千円）により、復旧整備を実施することとしている。

#### 4 9月21日から22日にかけての台風15号による災害

##### (1) 農作物被害に対する対策

###### ア 技術対策等

台風による農作物等被害防止対策として、「農作物技術情報 号外 台風対策」（9月20日）を発行し、関係機関・団体に対し、メール等で周知するとともに、ホームページによる公開、報道機関への連絡など、農家への注意喚起と被害防止について周知につとめた。

###### イ 被災農家への対策

農業共済の対象となる水稻、畑作物（大豆）、果樹（りんご）、園芸施設（パイプハウス等）等については、農家からの被害申告を徹底させるとともに、迅速かつ適切な現地確認や損害評価の実施により共済被害量・共済金支払額を確定させ、共済金の早期支払を行うとともに、被害拡大防止措置の周知について農業共済団体を指導した。

##### (2) 農地・農業用施設被害に対する対策

被災した農地及び農業用施設のうち、復旧事業費40万円以上の箇所について、暫定法に基づく国庫補助の災害復旧事業により復旧することとし、国に対し207箇所640,799千円の採択を申請した。

国による災害査定は、12月に実施され、206箇所617,688千円が採択された。

なお、国庫補助率は農地50%、農業用施設65%が基本であるが、本災害に係る国庫補助率は、暫定法による補助率増高及び激甚法に基づく特別措置の適用を申請したことにより、県平均で農地93.2%、農業用施設97.7%となった。

##### (3) 林業関係被害に対する対策

###### ア 林業施設被害に対する対策

大雨により、県北部を中心に林業施設（治山施設）が被災し、直下の市道や河川等への土砂流出被害が発生した。

被災した林業施設（治山施設）のうち、復旧事業費が120万円以上の箇所について、負担法に基づき、奥州市及び軽米町の治山施設2箇所69,872千円について、国に対して査定申請を行った。

現地査定（平成23年11月から12月）の結果、2箇所63,457千円が国庫負担の災害復旧事業として採択された。

なお、国庫負担率は、負担法及び激甚災害指定に係る特別財政援助額の加算に該当したため94.1%となった。

大雨による林業施設（林道施設）の路肩決壊・法面崩壊等被害が生じ、その規模は110路線208箇所248,574千円となった。

被災した林業施設（林道施設）のうち、暫定法に基づき、20路線26箇所122,168千円を申請した。

国による災害査定は、平成23年12月に実施され、査定の結果、20路線26箇所119,828千円が採択された。

###### イ 林産物被害に対する対策

河川の氾濫等により、木材チップの流出や炭窯の浸水等の被害（4市町、2,300千円）があったが、いずれも自力により復旧した。

###### ウ 林地荒廃に対する対策

林地荒廃の被害については、2箇所（久慈市1、二戸市1）を災害関連緊急治山事業により、事業費68,967千円で復旧することとした。

また、災害関連緊急治山事業の採択要件に満たない二戸市の1箇所については、平成23年度予防治山事業（事業費26,800千円）で復旧整備を実施することとした。

上記以外の被災箇所については、平成24年度以降、国庫補助治山事業等により、13箇所（住田町1、久慈市4、二戸市7、九戸村1）で復旧整備を実施することとしている。

**(4) 水産関係被害に対する対策**

河川の増水によりサケの親魚捕獲施設や内水面の養魚場等に被害が発生したほか、海面でも漁船や定置網等の一部において被害が生じたが、いずれも自力により復旧した。

**(5) 漁港関係被害に対する対策**

漁港施設について、島の越漁港において岸壁が倒壊したが、3月11日の東日本大震災津波の被災箇所であり、復旧工事で撤去予定の区間であったため、前災の復旧工事で対応することとした。

また、島の越地区集落排水施設の排水管が破断する被害があり、村の単独費により復旧した。

その他、県営漁港内において流木等が流入する被害があったが、地元漁業者により集積され、県単独災害復旧事業により撤去処分を行った。

## V 参考資料

### 農林水産部災害対策実施マニュアル

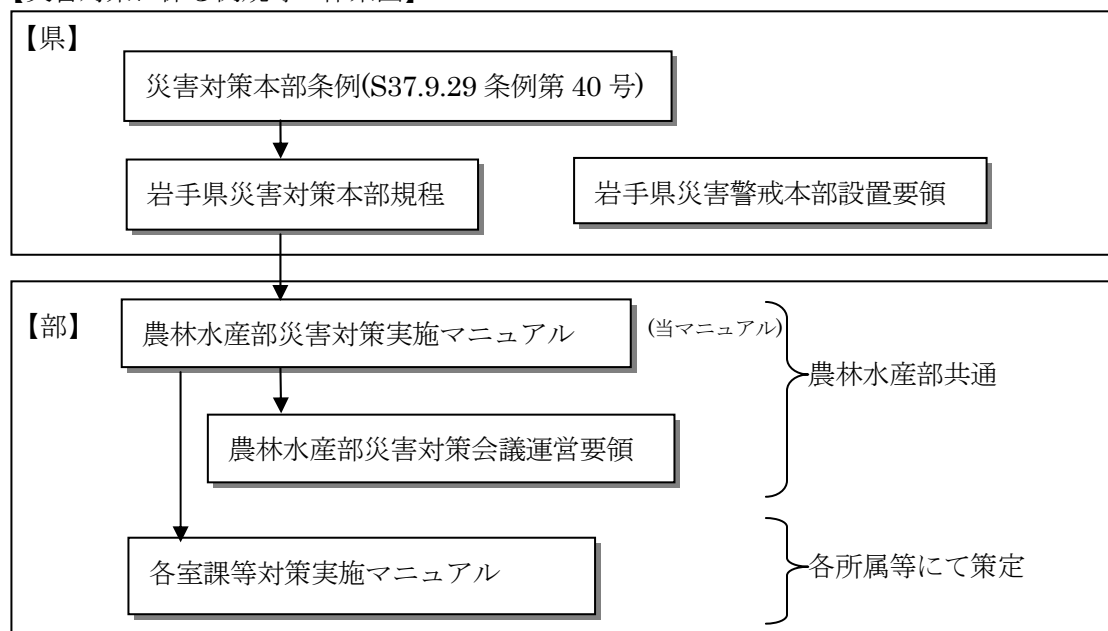
制 定 平成15年5月1日

最終改正 平成18年4月1日

このマニュアルは、岩手県災害対策本部規程（平成8年岩手県災害対策本部長訓令第2号）第9条の規定により農林水産部の災害対策について必要な事項を定めたものである。

#### I 災害対策に係る例規等の体系

【災害対策に係る例規等の体系図】



#### II 災害応急対策の体系

##### 1 『岩手県地域防災計画』

県の地域に災害が発生し、又は発生するおそれがある場合(以下「災害発生時」という。)において、県が行う災害応急対策は、『岩手県地域防災計画』第3章「災害応急対策計画」に定めるところにより実施する。

##### 2 『岩手県災害警戒本部』又は『岩手県災害対策本部』の設置

災害予防及び災害応急対策は、災害発生規模等により岩手県災害警戒本部又は岩手県災害対策本部を設置して行なわれる。

また、岩手県災害警戒本部又は岩手県災害対策本部が設置された場合は、関係する広域振興局、総合支局及び地方振興局（以下、「振興局等」という。）に地方支部が設置される。

##### 3 『岩手県災害対策本部規程』、『岩手県災害警戒本部設置要領』、『岩手県災害対策本部〇〇広域支部運営要領』、『岩手県災害対策本部〇〇地方支部運営要領』

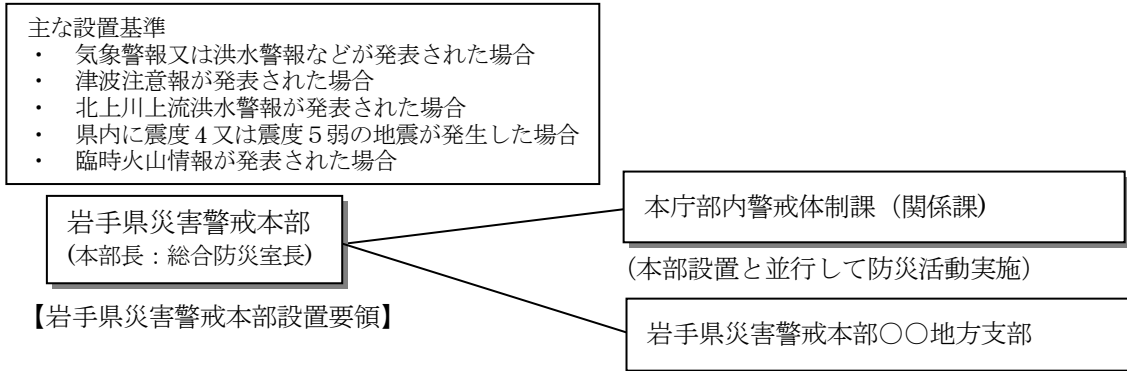
岩手県災害警戒本部又は岩手県災害対策本部の防災活動又は応急対策の具体的な活動は、これらの要領等に基づいて実施される。

##### 4 『農林水産部災害対策実施マニュアル』

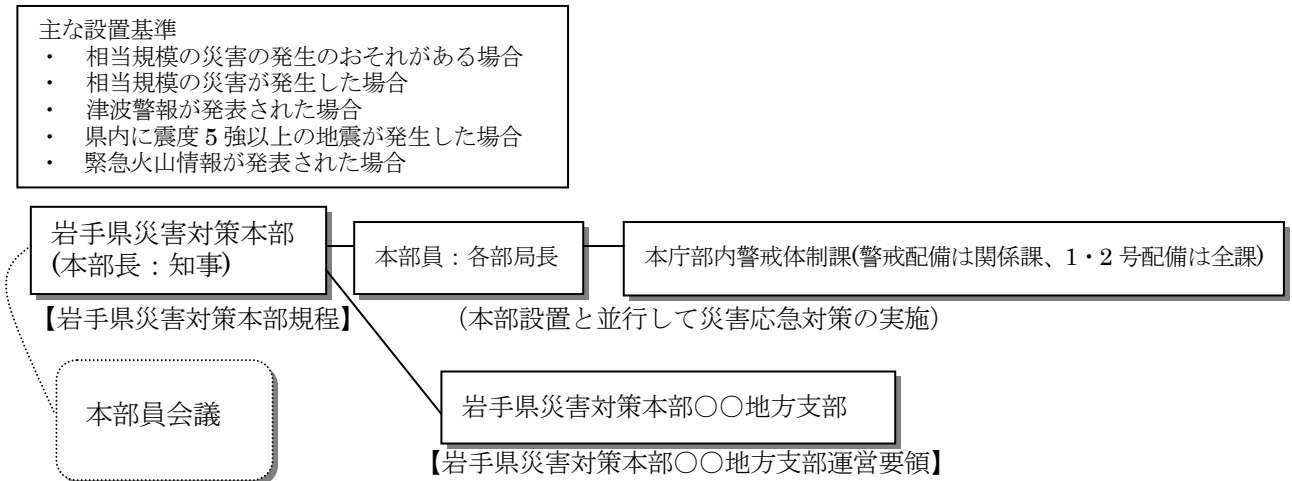
当マニュアルは、『岩手県地域防災計画』第3章「災害応急対策計画」及び上記要領等を踏まえ、農林水産部における災害対策に係る体制や具体的活動方法を定めたものである。

## 《災害応急対策等の体系図》

### ★岩手県災害警戒本部の設置



### ★岩手県災害対策本部の設置



## Ⅲ 災害対策本部の配備体制

### 1 職員の配備（県災害対策本部規程第21条）

災害発生時における職員の配備は、岩手県災害対策本部が設置された場合の配備体制の区分に応じて実施する。

配備体制の区分は、①警戒配備、②1号非常配備、③2号非常配備となっている。

また、気象予警報が発表された場合は、必要に応じ関係課において独自に警戒体制をとり、防災活動を実施する。

### 2 配備職員への指示

配備体制に伴う職員への指示は次のとおりである。

- (1) 本部連絡員は、県災害対策本部の指示により執務する。
- (2) 部内各室課の職員は、農林水産部長の指示を受けた所属長の指示により執務する。
- (3) 振興局等農林水産担当部等の職員及び出先機関の職員は、振興局等各部長又は各地方支部長の指示を受けた所属長の指示により執務する。

**警 戒 配 備 体 制**

区 分		説 明	
配備基準		1 気象警報、高潮警報、波浪警報、洪水警報、津波注意報若しくは臨時火山情報（火山噴火予知連絡会の統一見解を除く。）が発表され、又は大規模な火災、爆発等により相当規模の災害の発生のおそれがあると認められる場合 2 北上川上流洪水警報、北上川上流水防警報又は閉伊川水防警報が発表され、かつ、相当規模の災害の発生のおそれがあると認められる場合 3 津波警報が発表された場合 4 県内に震度5強の地震が発生した場合 5 県内の火山について緊急火山情報が発表された場合	
本 庁	活動要領	部 長	1 情報の収集、報告及び伝達並びに応急措置を行う。また、必要に応じて次の措置を講じる。 (1) 災害対策本部員会議への付議 (2) その他必要と認める事項の処理 2 予測される災害に対処し、必要と認められる物資、車両、機材等を点検整備し、直ちに使用できるよう準備を整える。 3 予測される災害に対処し、必要と認める予防措置を検討し、被害を最小限に止めるために必要な計画を検討する。 4 状況の推移に応じて、次の配備体制に応じ得る体制を整える。
	活動要領	各 室 課 の 長	(農林水産企画室長処理事項) 本庁関係課、振興局等農林水産担当部及び出先機関から収集した情報を部長に報告し、かつ、災害対策本部長に報告する。 (各室課の長共通処理事項) 1 マニュアルに従い、振興局等農林水産担当部から収集した災害情報等の処理に当たる。 2 部長の指示、命令事項の処理に当たる。
		配備職員	農林水産企画室、農村建設課、林業振興課、森林整備課、森林保全課、漁港漁村課及び部長が特に必要と認める課の主任主査以上の職員及び防災・庶務担当並びに各課の長があらかじめ指名する職員
振興局等農林水産担当部等	活動要領	振興局等農林水産担当部長等	1 情報の収集、報告及び伝達並びに応急措置を行う。 2 車両、機材等を点検整備し、災害応急対策に活用できるよう措置する。 3 収集した情報、応急措置の業務に従事している職員数及び応急措置の進捗状況を随時、本庁関係課又は農林水産企画室長に報告する。 4 情報の収集及び応急措置を実施するため職員及び機材等が不足する場合は、支部長に対し応援を要請する。
			配備職員
出先機関	活動要領	出先機関の長	1 情報の収集、報告及び伝達並びに応急措置を行う。 2 車両、機材等を点検整備し、災害応急対策に活用できるよう措置する。 3 収集した情報、応急措置の業務に従事している職員数及び応急措置の進捗状況を随時、農林水産企画室長に報告する。 4 情報の収集及び応急措置を実施するため職員及び機材等が不足する場合は、農林水産企画室長に対し応援を要請する。
			配備職員



**1 号 非 常 配 備 体 制**

区 分		説 明	
配備基準		1 相当規模の災害が発生した場合 2 大津波警報が発表された場合	
本 庁	活動要領	部長	警戒配備体制における活動要領に定めるもののほか、災害応急対策を実施する。
		室課の長	(農林水産企画室長処理事項) 警戒配備体制における活動に準ずる。 (各室課の長共通処理事項) 警戒配備体制における活動に準ずる。
	配備職員	すべての課の主査相当職以上の職員及び各課の長があらかじめ指名する職員	
部等 振興局等農林水産担当	活動要領	振興局等農林水産担当部長等	警戒配備体制における活動要領に定めるもののほか、必要に応じて災害応急対策を実施する。
		配備職員	すべての所属の主査相当職以上の職員及び振興局等農林水産担当部長等があらかじめ指名する職員
出先機関	活動要領	出先機関の長	警戒配備体制における活動要領に定めるもののほか、必要に応じて災害応急対策を実施する。
		配備職員	すべての出先機関の主査相当職以上の職員及び各出先機関の長があらかじめ指名する職員

**2 号 非 常 配 備 体 制**

区 分		説 明	
配備基準		1 大災害が発生した場合において、本部のすべての組織及び機能を挙げて災害応急対策を講じる必要があると認められる場合 2 県内に震度6弱以上の地震が発生した場合	
本 庁	活動要領	すべての組織及び機能を挙げて災害応急対策を講じる。	
	配備職員	全職員	
部等 林水産担当 振興局等農	活動要領	すべての組織及び機能を挙げて災害応急対策を講じる。	
	配備職員	全職員	
出先機関	活動要領	すべての組織及び機能を挙げて災害応急対策を講じる。	
	配備職員	全職員	

### 3 本部連絡員（県災害対策本部規程第8条）

本部に、本部連絡員を置き、部長が部内の職員のうちから指名する。

#### 本部連絡員の職務

災害対策本部が設置された場合に、本部長の命令の伝達、各部門間の連絡・調整及び情報収集の業務を担当する。

### 4 緊急初動特別班員（県災害対策本部規程第17条）

本部（及び地方支部）に、緊急初動特別班を置き、班員は、総務部長が農林水産部長と協議して指名する。

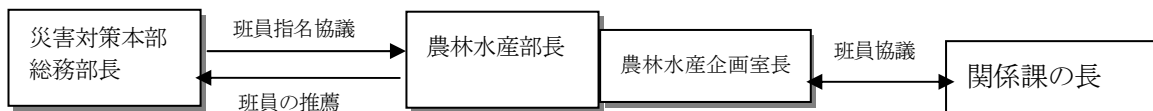
#### 緊急初動特別班員の職務

本部（又は地方支部）の体制が整うまでの間、災害情報の収集・報告・周知、災害応急対策の実施、国、市町村その他の関係機関との連絡等に関する事務を行う。

### 5 災害対策本部調査班への職員派遣（県災害対策本部規程第19条）

岩手県災害対策本部に調査班が設けられた場合、部内職員が班員に指名され、災害地に派遣されることがある。

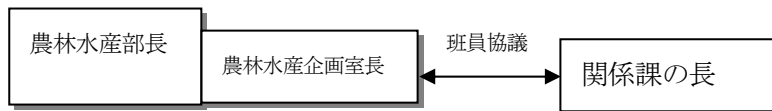
班員は、総務部長が農林水産部長と協議して指名する。



### 6 農林水産部調査班

農林水産部長が必要と認めた場合、県災害対策本部の調査班とは別に部調査班を設け、現地に職員を派遣することがある。

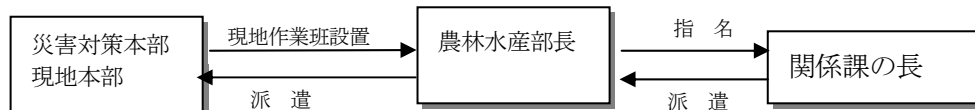
班員は、農林水産企画室長が部内関係課総括課長と協議して指名する。



### 7 現地作業班（県災害対策本部規程第20条）

本部長は、災害地における応急対策活動上必要があると認めるときは、現地作業班（医療班、防疫班等）を設け、災害地に派遣する。

農林水産部所掌業務に係る「現地作業班」が設置された場合は、班長、副班長及びその他の班員を農林水産部長が指名する。



## 8 標識の着用（県災害対策本部規程第 29 条）

災害応急対策事務に従事するとき、又は災害応急対策業務に自動車を使用するときは、定められた腕章又は標識旗を着用する。

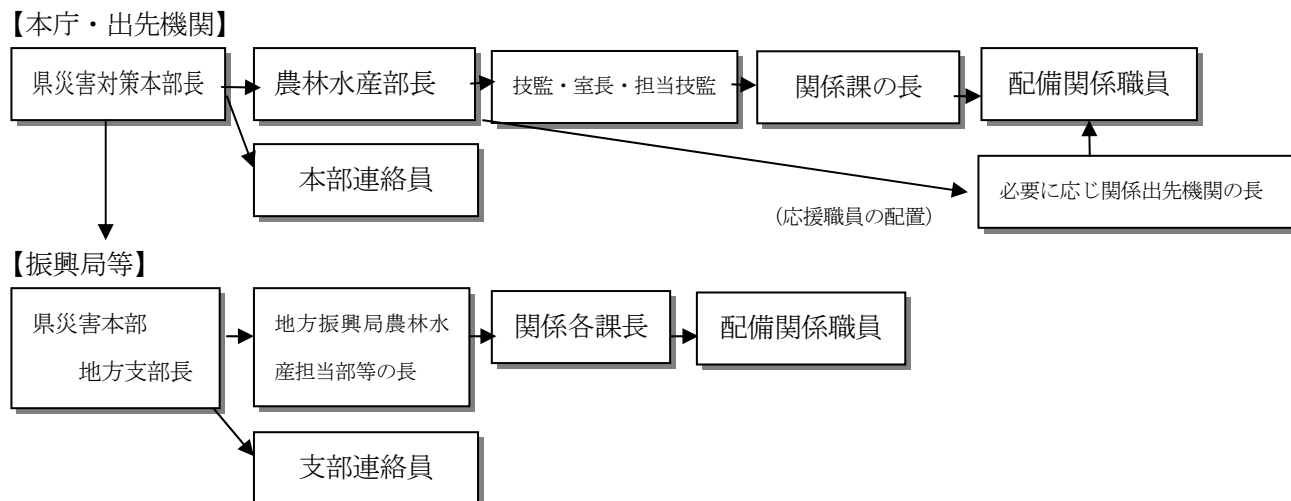
## IV 非常招集

### 1 非常招集の方法

#### (1) 配備指令による参集（県災害対策本部規程第 23 条）

- ① 農林水産部長は、県災害対策本部長から配備指令を受けたときは、速やかに「農林水産部非常招集系統図」（別途定める）により本庁各室課の長に連絡する。  
【県災害対策本部長からの配備指令は、携帯電話（災害用）を利用して、部長のほか、本部連絡員にも伝えられる】
- ② ①の連絡を受けた本庁各室課の長は、速やかに当該所属の非常招集系統図により関係職員に連絡する。
- ③ 振興局等農林水産担当部等の長は、所轄の地方支部長から配備体制の指令を受けたときは、速やかに当該所属の非常招集系統図により関係職員に連絡する。
- ④ 農林水産企画室長は、必要に応じて関係する出先機関の長に連絡する。
- ⑤ ④の連絡を受けた出先機関の長は、速やかに当該所属の非常招集系統図により関係職員に連絡する。
- ⑥ ①から⑤の連絡を受けた職員は、速やかに参集し、配備体制をとるものとする。

#### 非常招集体系図



#### (2) 自主参集（県災害対策本部規程第 24 条）

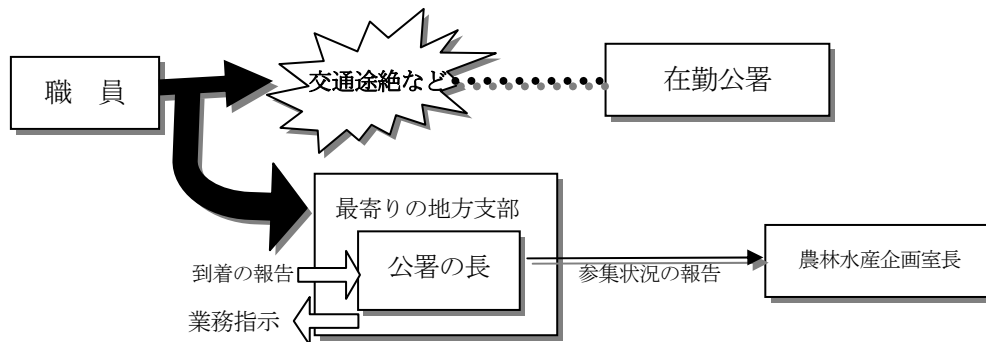
配備職員は、夜間、休日等の勤務時間外において、配備基準に該当する事態が発生したと認められるときは、配備指令を待たずに、直ちに、在勤公署に参集する。

【自主参集の対象となる災害発生状況と参集職員の範囲は、「Ⅲ 配備体制 1 職員の配備」と同様である】

## 2 在勤公署に参集できない場合の対応

配備職員は、夜間、休日等の勤務時間外に災害が発生した場合において、交通機関の途絶など、やむを得ない事情により在勤公署に参集できないときは、在勤公署の長に連絡のうえ、最寄りの地方支部に参集し、参集先の公署の長に到着の報告を行なうとともに、その指示に従い、必要な事務に従事する。

その場合、参集先の公署の長は、参集状況を農林水産企画室長に報告する。



## 3 非常招集事務担当者

本庁各室課の長、振興局等農林水産担当部等の長及び各出先機関の長は、あらかじめ所属職員の中から非常招集事務担当者を指名する。

非常招集事務担当者の職務

- 1 非常招集系統図(配備体制がわかるもの)の作成に関する事。
- 2 災害発生時における職員の出勤状況の把握、職員及びその家族の安否確認に関する事。

## V 分掌事務等

災害発生時における本庁各室課、振興局等農林水産担当部及び各出先機関の分掌事務は次のとおりとする。

### 1 本庁各室課

所 属 等	県災害対策本部規程で定める分掌事務	県地域防災計画(応急対策計画)で定める分掌事務 (H18 組織再編による分掌事務整理後)	その他の分掌事務
農林水産企画室	1 部内各課等の連絡調整に関すること。 2 農畜産物、農業施設、農地・農業用施設、林業施設、水産施設、漁港施設等の被害調査及び応急対策の総括に関すること。	1 情報の収集・伝達計画 ・農業施設被害報告 ・農作物等被害報告 ・家畜等被害報告 ・水産関係被害報告 2 広報広聴計画 ・所管業務に係る広報資料の収集、作成整理 3 林野火災応急対策計画 ・農業施設被害情報の収集 ・農作物等被害情報の収集 ・家畜等被害情報の収集	
団体指導課	1 農業共済に関すること。 2 農業金融、林業金融及び水産金融に関すること。		
流通課	1 農畜産物及びその加工品の調達及びあっせんに関すること。 2 食料品取扱機関との連絡に関すること。	1 相互応援協力計画 ・米穀の調達に係る岩手農政事務所に対するあっせん要請 ・農産副食物の調達に係る全国農業協同組合連合会岩手県本部に対するあっせん要請 ・畜産副食物の調達に係る畜産加工品製造業者に対するあっせん要請 ・上記物資の農水省に対するあっせん要請 2 食料供給計画 ・農畜産物及びその加工品の調達及びあっせん	
農業振興課	1 経営構造対策事業及び山村等振興対策事業等で整備した施設の被害調査及び応急対策に関すること。		1 農作物 気象災害 対策のとり まとめに 関する こと。
農業普及技術課	1 農作物の被害の技術対策に関すること。 2 農業気象に関すること。 3 肥料の輸送及びあっせんに関すること。 4 病害虫防除用の資機材の調達及びあっせんに関すること。 5 病害虫防除に関すること。	1 相互応援協力計画 ・肥料及び病害虫防除用資機材の調達に係る関係団体等に対するあっせん要請 ・上記物資の農水省に対するあっせん要請 2 農林水産物応急対策計画 ・栽培・管理及び病害虫防除に係る技術指導	1 低温・日照不足の異常気象による被災農家の救済対策や消費者に対する適時適切な情報提供等に関すること。
農村計画課	1 他課等に対する応援に関すること。		

所 属 等	県災害対策本部規程で定める分掌事務	県地域防災計画(応急対策計画)で定める分掌事務 (H18 組織再編による分掌事務整理後)	その他の分掌事務
農村建設課	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 防災ダムの洪水調節及び応急対策に関すること。</li> <li>2 農地、農業用施設の被害調査及び応急対策に関すること。</li> <li>3 国営土地改良事業及び県営土地改良事業により造成された施設の被害調査及び応急対策に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 活動体制計画 ・農地農業用施設被害情報の収集</li> <li>2 情報の収集・伝達計画 ・農地農業用施設被害報告</li> <li>3 農地農業用施設応急対策計画 ・農地農業用施設に係る被害状況調査及び応急対策の実施</li> </ol>	
農産園芸課	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 農作物の種苗、蚕桑の輸送及びあっせんに関すること。</li> <li>2 農作物の被害に対する応急対策に関すること。</li> <li>3 蚕種及び養蚕の被害に対する応急対策に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 相互応援協力計画 ・農作物の種苗及び蚕種の調達に係る関係団体等に対するあっせん要請 ・上記物資の農水省に対するあっせん要請</li> </ol>	
畜産課	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 広域農業開発事業により造成された施設の被害の取りまとめに関すること。</li> <li>2 畜産物の被害の応急対策に関すること。</li> <li>3 家畜、家きん及び家畜飼料の被害の応急対策に関すること。</li> <li>4 家畜伝染病予防及び家畜防疫対策に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報の収集・伝達計画 ・家畜伝染病被害報告</li> <li>2 相互応援協力計画 ・家畜飼料の調達に係る全国農業協同組合連合会岩手県本部等に対するあっせん要請 ・上記物資の農水省に対するあっせん要請</li> <li>3 農林水産物応急対策計画 ・畜産対策全般</li> </ol>	
林業振興課	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 木材及び木炭の調達及びあっせんに関すること。</li> <li>2 林産物及び林業関係施設の被害調査及び応急対策に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報の収集・伝達計画 ・林産施設関係被害報告 ・林産物関係被害報告 ・国有林の施設・森林等被害報告</li> <li>2 相互応援協力計画 ・木材の調達に係る県木材協同組合連合会に対するあっせん要請 ・木炭の調達に係る県木炭協会及び県木炭移送協同組合に対するあっせん要請</li> <li>3 生活必需品供給計画 ・木炭の調達及びあっせん</li> <li>4 応急仮設住宅の建設等及び応急修理計画 ・応急仮設住宅の供与及び被災住宅の応急修理に係る木材の確保</li> <li>5 農林水産物応急対策計画 ・栽培・管理に係る技術指導</li> <li>6 林野火災応急対策計画 ・林産施設関係被害情報の収集 ・林産物関係被害情報の収集 ・国有林の施設・森林等被害情報の収集</li> </ol>	

所 属 等	県災害対策本部規程で定める分掌事務	県地域防災計画(応急対策計画)で定める分掌事務 (H18 組織再編による分掌事務整理後)	その他の分掌事務
森林整備課	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 森林火災の予防に関すること。</li> <li>2 林業種苗の調達及びあっせんに関すること。</li> <li>3 林業関係施設（林業振興課の主管に属するものを除く。）の被害調査及び応急対策に関すること。</li> <li>4 森林の被害調査及び応急対策に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報の収集・伝達計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林関係被害報告</li> </ul> </li> <li>2 相互応援協力計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業種苗の調達に係る種苗業者に対するあっせん要請</li> <li>・上記物資の農水省に対するあっせん要請</li> </ul> </li> <li>3 農林水産物応急対策計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病虫害防除に係る技術指導</li> </ul> </li> <li>4 林野火災応急対策計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・消火薬剤及び消防資機材の調達及びあっせん</li> <li>・森林関係被害情報の収集</li> </ul> </li> </ol>	
森林保全課	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 治山施設の被害調査及び応急対策に関すること。</li> <li>2 県有林の被害調査及び応急対策に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報の収集・伝達計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・林産施設、林道、作業道以外の林業施設関係被害報告</li> <li>・県有林関係被害報告</li> </ul> </li> <li>2 林野火災応急対策計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・林産施設、林道、作業道以外の林業施設関係被害情報の収集</li> <li>・県有林関係被害情報の収集</li> </ul> </li> </ol>	
水産振興課	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 水産関係の応急対策に関すること。</li> <li>2 水産食品の調達及びあっせんに関すること。</li> <li>3 漁業災害補償に関すること。</li> <li>4 海上輸送（漁船によるものに限る。）に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 交通確保・輸送計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船による海上輸送の要請</li> </ul> </li> <li>2 相互応援協力計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産食品の調達に係る県漁業協同組合連合会及び県水産加工業協同組合連合会に対するあっせん要請</li> <li>・上記物資の水産庁に対するあっせん要請</li> </ul> </li> <li>3 食料供給計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産物の調達及びあっせん</li> </ul> </li> <li>4 農林水産物応急対策計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培・管理に係る技術指導</li> </ul> </li> <li>5 海上災害応急対策計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁連、漁協との連絡調整</li> <li>・港外にいる漁船に対する災害の周知</li> </ul> </li> </ol>	
漁港漁村課	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 漁港施設及び漁港区域に係る海岸保全施設の被害調査及び応急対策に関すること。</li> <li>2 沿岸魚場整備開発施設の被害調査及び応急対策に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 活動体制計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁港施設等被害情報の収集</li> </ul> </li> <li>2 情報の収集・伝達計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁港施設等被害報告</li> </ul> </li> <li>3 廃棄物処理・障害物除去計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁港関係障害物の除去</li> </ul> </li> <li>4 海上災害応急対策計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・所管漁港又は港湾に係る保全措置</li> <li>・在港船舶に対する災害の周知</li> <li>・災害防止のための応急措置</li> </ul> </li> </ol>	

## 2 振興局等農林水産担当部等

所 属 等	県災害対策本部規程で定める分掌事務	県地域防災計画(応急対策計画)で定める分掌事務 (H18 組織再編による分掌事務整理後)	その他の分掌事務
振興局等 { 農政(林)部 水産部 農村整備室 林務事務所 家畜保健衛生所 漁業取締事務所 水産技術センター 農業改良普及センター	1 本庁関係課又は農林水産企画室との連絡調整に関すること。 2 所掌業務に係る災害情報の収集、報告及び応急対策に関すること。 3 その他特に命ぜられたこと。		

## 3 出先機関

所 属 等	県災害対策本部規程で定める分掌事務	県地域防災計画(応急対策計画)で定める分掌事務 (H18 組織再編による分掌事務整理後)	その他の分掌事務
病虫害防除所 生物工学研究所 農業研究センター 林業技術センター 内水面水産技術センター 農業大学校	1 農林水産企画室との連絡調整に関すること。 2 所掌業務に係る災害情報の収集、報告及び応急対策に関すること。 3 その他特に命ぜられたこと。		

本庁各室課の長、地方振興局農林水産担当部長及び出先機関の長は、それぞれの業務について、実施マニュアルを作成しておくものとする。



## VI 災害情報の収集・伝達及び応急対策

### 1 災害情報の収集・伝達

災害情報は次の種類別に区分される。

種 類	内 容	報告様式	伝達手段	伝達者
初期情報報告	被害発生直後にその概要を報告するとともに、災害応急対策の内容とその進捗状況について、逐次、報告するもの	岩手県地域防災計画 (様式1)	原則として、電子メール及び県行政情報ネットワークによるものとし、防災行政無線(電話、FAX)等はバックアップ用として利用するものとする。	市町村本部～地方 支部～総合防災室
	災害の規模やその状況が判明するまでの間(災害発生初期)に、種類別に報告するもの	〃 (様式F及び3、 10～16、		市町村本部～地方 支部～農林水産部 ～総合防災室
被害額等報告	被害額等が判明した時に、種類別に報告するもの	〃 (同上)		市町村本部～地方 支部～農林水産部 ～総合防災室
その他の報告	前記の報告以外で、必要な事項について報告するもの	〃 (任意様式)		市町村本部～地方 支部～農林水産部 ～総合防災室

※報告様式・・・農林水産部関係を掲載しています。

上記災害報告に関し、当部における具体的な情報伝達経路を次のとおりとする(体系図は12頁)

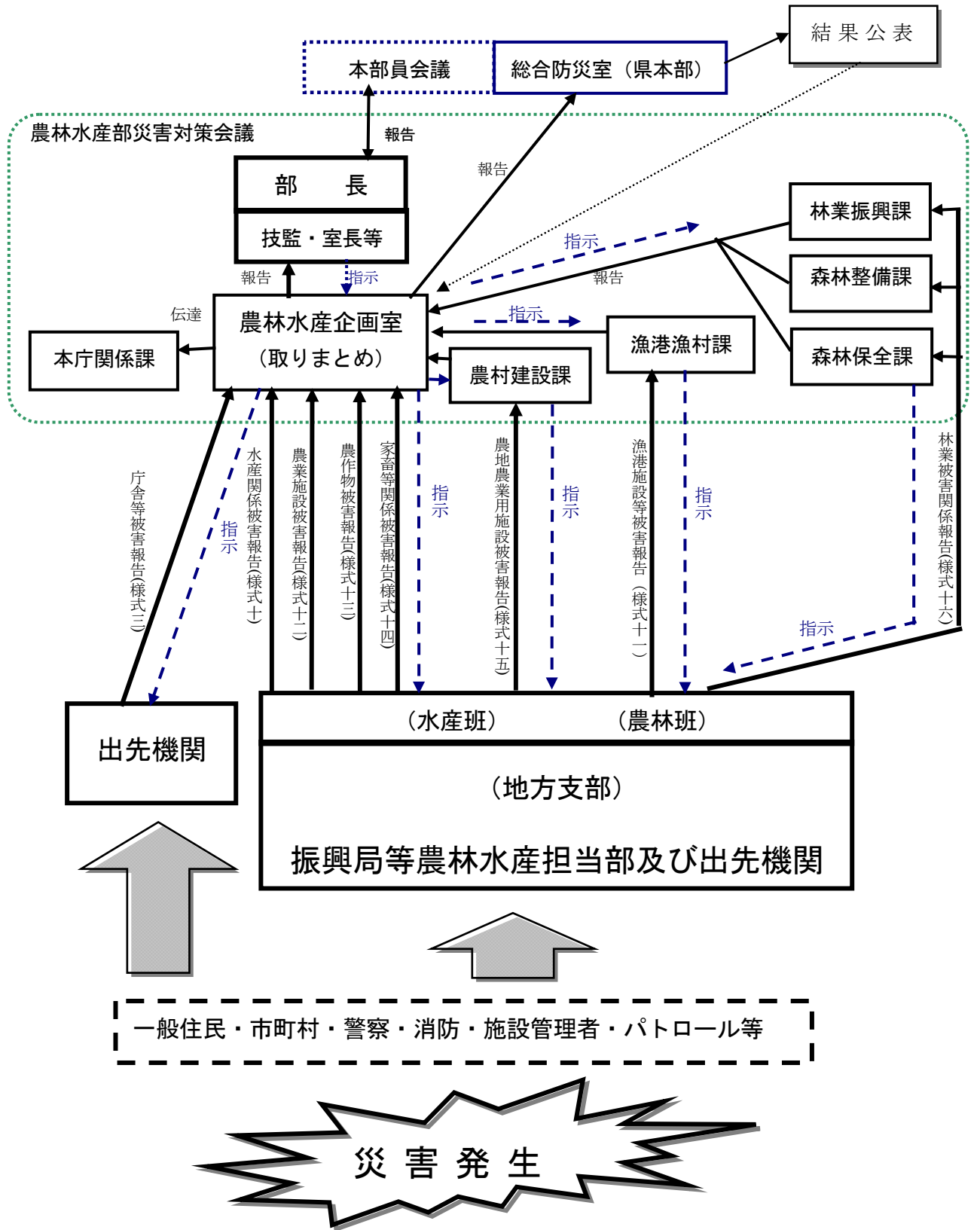
報 告 事 項	報告様式	報告者	報告先	報告・伝達	最終報告先
農業施設被害報告	様式12	市町村本部	農林水産企画室	関係課に伝達	部 長
農作物等被害報告	様式13	↓			
家畜等関係被害報告	様式14	振興局等(農	農林水産企画室に報告	↑	県災害対 策本部長 (総合防災 室)
水産関係被害報告	様式10	林水産担当			
農地農業用施設被害報告	様式15	部等)及び出			
林業関係被害報告(林産施設・林産物)	様式16	先機関			
〃 (作業道、市町村有林、私有林)	様式16				
〃 (林産施設・作業道以外の林業施設)	様式16				
漁港施設等被害報告	様式11				

### 2 応急対策及び指示

- (1) 振興局等農林水産担当部等の長及び出先機関の長は、所管施設等において災害が発生し又は発生するおそれがある場合は、速やかに所要の応急措置を講ずるものとする。
- (2) ただし、相当規模の災害等で、部長の指示を要すると認める場合にあっては、その指示に基づいて応急対策を講ずるものとする。

報 告 事 項	報告様式	報 告 者	報 告 先	最終報告先
応急対策実施(又は部長の指示確認)	別紙様式1	振興局等農林水産担当部等 及び出先機関	農林水産企画室又は本庁 関係課(情報伝達と同様)	部 長

# 災害情報収集・報告区分別系統図



## Ⅶ 農林水産部災害対策会議

災害対策の連絡調整及び重要事項を協議するため、部内に農林水産部災害対策会議を置き、その構成及び運営については、別途「農林水産部災害対策会議運営要領」で定める。

### 【会議の概要】

	内 容	備 考
構 成	部長、室長、担当技監、各課総括課長	状況に応じて、部長が指定した者によって開催できる
協議事項	1 災害情報 2 災害に関する予防措置の検討、諸計画の樹立 3 応急対策 4 応急対策に関する部内職員の配置及び応援職員の派遣 5 その他	
招 集	県災害対策本部設置基準に該当する災害が発生するおそれがある場合、又は発生した場合に部長が招集	
庶 務	農林水産企画室総務管理担当	

### 【災害に応じた主な構成員】

災害の種類	主 な 構 成 員		
	緊急を要する場合(警戒配備による招集課長等) ※ここでの課長は、総括課長をいう。	拡大構成員 ※左記に同じ。	その他
震度5強以上の地震	技監、室長、担当技監、農林水産企画室担当課長、農村建設課長、林業振興課長、森林整備課長、森林保全課長、漁港漁村課長	農業振興課長、農業普及技術課長、農産園芸課長、畜産課長、水産振興課長	状況に応じて、部長が指定した者
津 波	技監、室長、担当技監、農林水産企画室担当課長、農村建設課長、森林整備課長、森林保全課長、水産振興課長、漁港漁村課長	農業普及技術課長、農産園芸課長、畜産課長	
台 風	技監、室長、担当技監、農林水産企画室担当課長、農村建設課長、林業振興課長、森林整備課長、森林保全課長、漁港漁村課長	農業振興課長、農業普及技術課長、農産園芸課長、畜産課長、水産振興課長	
大 雨	技監、室長、担当技監、農林水産企画室担当課長、農村建設課長、林業振興課長、森林整備課長、森林保全課長	農業振興課長、農業普及技術課長、農産園芸課長、畜産課長	
山 火 事	技監、室長、担当技監、農林水産企画室担当課長、林業振興課長、森林整備課長、森林保全課長		
火 山 噴 火	技監、室長、担当技監、農林水産企画室担当課長、農村建設課長、林業振興課長、森林整備課長、森林保全課長	農業振興課長、農業普及技術課長、農産園芸課長、畜産課長	
その他の災害	状況に応じて、部長が指定した者		

- ・本表は、勤務時間外で、概ね災害直後に招集される会議を想定しているものであること。
- ・勤務時間内については、原則全構成員の対応となること。
- ・拡大構成員は、何らかの応急措置を伴う課(V 分掌事務参照)の長が対象となること。

## VIII その他関係事項

### 1 各所属等において措置すべき事項

対象者	措置すべき事項	措置する時期	備考
農林水産企画室長	農林水産部非常招集系統図作成	毎年度当初	本庁のみ
部長	本部連絡員の指名	毎年度当初	本庁のみ
部長 (振興局等の長)	緊急初動特別班員の指名	毎年度当初	本庁及び振興局等
本庁各室課の長 振興局農林水産担当部長 出先機関の長	非常招集系統図（配備体制区分 がわかるもの）作成	毎年度当初	本庁は農林水産 企画室に提出
同上	各分掌事務に係る実施マニュアル及び職員の事務分担作成	毎年度当初	
同上	非常招集事務担当者の指名	毎年度当初	

## 農作物等気象災害防止対策本部設置要綱

### (設置)

第1 岩手県地域防災計画（災害応急対策計画）に基づき、農作物等気象災害の未然防止及び災害が発生した場合における対策の迅速かつ適切な実施を図るため、農作物等災害防止対策本部（以下「本部」という。）を置く。

### (所掌事務)

第2 本部は、次に掲げる事項に関し必要な調査及び連絡調整を行う。

- (1) 気象災害に係る情報の収集、広報及び啓発に関すること
- (2) 気象災害による農作物等被害の防止及び回復に関すること
- (3) 気象災害の発生に対処する農業経営安定化対策の推進に関すること
- (4) 関係機関及び関係団体との協調推進に関すること
- (5) その他必要な対策に関すること

### (組織)

第3 本部は、本部長、副本部長及び委員をもって組織する。

- 2 本部長は農林水産部長を、副本部長は農林水産企画室長及び農政担当技監をもって充てる。
- 3 委員は別表1に掲げる職にある者をもって充てる。

### (本部長及び副本部長)

第4 本部長は、部務を総理し、会議を主宰する。

- 2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるときは、本部長があらかじめ定める順序により、その職務を代理する。

### (会議)

第5 本部の会議は、必要に応じて本部長が招集する。

- 2 災害発生時において、農林水産部災害対策実施マニュアルに基づく農林水産部災害対策会議（以下「対策会議」という。）が設置された場合には、本部協議事項は対策会議において協議する。

(幹事長及び幹事)

第6 本部に幹事長及び幹事を置く。

- 2 幹事長は、農林水産企画室企画課長をもって充てる。
- 3 幹事は、別表2に掲げる職にある者をもって充てる。
- 4 幹事長及び幹事は、本部の所掌事務につき委員を助ける。

(地方支部)

第7 広域振興局、広域振興局総合支局及び地方振興局（以下、「広域振興局等」という。）の所管区域ごとに地方支部を置く。

- 2 地方支部の所掌事務及び会議の招集は、本部に準ずるものとする。
- 3 地方支部は、地方支部長、副地方支部長及び委員をもって組織する。
- 4 地方支部長は広域振興局等の農政部長又は農林部長をもって充て、副地方支部長は、盛岡地方振興局農政部にあつては農業振興室長、県南広域振興局農林部にあつては地域農政推進課長、その他の広域振興局等の農政部及び農林部にあつては農林水産調整主幹（宮古地方振興局農政部にあつては農林水産調整監）並びに所管区域を所掌する農業改良普及センター所長（花巻及び北上地方支部にあつては中央農業改良普及センター副所長）をもって充てる。
- 5 委員は、地方支部長が関係出先機関の職員のうちから指名する者をもって充てる。
- 6 地方支部長及び副地方支部長については、第4の規定中、本部長にあつては地方支部長と、副本部長にあつては副地方支部長とそれぞれ読み替えて準用する。

(庶務)

第8 本部の庶務は、農林水産企画室において処理する。

(補則)

第9 この要綱に定めるもののほか、本部の運営に関し必要な事項は本部長が定める。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

この要綱は、平成17年8月8日から施行する。

この要綱は、平成18年8月17日から施行する。

この要綱は、平成21年7月28日から施行する。

別表 1 (要綱第 3 関係)

職 名	
農林水産企画室	企画課長
団体指導課	総括課長
流通課	総括課長
農業振興課	総括課長
農業普及技術課	総括課長
農村計画課	総括課長
農村建設課	総括課長
農産園芸課	総括課長
畜産課	総括課長
中央農業改良普及センター	所長

別表 2 (要綱第 6 関係)

職 名	
農林水産企画室	主任主査
団体指導課	金融共済担当課長
流通課	企画マーケティング担当課長
農業振興課	担い手対策課長
農業普及技術課	普及担当課長
農村計画課	団体指導・国営担当課長
農村建設課	水利整備・管理担当課長
農産園芸課	水田農業課長
畜産課	畜政担当課長
中央農業改良普及センター	(県域普及グループ)

## 農林漁業セーフティネット資金の概要

「農林漁業セーフティネット資金」は、不慮の災害や経済環境の変化等によって収支が悪化し、資金繰りに支障を来している場合などに利用できる低利な長期資金（償還期間 10 年以内うち据置 3 年以内）です。

項 目		内 容
貸 付 対 象 者	資 格 要 件	①認定農業者 ②認定就農者 ③林業経営改善経営計画の認定を受けている林業経営者 ④漁業経営の改善に関する計画の認定を受けている中小漁業者 ⑤農林漁業に係る所得が総所得の過半を占めるか粗収益が 200 万円以上の個人 ⑥農林漁業に係る売上高が総売上高の過半を占めるか 1,000 万円以上の法人
	状 況 要 件	①災害の被害を受けた ②疾病や病虫害等の被害により殺処分や出荷停止の指導を受けた ③前期より粗収益が 10%以上減少した ④最近 3 ヶ月の粗収益が前年同期を下回っており、今後も減少が見込まれる ⑤前期より所得率や純利益が悪化している ⑥燃油や資材費等の高騰により一時的に経営が悪化している ⑦取引先や取引金融機関が破綻し、経営に支障を来している
取 扱 融 資 機 関	日本政策金融公庫 ※農協、銀行等を窓口として融資される	
資 金 使 途	経営の維持安定に必要な長期運転資金	
貸 付 限 度 額	個人、法人とも 600 万円（特認：年間経営費の 3/12 以内） （東日本大震災被災者：1,200 万円（特認：年間経営費の 12/12 以内））	
貸 付 利 率	0.55～0.95%（H24.3.16 現在） （東日本大震災被災者：無利子）	
協会保証及び保証料率	無（保証人、担保等については別途要相談）	
償 還 期 限	10 年以内（うち据置 3 年以内） （東日本大震災被災者 13 年以内（うち据置 6 年以内））	
そ の 他	日本政策金融公庫盛岡支店 TEL019-653-5121	



## 農業共済事業の種類と仕組み

### 1 制度共済（共済掛金国庫負担金対象）

引受対象		共済支払対象事故	加入基準	補償対象
農作物共済	<p>水稻</p> <p>麦</p>	<p>気象災害（冷害・風水害・干害等）、病虫害、鳥獣害、火災</p> <p>上記事故による減収又は品質の低下を伴う生産金額の減少（災害による減収分と品質低下分の補償：品質方式・災害収入共済方式）</p>	<p>【当然加入制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水稻 30 a 以上（盛岡地域、岩手中部、胆江地域） 25 a 以上（磐井、東南部、宮古地域、岩手北部）</li> <li>・ 麦 10a 以上（全組合）</li> </ul>	<p>【一筆・半相殺・全相殺方式】</p> <p>共済金額（全損被害時に支払われる最高補償額）＝単位当補償金額×基準収穫量×補償割合（組合が共済規程に定める補償割合の中から組合員が選択した割合）</p> <p>【水稻品質・麦災害収入共済方式】</p> <p>基準生産金額の6～9割</p>
	<p>りんご</p> <p>ぶどう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気象災害（冷害、風水害、干害等）</li> <li>・ 病虫害、鳥獣害</li> </ul> <p>【特定危険方式】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の事故のみの限定方式（暴風雨、降ひょう、凍傷、降霜）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栽培面積 10a 以上（最低加入基準）</li> </ul> <p>【特定危険方式】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20 a 以上の栽培面積で早・中・晩生種ごとに 10a 以上の栽培面積と栽培経験 5 年以上</li> </ul>	<p>【半相殺方式】</p> <p>早・中・晩生種ごと園地ごとに求め農家ごとに合計</p> <p>【樹園地単位方式】</p> <p>早・中・晩生種ごと樹園地ごと</p> <p>単位当補償金額×標準収穫量×補償割合</p> <p>組合共済規程に定める最低割合～最高補償割合の中から選択し、それを乗じて共済金額を求める</p>
	<p>大豆</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気象災害（冷害・風水害・干害等）</li> <li>・ 病虫害、鳥獣害、火災</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栽培面積 5 a 以上（最低加入基準）</li> </ul>	<p>【一筆単位方式】</p> <p>耕地ごとの基準収穫量の 7 割×単位当補償金額</p> <p>【半相殺・全相殺方式】</p> <p>農家ごとの基準収穫量の（8 割：半相殺・9 割：全相殺）×単位当補償金額</p>
	<p>ホップ</p>			<p>【全相殺方式】</p> <p>農家ごとの基準収穫量の 8 割×単位当補償金額</p>
	<p>蚕繭</p> <p>（春・初秋・晩秋）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気象災害（風水害、地震等）</li> <li>・ 病虫害、鳥獣害、火災</li> </ul>	<p>最低加入基準：蚕種の掃立量；春蚕繭（1 箱以上）、初秋蚕繭（0.5 箱以上）、晩秋蚕繭（0.5 箱以上）</p>	<p>【全相殺方式】</p> <p>基準収穫量の 8 割×単位当補償金額（蚕期ごと（小蚕期ごと）に計算）</p>
家畜共済	<p>牛</p> <p>馬</p> <p>豚</p>	<p>死亡（胎児の場合、人工授精等の後 240 日以上経過していることが要件）、</p> <p>廃用（胎児・肉豚を除く）、</p> <p>病気（胎児・肉豚を除く）、</p> <p>傷害（胎児・肉豚を除く）</p> <p>【事故除外】</p> <p>特定の事故のみ限定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳牛の雌等（乳用子牛等、乳用成牛）</li> <li>・ 肉用牛等（肥育用子牛・肥育用成牛、その他の肉用子牛等、その他の肉用成牛）</li> </ul> <p>（等の中に（人工授精等の後 240 日以上）の胎児が含まれる・子牛は出生後 6 か月未満・成牛は出生後 6 か月以上）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共済価額×付保割合で共済金額を求め、この範囲内で死廃用事故にかかる共済金が支払われる（共済価額：家畜個体評価額の合計額、付保割合：組合共済規程で定める最低割合～8 割の間で選択）</li> <li>・ 高被害率農家（死廃事故多発農家）には、共済金の支払いに一定の限度が設けられるが、火災や自然災害、伝染病による死廃事故の場合は限度適用前の共済金額の範囲内で支払われる</li> </ul>

引受対象		共済支払対象事故	加入基準	補償対象
園芸施設共済	プラスチックハウス・ガラス室・鉄骨ハウス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象災害（風水害、雪害、地震等）</li> <li>・火災、破裂、爆発</li> <li>・航空機の墜落及び接触等</li> <li>・車両の衝突等</li> <li>・病虫害、鳥獣害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合員であり、ハウスを所有し農作物を栽培管理していること</li> <li>・1 a 当たりの再建築価額が3万円未満の施設や畜舎、蚕室、タバコ乾燥室など農作物の栽培以外で使用されている施設は除く</li> </ul>	<p>共済価額（施設時価額）×付保割合 付保割合（組合共済規程に定める最低割合～8割の間で選択）</p> <p>※施設内農作物は、施設の再建築価額（新築価額）に該当施設内農作物の価額算定率をかけ、さらに付保割合をかけて共済金額を求める（花き類、果菜類、葉菜類ごとに栽培のために投下した生産費）</p>

## 2 任意共済（共済掛金国庫負担金対象外）

引受対象		共済支払対象事故	加入基準	補償対象
建物共済	建物 家具類 小農器具	<p>（火災共済）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災、落雷、破裂、漏水（除く凍結損害）、車両飛込、落下、盗難に伴う汚損等</li> </ul> <p>（総合共済）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災共済に加え</li> <li>・風水害、雪害、地震、噴火、津波、その他の自然災害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所有又は管理している住宅、農作業場、畜舎等</li> <li>・上記住宅に収容されている家具、家財</li> <li>・農作業場等に収容されている小農器具</li> </ul>	<p>（火災事故）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共済期間＝掛金納入日の午後4時から1年間</li> <li>・損害額×（加入金額／再建築価額×加入割合）で算定される額</li> <li>※加入割合8割以上：損害共済金＝損害額（加入金額限度）</li> <li>※加入金額8割未満：加入割合によって支払（風水害事故）</li> <li>・損害額が再建築価額の5%又は1万円を超えた場合に支払</li> <li>・（損害額－1万円）×（加入金額／再建築価額）</li> </ul>
農機共済	農機具	<p>（火災共済）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災、落雷、獣害、盗難、衝突等</li> </ul> <p>（総合共済）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災共済に加え</li> <li>・墜落、転覆、風水害、雪害、クローラの切断、自然災害</li> </ul> <p>（更新共済）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合共済に加え</li> <li>・将来の買替費用の積立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所有または管理している未使用の状態を取得した農機具</li> </ul>	<p>損害額×（加入金額／新品価格）で算定される額</p> <p>※損害額1万円以上の事故から対象</p> <p>※機械の腐食等の自然消耗等は対象外</p>

## 漁業共済事業の種類と仕組み

引受対象		補償水準等	共済事故	加入方法	補償方法
漁獲共済	1号漁業	採貝採藻業のうちわかめこんぶあわび	【収獲高保険方式】 漁獲金額が不漁等により減少した場合の損失補償	<b>【義務加入】</b> 漁協ごと・区域ごとに漁業者全員をまとめて漁協が契約者となる 「集団契約」  <b>【漁協自営加入】</b> 対象漁業を営む漁協が契約	<b>【全事故比例てん補方式】</b> 減収分を比例的に補償する方式  <b>【約定限度内てん補方式】</b> 共済限度額(補償水準)に対する約定割合(10%、20%、30%のいずれか選択)までに限定しててん補する方式  <b>【支払上限付低事故不てん補方式】</b> 損失割合が共済限度額に対する約定割合(10%、20%、30%のいずれか選択)を上回る場合は、約定割合から支払上限割合(50%)までをてん補する方式  <b>【地震等限定てん補方式】</b> 事故判定基準の「激甚災害に政令指定された地震・噴火又は、これらによる津波により、操業の制限を受け、かつ、責任期間中の漁獲金額が共済限度額の70%に満たないこと」に該当する場合、共済限度額の70%を下回った部分をてん補する方式  <b>【地震等比例てん補付約定限定内てん補方式】</b> 通常は「約定限度内てん補方式」によりてん補し、「地震等限定てん補方式」の事故判定基準に該当する場合は、「全事故比例てん補方式」によりてん補する方式
	2号漁業	漁船漁業 定置漁業		<b>【連合加入】</b> 漁協ごと・漁業区分ごとに漁業者がまとめて加入(個別契約、漁協一括契約、集団契約)  <b>【任意加入】</b> 1人からでも加入できる(個別契約)	

引受対象	補償水準等	共済事故	加入方法	補償方法
<p style="text-align: center;">特定養殖共済</p>	<p>わかめ こんぶ ほたて貝 かき えぞいしかげ貝 ほや</p> <p>過去5年間の養殖単位の生産金額のうち最高と最低を除く3年平均 × 契約年のさく数、台数、または幹縄の延長数 × 一定割合(養殖種類ごとに一律)</p>	<p>【収穫高保険方式】 生産金額が病虫害等により減少した場合の損失補償</p>	<p>【義務加入】 漁協ごと・区域ごとに全員加入(個別契約、漁協一括契約)</p> <p>【連合加入】 漁協ごと・区域ごとに漁業者がまとまって加入(個別契約、漁協一括契約)</p> <p>【任意加入】 1人からでも加入できる(個別契約)</p>	<p>【全事故比例てん補方式】 減収分を比例的に補償する方式</p> <p>【約定限度内てん補方式】 共済限度額(補償水準)に対する約定割合(10%、20%、30%のいずれか選択)までに限定して、てん補する方式</p> <p>【支払上限てん補率てい増方式】 支払上限割合(50%)までをてん補するが、25%以下の損失については1/2をてん補する方式</p> <p>【支払上限付小損害低てん補方式】 損失割合が事故判定ライン(30%)を上回る場合は支払上限割合(50%)までの全額をてん補するが、判定ライン以下の場合は1/2をてん補する方式</p> <p>【支払上限付小損害不てん補方式】 損失割合が事故判定ライン(30%)を上回る場合は支払上限割合(50%)までをてん補するが、判定ライン以下の場合是不てん補とする方式</p> <p>【支払上限付低事故不てん補方式】 損失割合が共済限度額に対する約定割合(10%、20%、30%のいずれか選択)を上回る場合は、約定割合から支払上限割合(50%)までをてん補する方式</p> <p>【大損害比例てん補方式】 加入区全体の損失割合が30%以上の場合は全額がてん補対象で、30%未満の場合は約定割合の1/2を填補する方式(漁協一括契約のみ)</p> <p>【地震等限定てん補方式】 事故判定基準の「激甚災害に政令指定された地震・噴火又は、これらによる津波により、操業の制限を受け、かつ、責任期間中の生産金額が共済限度額の70%に満たないこと」に該当する場合、共済限度額の70%を下回った部分をてん補する方式</p> <p>【地震等比例てん補付約定限定内てん補方式】 通常は「約定限度内てん補方式」によりてん補し、「地震等限定てん補方式」の事故判定基準に該当する場合は、「全事故比例てん補方式」によりてん補する方式</p>

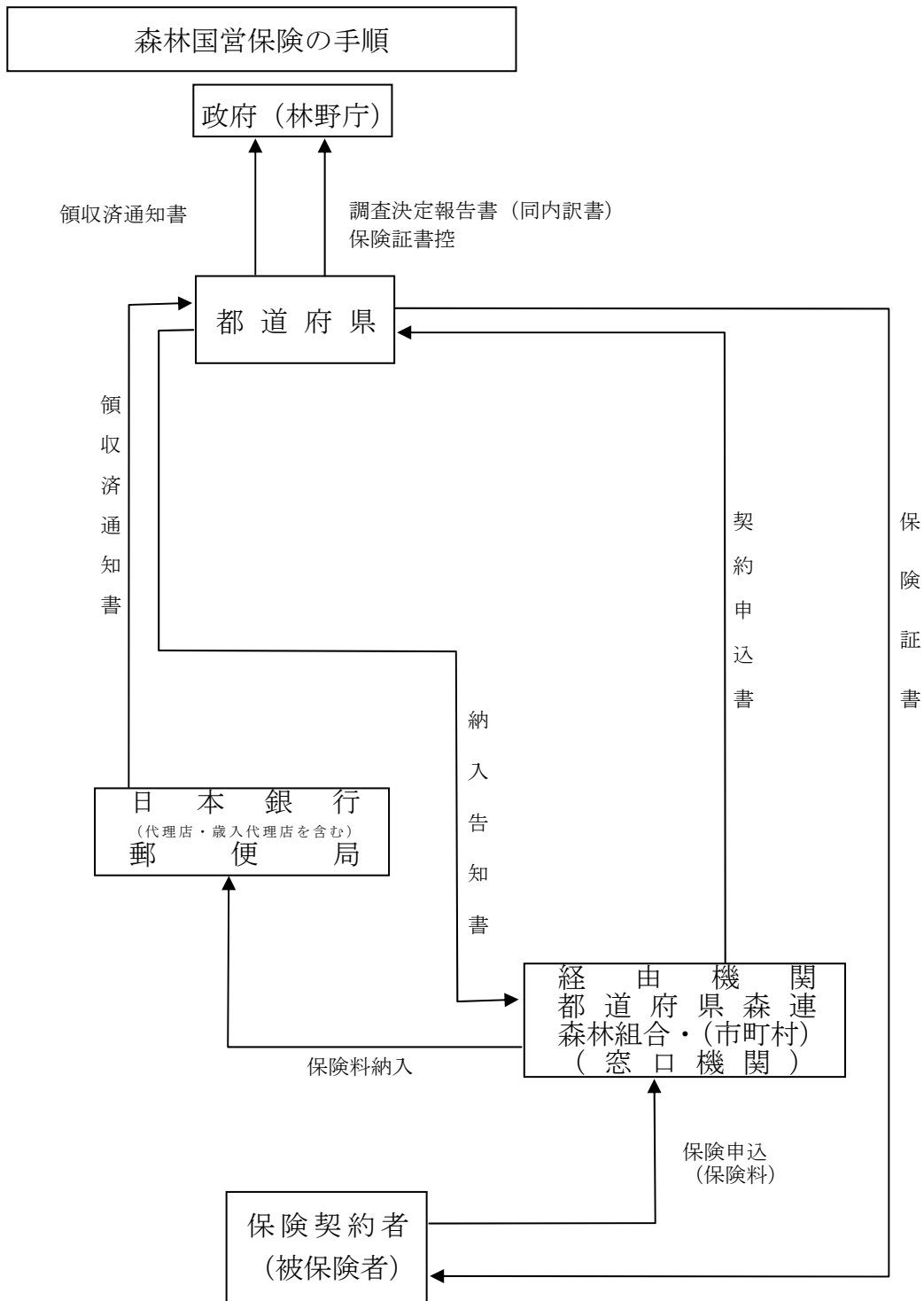
引受対象		補償水準等	共済事故	加入方法	補償方法
漁業施設共済	漁具	定置網	【物損保険方式】 漁業に供用中の 漁具・養殖施設 が台風等の自然 災害により受け た損壊や第三者 により受けた損 害(盗難を除く) を補償	水域ごとに全ての施設が加 入	【全損契約】 全部損害の場合のみ補償 【各網全損特約】(定置網) 【分損特約契約】 3割以上の損害の場合に補償  【地震等限定てん補(分損)契約】 地震・噴火又は、これらによる津 波が原因で3割以上の損害の場合に 補償
	養殖施設	はえ縄 いかだ 網いけす			

- ※1 個別契約  
漁業者が直接加入する方式
- 2 漁協一括契約  
漁協が加入する方式
- 3 集団契約  
漁業者がグループで加入する方式

## 森林災害復旧事業と被害地等森林整備事業の概要

区分	森林災害復旧事業			環境林整備事業（被害森林整備）		
根拠法	激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律（激甚災害法）			森林法		
目的	激甚災害を受けた森林の復旧			気象害等の被害を受けた森林の復旧		
対象 災害の 範囲	激甚災害  国民経済に著しい影響を及ぼし、かつ、特別の助成等が特に必要と認められる災害で、政令で指定するもの			火災（山林火災）、気象災（風倒害、雪害等）、 病虫獣害等		
事業を 実施で きる地 域	農林水産大臣が告示する市町村  激甚災害による森林被害額が1,500万円以上で、かつ、要復旧面積が90ha以上の市町村  （激甚災害が暴風雨による場合）  森林被害額が4,500万円以上、かつ、要復旧面積が40ha以上の市町村			① 森林所有者の自助努力等によっては適切な整備が期待できない森林において、人工造林等を実施するため、事業主体が森林所有者等との協定を締結していること  ② 1施行地の面積が0.1ha以上		
事業 内容	人工林被害跡地における被害木等の伐採・搬出及び造林	倒伏した造林木の引きこし	作業路の開設	被害森林における被害木等の伐採・搬出及び人工造林等	倒伏木の引きこし	森林作業道の開設及び改良
事業 主体	都道府県、市町村、森林組合、生産森林組合、森林組合連合会、森林整備法人、任意団体等			都道府県、市町村、森林整備法人等、森林組合等、森林法施行令第11条第7号に掲げる特定非営利活動法人等（ただし、事業主体が自ら所有する森林で実施する場合を除く。）		
補助率	国：1/2、県：1/6			国：3/10、県：1/10  （査定係数 170）		
事業費 査定	あり			なし		

## 森林国営保険の概要



注) 保険の目的が都道府県有林で、被保険者かつ契約者が都道府県である場合の事務の流れは上図と異なる。(※経由機関に委任している事務を都道府県が実施する。)

森林国営保険に係る損害てん補業務

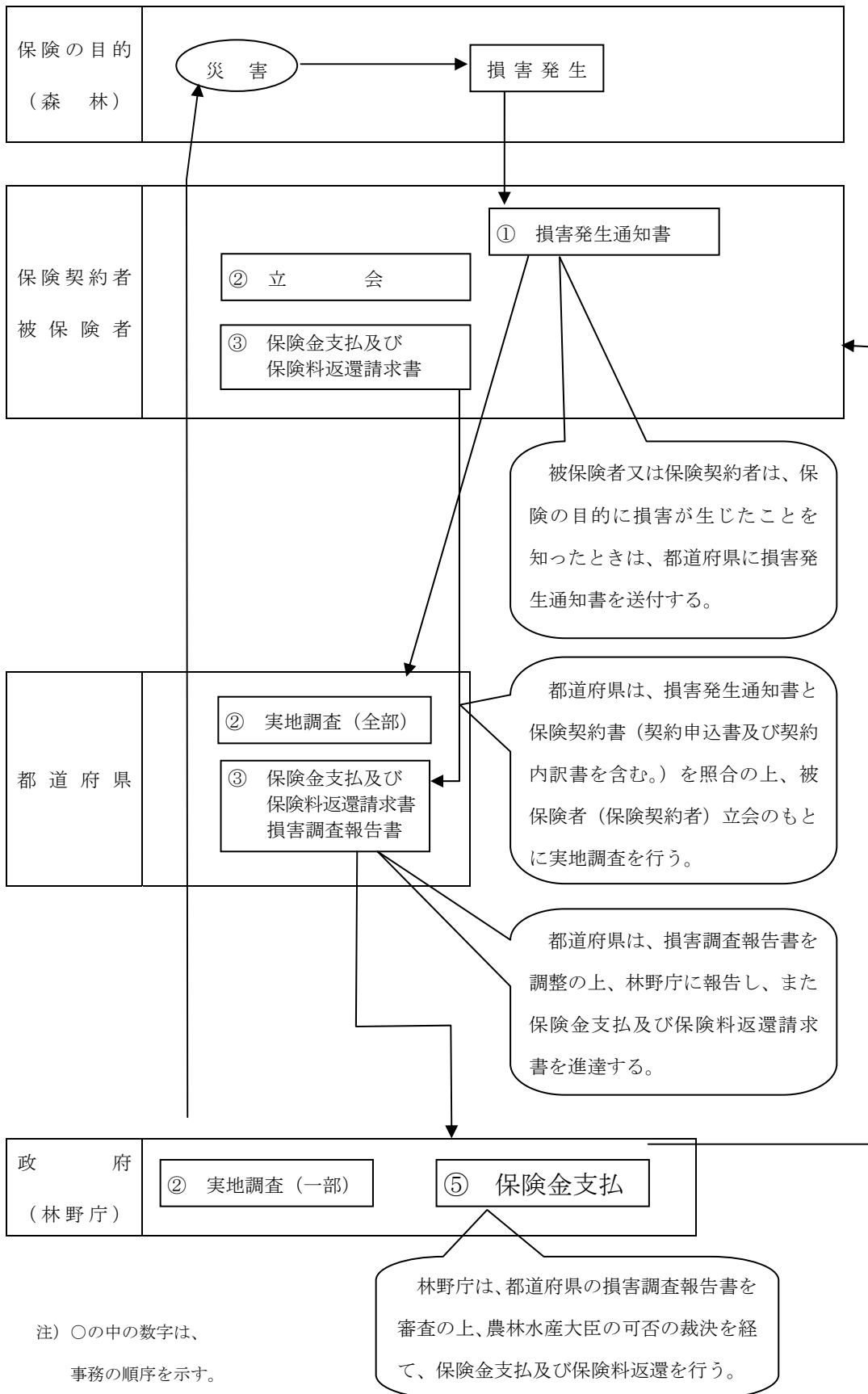
業務の流れ	仕事をすべき者	費用負担者等
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">保険事故の発生</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">損害発生通知書</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">同上の受理・送付</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">同上の受理</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">損害の現地調査 概況調査</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;">現地調査</div> <div style="margin-left: 20px;">現地調査立会</div> <div style="margin-left: 20px;">現地調査補助</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">損害調査報告書 保険金支払及び保険料 返還請求書</div> <p style="text-align: center;">(報告)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">同上受理</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">保険金支払い</div> <div style="margin-left: 20px; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">保険金代理受理</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">保険金受理</div>	<p>森林所有者 (保険契約者・被保険者)</p> <p>経由機関 (市町村、森林組合、都道府県森連)</p> <p>都道府県 (委託している場合は受託者)</p> <p>都道府県 (委託している場合は受託者)</p> <p>保険契約者又は被保険者 (委任を受けた者を含む) 都道府県の職員又は 現地雇用作業員</p> <p>都道府県 (委託している場合は受託者)</p> <p>都道府県</p> <p>林野庁</p> <p>林野庁</p> <p>保険金受取人(被保険者)の 委任を受けた者</p> <p>保険金受取人</p>	<p>・発生に係る通知は森林所有者 保険契約者・被保険者&lt;個人負担&gt;</p> <p>経由機関 &lt;市町村等交付金・手数料&gt; ・通知書の作成は経由期間の受理業務の一環</p> <p>都道府県 &lt;都道府県交付金(都道府県委託費)&gt;</p> <p>都道府県 &lt;都道府県交付金(都道府県委託費)&gt;</p> <p>保険契約者・被保険者&lt;個人負担&gt;</p> <p>都道府県 &lt;都道府県交付金(都道府県委託費)&gt;</p> <p>都道府県 &lt;都道府県交付金(都道府県委託費)&gt; ・保険金等の請求書作成、請求印受領も調査の一環</p> <p>都道府県 &lt;都道府県交付金&gt;</p> <p>林野庁</p> <p>林野庁</p> <p>保険金受取人&lt;個人負担&gt;</p>

(注)

- 1 損害発生通知書、保険金支払請求書の作成の考え方は、民間損保も同様である。
- 2 現地調査立会と現地調査補助は別の立場である。立会者に調査手伝いをさせた場合の経費は都道府県又は都道府県森連が都道府県交付金または都道府県の委託費から負担する。



### 森林国営保険損害てん補の手順



# 農作物災害対策要綱

(昭和 61 年 4 月 1 日制定)  
(平成 8 年 3 月 25 日一部改正)  
(平成 13 年 4 月 1 日一部改正)  
(平成 17 年 9 月 6 日一部改正)  
(平成 19 年 12 月 11 日一部改正)

(趣旨)

第 1 この要綱は、農作物について、暴風雨、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、低温、渇水、降ひょうその他の異常気象による災害（以下「気象災害」という。）の未然防止並びに被害の軽減回復及び拡大防止のための対策を推進し、農作物の生産確保及び再生産を図り、もって農業経営及び農家生活の安定に資するために必要な事項を定めるものとする。

(対策の内容)

第 2 この要綱による対策の内容は、次のとおりとする。

- (1) 緊急病虫害防除対策
- (2) 播き直し、改植、代作の対策
- (3) 生育回復対策
- (4) 農業経営維持に必要なものとして知事が特に認める対策

(被害の把握)

第 3 県は、気象災害が発生したときは、別に定める農業被害報告要領に基づき、農業被害状況を取りまとめるものとする。

- 2 県は、前項の規定により取りまとめた農業被害状況を対策実施の基礎とするとともに、必要があると認めるときは現地調査を行うものとする。

(助成措置の適用)

第 4 県は、原則として、次の各号のすべてに該当する場合に助成措置を講ずるものとする。

- (1) 2 以上の市町村における農作物の被害額が 1 億円以上の場合又は同程度以上の被害の発生が予測される場合
- (2) 被害率が 31 パーセント以上（第 2 第 2 号に掲げる対策を実施する場合にあっては 71 パーセント以上）の農作物がある場合又は同程度以上の被害の発生が予測される場合
- (3) 第 2 の各号に掲げる対策を実施することにより、気象災害の未然防止又は被害の軽減回復若しくは拡大防止の効果が大きいと認められる場合
- (4) 災害発生都度（発生が予測される場合を含む。）、別に定める補助事業の交付要領等により算出される県の補助金の見込額が、1 市町村 1 作目当たり 15 万円以上であり、かつ、1 市町村における県の補助金の見込額が 30 万円以上となる場合

(対策の推進体制)

第 5 被害の把握については農林水産企画室長が、助成措置の適用については農産園芸課総括課長が所掌する。

農作物災害復旧対策事業の実施状況（県単 昭和61年～平成23年被害（農作物被害額1億円以上））

年度	農作物被害状況				農作物災害復旧対策事業実施状況						
	月 日	被害の内容	被害面積 (ha)	被害金額 (千円)	対象作物	対策の内容	対象面積 (ha)	事業費 (千円)	補助金額 (千円)	備 考	
S61	8月4日～5日	台風10号	3,272.8	500,232	水稲	病害虫防除	1,272.6	8,336	2,775	一関市等6市町村	
					大豆	代作	10.2	2,881	959	一関市等3市町村	
					野菜	代作	3.9	1,175	391	川崎村	
						生育回復	4.9	92	30	川崎村	
					小計	8.8	1,267	421	7市町村		
	桑	生育回復	60.3	2,603	865	北上市等5市町村					
9月7日	降雪	112.5	100,740	果樹	病害虫防除	78.0	3,779	1,259	大東町		
年度計							1,429.9	18,866	6,279		
S62	5月6日	凍霜害	4,640.0	1,201,346	果樹	病害虫防除	551.9	14,798	4,851	盛岡市等14市町村	
						生育回復	121.7	27,193	9,058	松尾村等9市町村	
						小計	673.6	41,991	13,909	14市町村	
					野菜	改植	10.0	2,961	986	滝沢村	
	桑	生育回復	232.2	5,445	1,792	葛巻町等15市町村					
	葉たばこ	生育回復	1,547.1	5,828	1,902	大迫町等10市町村					
	計	2,462.9	56,225	18,589	25市町村						
	8月16日～18日	大雨洪水	3,670.5	678,589	水稲	病害虫防除	1,424.5	11,924	3,973	一関市等5市町村	
						病害虫防除	2.1	11	3	藤沢町	
					豆類	代作	2.8	596	198	藤沢町、川崎村	
	8月29日	大雨洪水	970.4	236,652	野菜	代作	39.6	8,394	2,794	岩手町、一関市、平泉町	
						生育回復	5.5	59	19	川崎村	
小計					45.1	8,453	2,813	4市町村			
桑	生育回復	84.1	4,457	1,483	北上市等5市町村						
計	1,558.6	25,441	8,470	7市町村							
9月22日	降雪	10,582.1	1,479,501	果樹	病害虫防除	139.0	4,355	1,440	紫波町等4市町村		
					代作	3.2	689	224	紫波町		
				計	142.2	5,044	1,664	4市町村			
年度計							4,163.7	86,710	28,723		
S63	6月18日	降雪	221.0	110,806	野菜	病害虫防除	2.8	29	9	安代町	
						改植	5.0	672	224	安代町	
					小計	7.8	701	233			
	8月28日～31日	大雨	3,942.8	1,145,609	果樹	病害虫防除	31.0	1,126	374	二戸市	
						計	38.8	1,827	607	2市町村	
					水稲	病害虫防除	435.9	2,812	935	胆沢町等5市町村	
						病害虫防除	100.4	839	278	金ヶ崎町等4市町村	
					大豆	代作	10.0	1,640	546	金ヶ崎町	
						小計	110.4	2,479	824	4市町村	
					野菜	病害虫防除	114.2	4,643	1,529	紫波町等5市町村	
代作	34.8	8,040	2,636	岩手町等5市町村							
小計	149.0	12,683	4,165	6市町村							
桑	生育回復	52.0	2,398	798	川崎村、北上市						
計	747.3	20,372	6,722	11市町村							
夏期	低温・日照不足	95,026.0	30,127,805	別途対策事業を実施							
年度計							786.1	22,199	7,329		
H元	6月10日～11日	降雪	2,770.8	240,701	大豆	播き直し	64.0	1,814	604	軽米町、九戸村	
						小豆	播き直し	6.4	156	52	軽米町、九戸村
					野菜	播き直し	54.2	8,344	2,764	二戸市等3市町村	
					果樹	生育回復	9.0	177	59	軽米町	
					とうもろこし	播き直し	99.7	4,832	1,609	岩泉町等6市町村	
	計	233.3	15,323	5,088	6市町村						
7～8月	少雨	1,799.4	309,224	水稲	病害虫防除	110.2	2,622	873	紫波町		
8月下旬～9月下旬	長雨	714.8	401,839	野菜	揚水機購入	61団地	23,079	7,617	紫波町等4市町村		
					計	110.2	25,701	8,490	4市町村		
年度計							529.0	45,947	15,201		
H2	7月24日	降雪	351.8	276,326	レタス	病害虫防除	80.7	2,553	850	川井村、一戸町	
						代作	13.3	4,112	1,369	川井村、一戸町	
					小計	94.0	6,665	2,219	2町村		
	キャベツ	病害虫防除	10.0	161	53	一戸町					
		計	104.0	6,826	2,272	2町村					
	8月26日	降雪	810.9	277,266	りんご	病害虫防除	57.0	2,056	684	東和町、北上市	
						病害虫防除	2.0	23	7	紫波町	
	9月19日～20日	台風19号	4,489.2	671,624	だいこん	代作	8.0	1,031	343	紫波町	
						小計	10.0	1,054	350		
					ねぎ	病害虫防除	2.0	17	5	花巻市	
						代作	2.0	258	85	花巻市	
					小計	4.0	275	90			
					ほうれんそう	播き直し	4.9	631	210	遠野市、宮守村	
					ブロッコリー	病害虫防除	4.0	28	9	花巻市	
						代作	4.0	515	171	花巻市	
					小計	8.0	543	180			
レタス					代作	3.0	386	128	遠野市		
ごぼう	代作	2.0	258	85	花巻市						
わさび	植え直し	0.3	2,039	679	宮守村						
計	32.2	5,186	1,722	4市町村							
年度計							193.2	14,068	4,678		

年度	農作物被害状況				農作物災害復旧対策事業実施状況						
	月 日	被害の内容	被害面積 (ha)	被害金額 (千円)	対象作物	対策の内容	対象面積 (ha)	事業費 (千円)	補助金額 (千円)	備 考	
H3	8月30日～31日	台風14号	357.3	104,153	りんどう	改植	0.8	2,080	665	安代町	
	9月27日～28日	台風19号	5,875.2	2,418,472	ほうれんそう	播き直し	67.6	9,118	3,013	岩手町等7市町村	
					りんご	病害虫防除	842.7	31,930	10,575	盛岡市等15市町村	
						改植	3,300本	3,400	1,131	盛岡市等5市町村	
夏期	長雨・日照不足・低温	100,360.6	25,761,883	別途対策事業を実施							
年度計							911.1	46,528	15,384		
H4	6月14日	降雹	445.7	144,624	りんご	病害虫防除	30.0	534	178	盛岡市	
年度計							30.0	534	178		
H5	7月28日～29日	大雨洪水	311.5	112,727	農作物災害復旧対策事業は実施せず <sup>※</sup>						
夏期	異常低温・日照不足	141,252.0	102,690,977	別途対策事業を実施							
H6	6月17日	降雹	112.8	105,419	レタス	病害虫防除	24.8	521	173	岩手町、一戸町	
	7月～8月	高温乾燥・少雨	49,533.0	4,372,730		レタス	改植・代作	11.6	4,593	1,531	岩手町、一戸町
						計	36.4	5,114	1,704	2町	
						レタス	改植・代作	27.8	14,695	4,894	岩手町、遠野市、一戸町
だいこん						改植・代作	10.0	1,249	416	岩手町	
キャベツ						改植・代作	5.0	1,874	624	一戸町	
はくさい						改植・代作	2.0	626	208	一戸町	
さといも						改植・代作	23.0	14,924	4,974	北上市	
牧草	改植・代作	20.0	694	197	金ヶ崎町						
計	87.8	34,062	11,313	5市町村							
9月30日	台風26号	2,824.4	155,193	農作物災害復旧対策事業は実施せず <sup>※</sup>							
年度計							124.2	39,176	13,017		
H7	8月2日～7日	大雨洪水	2,784.9	1,338,377	水稲	病害虫防除	1,295.0	15,214	5,056	一関市等4市町村	
	11月7日～9日	暴風雪	1,010.0	293,169	りんご	病害虫防除	23.0	464	154	大東町	
						改植	7.3	6,825	2,272	盛岡市、紫波町、石巻谷町	
						小計	30.3	7,289	2,426	4市町村	
ぶどう	改植	23.0	8,580	2,764	紫波町、石巻谷町、大迫町						
	ぶどう棚復旧	37.1	53,069	17,688	紫波町、石巻谷町、大迫町						
	小計	60.1	61,649	20,452	3市町村						
計	90.4	68,938	22,878	5市町村							
年度計							1,385.4	84,152	27,934		
H10	5月11日	凍霜害	158.7	142,760	ぶどう	薬剤散布	51.5	3,491	1,163	紫波町、大迫町	
	8月26日～9月1日	大雨洪水	2,821.7	1,261,302	水稲	雨よけ被覆	6.9	30,101	10,033	紫波町、大迫町	
						改植	1,949本	3,306	1,102	紫波町、大迫町	
						計	58.4	36,898	12,298	2町	
9月15日～16日	台風5号	850.5	235,454	りんご	病害虫防除	42.6	2,057	685	藤沢町、田野畑村		
年度計						引き起こし	4.6	2,725	908	藤沢町、田野畑村	
						計	47.2	4,782	1,593	2町村	
年度計							1,825.4	58,728	19,570		
H11	7月12日～14日	大雨	705.0	115,411	農作物災害復旧対策事業は実施せず <sup>※</sup>						
	7月下旬～8月中旬	高温乾燥	5,988.1	552,407	農作物災害復旧対策事業は実施せず <sup>※</sup>						
	10月27日～28日	大雨	920.5	217,022	りんどう	改植	0.6	4,365	1,455	軽米町、九戸村	
					スプレーギク	改植	0.1	601	200	九戸村	
年度計						計	0.7	4,966	1,655	2町村	
年度計							0.7	4,966	1,655		
H12	7月4日	降雹	180.1	100,900	葉たばこ	代作	1.5	1,898	632	宮守村	
	7月8日～9日	台風3号	3,061.8	545,492	農作物災害復旧対策事業は実施せず <sup>※</sup>						
年度計							1.5	1,898	632		
H13	4月下旬	凍霜害	1,959.7	1,883,809	キャベツ	改植	8.8	3,129	1,042	岩手町、西根町	
						病害虫防除	613.2	43,202	14,388	二戸市等13市町村	
						代作	0.9	1,164	387	二戸市	
						花粉購入	7.8	157	51	滝沢村、江刺市、軽米町	
小計	621.9	44,523	14,826	13市町村							
おとう	病害虫防除	9.2	1,304	434	二戸市、一戸町						
	西洋なし	病害虫防除	57.5	4,517	1,503	紫波町等4市町村					
	計	697.4	53,473	17,805	14市町村						
8月30日～31日	大雨洪水	1,615.6	173,156	農作物災害復旧対策事業は実施せず <sup>※</sup>							
年度計							697.4	53,473	17,805		
H14	7月10日～11日	台風6号	7,274.9	1,381,338	きゅうり	緊急薬剤散布	1.03	19	6	北上市	
						播き直し	0.07	134	45	北上市	
						ごぼう	代作(キャベツ)	0.6	450	150	北上市
						スイートコーン	代作(キャベツ)	0.87	648	216	北上市
水稲	緊急薬剤散布	314.7	4,160	1,385	川崎村、藤沢町、東山町						
計	317.27	5,411	1,802								
8月	長雨・日照不足	1,467.5	686,136	レタス	緊急薬剤散布	164.0	9,871	3,290	一戸町、岩手町		
					キャベツ	緊急薬剤散布	33.0	791	263	一戸町、岩手町	
					だいこん	緊急薬剤散布	28.18	1,285	428	川井村	
計	225.18	11,947	3,981								
年度計							542.45	17,358	5,783		

年度	農作物被害状況				農作物災害復旧対策事業実施状況					
	月 日	被害の内容	被害面積 (ha)	被害金額 (千円)	対象作物	対策の内容	対象面積 (ha)	事業費 (千円)	補助金額 (千円)	備 考
H15	6月下旬以降	低温・日照不足	95,685.6	32,906,921	水稲	緊急薬剤散布	1,889.4	10,889	3,625	滝沢村等6市町村
						代作	10.9	7,928	2,637	雫石町等6市町村
年度計							1,900.3	18,817	6,262	
H16	4月下旬～5月上旬	凍霜害	532.6	115,327	農作物災害復旧対策事業は実施せず					
	8月20日	台風15号	1,758.8	392,461	農作物災害復旧対策事業は実施せず					
	8月31日	台風16号	1,042.4	209,739	農作物災害復旧対策事業は実施せず					
	9月30日	台風21号	522.7	100,785	農作物災害復旧対策事業は実施せず					
	9月～11月	降雨による品質低下	3,018.6	363,914	農作物災害復旧対策事業は実施せず					
年度計							0.0	0	0	
H17	4月以降	豪雪	970.0	562,000	水稲	生育回復	6.5	1,391	463	沢内村
						りんどう	生育回復	17.5	826	275
年度計							24.0	2,217	738	
H18	6月22日	降雹	68.7	192,883	りんご	緊急薬剤防除	35.0	3,282	1,094	北上市、奥州市（江刺区）
						生育回復対策	35.0	388	129	北上市、奥州市（江刺区）
	10月6～8日	大雨暴風	1,402.9	264,620	農作物災害復旧対策事業は実施せず					
年度計							70.0	3,670	1,223	
H19	6月6～8日	降雹	108.7	127,976	りんご	緊急薬剤散布	29.3	584	194	二戸市
						生育回復対策	29.3	269	89	二戸市
					おうとう	緊急薬剤散布	2.5	363	121	二戸市
						生育回復対策	2.5	103	34	二戸市
	計							63.6	1,319	438
9月17～20日	大雨・洪水	2,975.0	620,553	りんどう	改植	1.0	3,601	1,200	八幡平市、奥州市衣川区	
					大豆	代作	76.8	8,263	2,750	一関市、平泉町
					飼料用稲	代替粗飼料確保	28.2	8,958	2,984	一関市、平泉町
年度計							106.0	20,822	6,934	
H20	4～5月	低温	186.1	110,481	りんご	緊急薬剤防除	20.5	857	285	軽米町
						生育回復対策	20.5	1,405	468	軽米町
加工もも	生育回復対策	16.5	986	329	軽米町					
	計							57.5	3,248	1,082
年度計							57.5	3,248	1,082	
H21	7月10日、13日	強風	134.2	113,632	ホップ	緊急薬剤防除	30.0	1,003	334	遠野市
						生育回復対策	30.0	456	152	遠野市
						計				
	10月8日	台風18号	1,114.33	387,157	りんご	改植	0.279	1,494	498	江刺市
計							29.79	669	223	
年度計							30.069	2,163	721	
H22	7月8日、17～25日	降雹・大雨	273.0	197,391	キャベツ	緊急薬剤防除	5.85	289	96	岩手町
						まき直し	6.00	2,038	679	岩手町
						改植	4.00	2,335	778	岩手町
						代作（大根）	4.47	1,014	337	岩手町
	大根	まき直し	6.89	1,563	520	岩手町				
計							27.21	7,239	2,410	
7月から8月	暑熱			ほうれんそう	まき直し	15.80	2,921	950	岩手町	
年度計							43.01	10,160	3,360	
H23	5月8日	降雹	9.6	15,537	農作物災害復旧対策事業は実施せず					
	6月23～24日	大雨	525.1	54,555	農作物災害復旧対策事業は実施せず					
	9月21～22日	台風15号	2,174.0	417,985	農作物災害復旧対策事業は実施せず					
	年度計							0.0	0	0

1億円以上の被害額となった災害：54災害（S61～H23）  
うち農作物災害復旧対策事業を実施した災害：39災害

※ただし、1億円以上の被害が見込まれたH17の1災害を含む

平成元年以降の農林水産業気象災害

年	災 害 名	農畜産物	農業施設	農地・農業 用施設	農業 被害額計	林業施設	林産・特用 林産物	森 林	林業 被害額計	水産施設	漁船・漁具	養殖施設	水産物	漁港施設	水産業 被害額計	農林水産業 被害額計
元	1月24日～27日にかけての波浪災害													37,430	37,430	37,430
	2月26日大雪災害		4,395		4,395						15,300				15,300	19,695
	3月21日～22日にかけての波浪災害									200	8,180	12,355	390,918	26,888	438,541	438,541
	4月8日～9日及び11日～12日にかけての大雨等災害	1,001	129	265,000	266,130	104,484			104,484							370,614
	5月14日～15日にかけての強風災害	650			650											650
	5月15日の降雪災害	9,110			9,110											9,110
	6月3日の降雹災害	3,434			3,434											3,434
	6月10日～11日にかけての降霜災害	240,701			240,701											240,701
	7月～8月にかけての少雨による被害	468,709			468,709											468,709
	8月15日～16日にかけての台風14号による波浪災害										11,250				11,250	11,250
	8月27日～28日にかけての台風17号による大雨洪水等災害	56,414	7,172	607,000	670,586	19,498			19,498		2,630		800		3,430	693,514
	8月下旬～9月下旬にかけての長雨による被害	401,839			401,839	80,000			80,000							481,839
9月4日～5日にかけての大雨災害					3,883			3,883							3,883	
9月5日～8日にかけての大雨洪水等災害	26,013		665,000	691,013	50,000			50,000							741,013	
9月9日～10日にかけての大雨洪水災害			41,000	41,000	1,379			1,379							42,379	
11月2日の地震、波浪災害			131,000	131,000						1,300	40	3,175		4,515	135,515	
12月15日～16日にかけての波浪災害										1,730				1,730	1,730	
2	4月8日～9日にかけての強風災害		8,559		8,559											8,559
	4月15日～16日にかけての降雪災害	278	5,647		5,925											5,925
	4月22日～23日にかけての大雨洪水災害	5,194		587,000	592,194	108,404			108,404				300		300	700,898
	5月25日の凍霜災害	80,209			80,209											80,209
	6月21日～22日にかけての豪雨災害			20,000	20,000											20,000
	6月26日～28日にかけての豪雨災害	2,145		263,000	265,145											265,145
	7月4日～5日にかけての豪雨災害			21,000	21,000											21,000
	7月17日～19日にかけての大雨洪水災害	23,117		312,000	335,117	30,157		1,799	31,956							367,073
	7月24日の降雹等災害	276,326	550	18,000	294,876											294,876
	7月25日～26日にかけての豪雨災害			59,000	59,000											59,000
	8月10日～11日にかけての台風11号による大雨等災害	14,003	3,119	111,000	128,122	18,186			18,186	18,820					18,820	165,128
	8月16日～18日にかけての豪雨災害			327,000	327,000											327,000
	8月26日の降雹等災害	277,266	5,812		283,078											283,078
	9月3日の豪雨災害			39,000	39,000											39,000
	9月11日～12日にかけての豪雨災害			121,000	121,000											121,000
	9月19日～20日にかけての台風19号による大雨等災害	671,624	1,568	2,930,000	3,603,192	400,461		100,320	500,781	22,080	65,428	8,400	13,095		109,003	4,212,976
	10月24日の波浪災害									3,080	146,031	3,300	7,320		159,731	159,731
	10月26日～27日にかけての大雨等災害	20,209		905,000	925,209	295,380		26,402	321,782							1,246,991
	11月4日～5日にかけての大雨洪水等災害	99,507	13,332	3,747,000	3,859,839	1,794,597	6,172	381,635	2,182,404	10,518	134,530	43,174	187,116	720,267	1,095,605	7,137,848
11月11日～12日にかけての強風災害	13,994			13,994											13,994	
11月30日～12月1日にかけての台風28号から変わった温帯低気圧による大雨等災害		4,404	3,000	7,404					3,820	31,940	18,435	84,744		138,939	146,343	
3	1月19日の波浪災害										2,600				2,600	2,600
	2月15日～17日にかけての低気圧災害	24,089	48,692	10,000	82,781			2,954,892	2,954,892	483,419	391,886	554,518	3,586,701	2,781,730	7,798,254	10,835,927
	2月28日～3月1日にかけての強風災害	8,437	21,105		29,542											29,542
	3月6日～7日にかけての強風災害		1,690		1,690											1,690















年	災 害 名	農畜産物	農業施設	農地・農業 用施設	農業 被害額計	林業施設	林産・特用 林産物	森 林	林業 被害額計	水産施設	漁船・漁具	養殖施設	水産物	漁港施設	水産業 被害額計	農林水産業 被害額計
18	平成18年豪雪災害	17,227	505,764	13,000	535,991	5,039	500	234,538	240,077							776,068
	2月の低温災害			36,000	36,000											36,000
	3月20日強風災害		18,787		18,787											18,787
	4月11日地すべり災害					10,000			10,000							10,000
	4月21日地すべり災害					9,724			9,724							9,724
	5月16日落雷災害			3,000	3,000											3,000
	6月22日降雹災害	192,823	60		192,883											192,883
	8月12日降雹災害	146			146											146
	8月上旬の高温災害	7,141			7,141											7,141
	8月18日大雨災害	88		110,000	110,088											110,088
	8月22日大雨災害			20,000	20,000											20,000
	8月30日大雨災害					17,000			17,000							17,000
	9月5日台風12号災害					1,193,409		20	1,193,429	9,310	290,032	27,478	49,950	265,570	642,340	1,835,769
	10月6日から8日の低気圧による大雨、暴風、高波災害	270,278	66,976	1,530,000	1,867,254	995,394	300	98,107	1,093,801	56,626	3,090,816	134,766	436,783	1,812,780	5,531,771	8,492,826
	11月7日の強風災害	22,126	900		23,026											23,026
	11月15日千島列島の地震に伴う津波災害										600	190			790	790
	11月22日から23日の強風災害	4,820	13,664		18,484											18,484
12月26日から28日の低気圧災害	3,912	13,217	117,000	134,129	816,512		2,804	819,316	12,050	11,309	1,500		7,330	32,189	985,634	
19	1月6日から8日の低気圧災害		2,463	22,000	24,463	500		304	804	310	4,500	670	4,910		10,390	35,657
	1月27日から28日にかけての大雪災害	813	460		1,273											1,273
	2月4日の強風災害		230		230											230
	2月15日から16日にかけての強風災害		80		80											80
	3月11日の大雪災害		21,253		21,253											21,253
	4月26日の強風災害		21		21											21
	5月10日の強風災害		222		222											222
	6月6日から8日の降雹災害	127,976	270		128,246											128,246
	6月25日の降雹災害	8,267			8,267											8,267
	6月29日の大雨災害			5,000	5,000											5,000
	8月6日の降雹災害	47,228	213		47,441											47,441
	8月22日の大雨災害			7,000	7,000	3,800			3,800							10,800
	9月7日の台風9号災害	161,562	12,178	629,000	802,740	370,981			370,981	1,000	4,700	7,715	17,210	18,300	48,925	1,222,646
9月10日の大雨災害			69,000	69,000	8,000			8,000							77,000	
9月17日から20日の大雨・洪水災害	621,193	6,656	1,139,000	1,766,849	527,376			527,376	900	480	1,445	7,000		9,825	2,304,050	
5月から9月の暑熱による災害	20,272			20,272											20,272	
11月10日から13日の低気圧災害	107		18,000	18,107						1,150				1,150	19,257	





年	災 害 名	農畜産物	農業施設	農地・農業 用施設	農業 被害額計	林業施設	林産・特用 林産物	森 林	林業 被害額計	水産施設	漁船・漁具	養殖施設	水産物	漁港施設	水産業 被害額計	農林水産業 被害額計
23	12月30日から1月2日にかけての大雪、暴風、波浪災害	110,094	1,221,712		1,331,806	163,109	106,267	405,441	674,817	132,585	1,489,071	295,959	1,863,657	1,782,588	5,563,860	7,570,483
	1月20日の大雪災害		3,000		3,000											3,000
	1月31日から2月2日にかけての大雪災害	732	37,919		38,651											38,651
	3月9日の地震・津波災害		30		30							1,050			1,050	1,080
	3月11日の東日本大震災津波	1,982,523	2,865,268	63,919,000	68,766,791	22,146,124	753,935	6,717,232	29,617,291	36,574,970	49,397,146	13,086,648	13,173,757	452,704,566	564,937,087	663,321,169
	4月13日の強風災害		1,582		1,582											1,582
	4月19日から20日にかけての大雪災害		2,156		2,156											2,156
	5月2日の強風災害		27,170		27,170											27,170
	5月8日の降雹、強風災害	15,537	625		16,162											16,162
	5月14日の強風災害		160		160											160
	5月16日の強風災害		250		250											250
	5月30日の強風災害		55		55											55
	6月23日から24日にかけての大雨災害	54,555	5,750	389,000	449,305	299,351	1,000	29,500	329,851							779,156
	6月27日から28日にかけての大雨災害							888	888							888
	7月23日の地震災害		11,367		11,367											11,367
	8月20日の大雨災害			45,000	45,000											45,000
	7月から9月にかけての暑熱災害	30,652			30,652											30,652
	9月4日の台風12号による災害		100		100											100
	9月21日から22日にかけての台風15号による災害	429,985	19,527	1,278,000	1,727,512	318,994	2,300	663,962	985,256	10,281	175,630		15,315	12,700	213,926	2,926,694
	12月3日から4日にかけての強風、波浪災害	831	29,858		30,689							500			500	31,189